２０２２年度
歯科衛生学科
シラバス

■目次

1年生　カリキュラムツリー …… 5

1年生　教育課程（カリキュラムマップ） …… 6

1年生　年間予定表 …… 7

1年生　シラバス …… 9

開講科目	頁
日本語表現法	9
法律入門	10
現代の社会	11
コミュニケーション演習	12
心理学	13
情報処理	14
化学	15
解剖学	16
生理学	17
組織発生学	18
口腔解剖学	19
口腔生理学	21
歯牙解剖学	22
病理学	23
微生物学	24

開講科目	頁
薬理学	25
栄養学	26
衛生学・公衆衛生学	27
口腔衛生学	28
歯科衛生士概論	30
歯内療法学	31
保存修復学	32
歯科予防処置法	33
保健指導論	35
保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）	36
歯科診療補助法（基礎知識）	37
歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）	39
感染予防法	41
臨地実習Ⅰ（臨床基礎）	42

2年生　カリキュラムツリー …… 45

2年生　教育課程（カリキュラムマップ） …… 46

2年生　年間予定表 …… 47

2年生　シラバス …… 49

開講科目	頁
英語Ⅱ	49
暮らしの中の法律	50
生化学	51
地域福祉保健	52
衛生行政・社会保障	54
社会福祉論	55
歯周療法学	56
歯科補綴学	57
口腔外科学	58
歯科矯正学	59
小児歯科学	60
高齢者口腔保健学	61

開講科目	頁
障害者口腔保健学	62
歯科放射線学	63
う蝕予防処置法（臨床基礎）	64
歯周病予防法（臨床基礎）	65
保健指導演習Ⅱ（臨床応用）	67
口腔リハビリテーション論	69
歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）	70
臨床検査法	72
介護技術の基礎	73
歯科医療請求事務	74
臨地実習Ⅱ（臨床応用）	75
臨地実習指導（臨床応用）	77

3年生　カリキュラムツリー …… 81

3年生　教育課程（カリキュラムマップ） …… 82

3年生　年間予定表 …… 83

3年生　シラバス …… 85

開講科目	頁
心理学	85
臨床医学	86
人間関係論	87
口腔衛生管理	88
う蝕予防処置法（臨床応用）	89
歯周病予防法（臨床応用）	90
保健指導演習Ⅲ（臨床総合）	92
口腔リハビリテーション演習	94

開講科目	頁
歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）	95
救急法・救急蘇生法	97
審美歯科演習	98
臨地実習Ⅲ（臨床総合）	99
臨地実習指導（臨床総合）	101
歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）	102
歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）	103

ナンバリング …… 106

教員一覧 …… 109

オフィスアワー、成績評価 …… 110

実務経験を有する教員の科目一覧 …… 111

歯科衛生学科
１年生
（２０２２年度入学生）

- ■　カリキュラムツリー
- ■　カリキュラムマップ
- ■　年間予定表
- ■　シラバス

2022年度歯科衛生学科1年生　カリキュラムツリー

教養教育分野
専門支持科目
専門展開科目（講義）
専門展開科目（演習）
専門展開科目（関連分野）(講義、演習）
実習

1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期
臨地実習Ⅰ（臨床基礎）		臨地実習Ⅱ（臨床応用）		臨地実習Ⅲ（臨床総合）	
		臨地実習指導（臨床応用）		臨地実習指導（臨床総合）	
歯科予防処置法		歯周病予防法（臨床基礎）		歯周病予防法（臨床応用）	
		う蝕予防処置法（臨床基礎）		う蝕予防処置法（臨床応用）	
保健指導論	保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）	保健指導演習Ⅱ（臨床応用）		保健指導演習Ⅲ（臨床総合）	
歯科診療補助法（基礎知識）	歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）	歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）		歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）	
歯科衛生士概論		介護技術の基礎	臨床検査法	口腔衛生管理	救急法・救急蘇生法
					審美歯科演習
			口腔リハビリテーション論	口腔リハビリテーション演習	
	歯内療法学	歯科補綴学	歯周療法学	歯科衛生研究法Ⅰ(臨床基礎)	歯科衛生研究法Ⅱ(臨床応用)
	保存修復学	口腔外科学			
		歯科矯正学			
		小児歯科学			
感染予防法		高齢者口腔保健学	障害者口腔保健学		
		歯科放射線学			
解剖学					
口腔解剖学					
生理学	口腔生理学	生化学			
組織発生学	歯牙解剖学				
栄養学	病理学	地域保健・保健統計		一般臨床医学	
衛生学・公衆衛生学	微生物学	衛生行政・社会福祉・社会保障		人間関係論	
	薬理学				
口腔衛生学					
日本語表現法	現代の社会	英語Ⅰ		英語Ⅱ	医療手話
法律入門	コミュニケーション演習				
心理学					
情報処理					スポーツレクリエーション
化学					

２０２２年度歯科衛生学科１年　カリキュラムマップ

学修成果（到達目標）

1 【基　礎　力】：一般教養並びに各専門分野の基礎的能力
①全身と口腔の健康を理解し、歯科衛生士として必要な基本的な知識を身につける。
②口腔疾患の原因、病態、予防方法を理解し、歯科衛生士としての専門性を理解し応用できる能力を身につける。
③自らの健康管理ができ、社会人として責任を果たすことができる。

2 【実　践　力】：各分野の実際の場面に対応できる力
①疾病予防のために必要な情報を収集し、問題解決のための基本的な施術や適切な口腔衛生指導ができる。
②安全で効果的な歯科医療を提供するため、基本的な技術を身につけ実践できる。
③社会人として、また医療従事者として倫理観をもって行動できる。

3 【人間関係力】：専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力
①社会人としての責任感を自覚し周囲と良好な人間関係を築くことができる。
②保健・医療・福祉チームの中で果たす役割を理解し、他者と連携しながら歯科衛生士の役割・責任を担うことができる。
③他者との関わりの中で、自らの課題を見つける客観性と、改善・解決できる柔軟性を身につける。

4 【生涯学習力】：生涯にわたって学び、成長できる力
①学修内容に興味や関心をもち、主体的、意欲的に取り組むことができる。
②専門職者として歯科医療における問題点をみつけ、自己学修によって解決できる。
③専門職者として常に謙虚で自己の成長に努めることができる。

5 【地域理解力】：地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力
①地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感を持って積極的に行動できる。
②地域の文化、人々の生活に興味、関心をもち、地域住民の視点にたちコミュニケーションをとることができる。

学修成果　：　1 基礎力　2 実践力　3 人間関係力　4 生涯学習力　5 地域理解力

学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。
●は、各授業科目が学修成果の1～5のどれに当てはまるかを表すものです。

科目区分			授業科目の名称	授業回数	履修年次																					単位数	
					１年		学修成果					２年		学修成果					３年		学修成果					必	選
					前	後	1	2	3	4	5	前	後	1	2	3	4	5	前	後	1	2	3	4	5		
教養教育分野	人間と文化		日本語表現法	15	○		●																			1	
			英語Ⅰ	15								○		●												1	
			英語Ⅱ	10															○		●					1	
			医療手話	10																○		●	●			1	
	人間と社会		法律入門	15	○		●																			2	
			現代の社会	15		○	●																			2	
			コミュニケーション演習	10		○		●	●																	1	
			心理学	10	○		●		●																		1
	人間と科学		情報処理	15	○		●																			1	
			化学	10	○		●																				1
			スポーツレクリエーション	10																○	●	●					1
専門教育分野	専門支持科目	人体の構造と機能	解剖学	15	○		●																			2	
			生理学	15	○		●																			1	
			組織発生学	10	○		●																			1	
		歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学	20		○	●																			2	
			口腔生理学	15		○	●																			2	
			歯牙解剖学	10		○	●																			1	
		疾病の成り立ちと回復	病理学	15		○	●																			1	
			微生物学	15		○	●																			1	
			薬理学	15		○	●																			1	
			栄養学	10	○		●																			1	
			生化学	10								○		●												1	
			一般臨床医学	10															○		●					1	
		健康と予防に関わる人間の社会の仕組み	衛生学・公衆衛生学	15	○		●																			1	
			口腔衛生学	30		○	●																			2	
			地域保健・保健統計	20									○	●												2	
			衛生行政・社会福祉・社会保障	20									○	●												2	
			人間関係論	10															○		●		●				1
	専門展開科目	歯科衛生士概論	歯科衛生士概論	15	○		●			●																2	
		臨床歯科医学	歯内療法学	10		○	●																			1	
			保存修復学	10		○	●																			1	
			歯周療法学	15									○	●												1	
			歯科補綴学	15								○		●												1	
			口腔外科学	15								○		●												1	
			歯科矯正学	15								○		●												1	
			小児歯科学	15								○		●												1	
			高齢者口腔保健学	10								○		●												1	
			障害者口腔保健学	10									○	●												1	
			歯科放射線学	15								○		●												1	
			口腔衛生管理	10															○		●						1
		歯科予防処置論	歯科予防処置法	30		○	●																			2	
			う蝕予防処置法（臨床基礎）	10								○		●	●											1	
			歯周病予防法（臨床基礎）	30									○	●	●											2	
			う蝕予防処置法（臨床応用）	10															○			●				1	
			歯周病予防法（臨床応用）	20																○		●				2	
		歯科保健指導論	保健指導論	15	○		●																			1	
			保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）	15		○		●	●																	1	
			保健指導演習Ⅱ（臨床応用）	30									○		●	●										2	
			保健指導演習Ⅲ（臨床総合）	30																○		●	●			2	
			口腔リハビリテーション論	10									○	●												1	
			口腔リハビリテーション演習	10															○			●					1
		歯科診療補助論	歯科診療補助法（基礎知識）	20	○		●																			2	
			歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）	20		○	●	●																		2	
			歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）	30									○		●	●										2	
			歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）	20																○		●	●			2	
			感染予防法	10	○		●	●																		1	
			臨床検査法	10									○	●	●											1	
			救急法・救急蘇生法	15																○	●	●				1	
			介護技術の基礎	15								○		●	●											1	
			審美歯科演習	10																○	●	●					1
		実習	臨地実習Ⅰ（臨床基礎）	集中		○	●	●	●																	4	
			臨地実習Ⅱ（臨床応用）	集中									○		●	●	●	●								8	
			臨地実習指導（臨床応用）	15									○		●	●	●									1	
			臨地実習Ⅲ（臨床総合）	集中																○		●	●	●	●	8	
			臨地実習指導（臨床総合）	15																○		●	●	●		1	
		特別科目	歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）	15															○		●						1
			歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）	15																○	●						1
総計（卒業要件100単位以上）																										93	9

2022年度　歯科衛生学科1年生　年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月											1		2	
	3		4		5	白衣採寸	6	入学式	7	オリエンテーション	8	オリエンテーション	9	
	10		11		12	健康診断	13		14		15		16	
	17		18		19		20		21		22		23	
	24		25		26		27		28	合同交流会	29	昭和の日	30	
5月	1		2		3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6		7	
	8		9		10		11		12		13		14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23		24		25		26		27		28	
6月	29		30		31		1		2		3		4	
	5		6		7	見学実習	8	見学実習	9	見学実習	10		11	
	12		13		14		15		16		17		18	
	19		20		21		22		23		24		25	
	26		27		28		29		30		1		2	
7月	3		4		5		6		7		8		9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18	海の日	19		20		21		22		23	
	24		25		26		27		28		29		30	
8月	31		1		2		3	定期試験	4	定期試験	5	定期試験	6	
	7		8	定期試験	9	定期試験	10	追試験	11	山の日	12	お盆休み	13	
	14		15	お盆休み	16	お盆休み	17	夏休み	18	夏休み	19	夏休み	20	
	21		22	夏休み	23	夏休み	24	夏休み	25	不合格発表	26	夏休み	27	
9月	28		29	再試験	30	再試験	31	再試験	1	再試験	2	夏休み	3	
	4		5	夏休み	6	夏休み	7	夏休み	8	夏休み	9	夏休み	10	
	11		12		13		14		15		16		17	
	18		19	敬老の日	20		21		22		23	秋分の日	24	
	25		26		21		28		29		30			

※振替授業日、追試験の日程、再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2022年度　歯科衛生学科1年生　年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
10月													1	
	2		3		4		5		6		7		8	
	9		10	スポーツの日	11		12		13		14		15	
	16		17		18		19		20		21		22	
	23		24		25		26		27		28		29	せいよう祭
11月	30		31		1		2		3	文化の日	4		5	
	6		7		8		9		10		11		12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21		22	上杉山通小	23	勤労感謝の日	24	上杉山通小	25	合同交流会	26	
12月	27		28		29		30		1		2		3	
	4		5		6		7		8		9		10	
	11		12		13		14		15		16		17	
	18		19		20		21		22		23		24	
	25		26	冬休み	27	冬休み	28	冬休み	29		30		31	
1月	1		2		3		4	冬休み	5	冬休み	6	冬休み	7	
	8		9	成人の日	10	定期試験	11	定期試験	12	定期試験	13	定期試験	14	
	15		16	定期試験	17	追試験	18	臨床実習	19	臨床実習	20	臨床実習	21	
	22		23	臨床実習	24	臨床実習	25	臨床実習	26	臨床実習	27	臨床実習	28	
2月	29		30	臨床実習	31	臨床実習	1	予備日	2	予備日	3	不合格発表	4	
	5		6	臨床実習	7	臨床実習	8	臨床実習	9	臨床実習	10	臨床実習	11	建国記念日
	12		13	臨床実習	14	臨床実習	15	臨床実習	16	臨床実習	17	臨床実習	18	
	19		20	臨床実習	21	予備日	22	予備日	23	天皇誕生日	24		25	
3月	26		27		28	春休み	1	再試験	2	再試験	3	再試験	4	
	5		6	再試験	7	春休み	8	春休み	9	春休み	10	春休み	11	
	12		13	春休み	14	春休み	15	春休み	16	春休み	17	春休み	18	
	19		20	春休み	21	春分の日	22	春休み	23	春休み	24	春休み	25	
	26		27	春休み	28	春休み	29	春休み	30	春休み	31	春休み		

※振替授業日、追試験の日程、再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
CO-0-HCU-01

科目名	日本語表現法				単位認定者	徳田　幸雄		評価の方法	授業内課題（チェックテスト）	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び，論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び，日本語運用の基本を身に付ける。その上で，書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ，自らも表現し，相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを目指す。
到達目標	日常生活において，適切な言葉で表現・伝達できる力を身につける。 ・日本語の特徴を理解するとともに、正しい敬語表現を身につける。 ・目的に合わせた文章（文書）作成ができるようになる。
学修者への期待等	日本語を知ることは日本文化を知ることでもある。社会人のための教養という面だけではなく，自らの文化を再認識・再評価し，さらには自身のルーツを見つめ直す機会としてもらいたい。

回	授業計画	準備学修
1	ガイダンス 世界から見た日本語の特徴	日本語と英語との相違を考えてみよう。(10分程度)
2	日本語の歴史	前回のチェック・テストの復習。(10分程度)
3	ことばと表現①(熟語、語句)	前回のチェック・テストの復習。(10分程度)
4	ことばと表現②(ことわざ、故事成語)	前回のチェック・テストの復習。(10分程度)
5	敬語表現①(敬語の基本)	前回のチェック・テストの復習。(10分程度)
6	敬語表現②(尊敬語と謙譲語)	前回のチェック・テストの復習。(10分程度)
7	修飾語と被修飾語との関係	前回のチェック・テストの復習。(10分程度)
8	修飾語と被修飾語との関係(練習問題)	前回のチェック・テストの復習。(10分程度)
9	句読点の打ち方(原則論)	前回のチェック・テストの復習。(10分程度)
10	句読点の打ち方と文章要約(述語への着目)	前回のチェック・テストの復習。(10分程度)
11	句読点の打ち方と文章要約(必要な点と不要な点)	前回のチェック・テストの復習。(10分程度)
12	句読点の打ち方と文章要約(境界の点)	前回のチェック・テストの復習。(10分程度)
13	句読点の打ち方と文章要約(逆転の点)	前回のチェック・テストの復習。(10分程度)
14	句読点の打ち方と文章要約(自由の点)	前回のチェック・テストの復習。(10分程度)
15	文章の構成	

教科書	プリントを配布する。
参考文献	『日本語の作文技術（朝日文庫）』本多勝一著（朝日新聞出版） 『大学生のための日本語表現実践ノート』米田明美他著（風間書房）
備考	講義はすべて遠隔（オンデマンド）で実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
CO-0-HSO-04

科目名	法律入門				単位認定者	山口　元気		評価の方法	講義内課題	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	１年	開講時期	前期	単位数	2　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	社会生活をしていく上で必要な基本的な法律について学修する。特に日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げて、問題点、解決方法、回避方法など、具体的な事例を通じて理解し身につけていく。
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し，説明できる。身近な法律問題の学修を通じて，自ら問題を解決するための思考方法を養う。
学修者への期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思いますので，復習を中心に取り組んで下さい。 法律用語と日常用語の違い，授業内で扱った事例や問題は，重点的に復習すること。その際，結論だけでなく理由も説明できるようにしておくこと。授業で意見を求められた場合には，積極的に発言すること。

回	授業計画	準備学修
1	法律の種類と法律を学ぶ意味	
2	憲法，民法，刑法のそれぞれ特徴と違い	【事前】憲法，民法，刑法の違いについて考えてみること。（概ね３０分）
3	憲法（１）総論，基本的人権 ―平等権，精神的自由等―	【事前】「憲法」と「法律」の違いについて考えてみること。また，「公共の福祉」とはどのような状態を指すのか，自分なりに考えておくこと。（概ね１時間）
4	憲法（２）基本的人権 ―経済的自由，その他の人権―	
5	憲法（３）統治機構	【事前】憲法改正や憲法９条についてなど，最近話題になっている憲法上の時事問題について，自分なりに考えておくこと。（概ね３０分）
6	民法（１）総則	
7	民法（２）物権，担保物権	
8	民法（３）債権（保証，契約）	【事前】「保証人」と「連帯保証人」の責任の違いについて調べておくこと。また，「契約」にはどのような種類があるか，考えてみること。（概ね１時間）
9	民法（４）債権（債務不履行，不法行為）	
10	民法（５）親族，相続	【事前】家族の家系図を図に書いて授業に持参すること。（概ね１５分）
11	消費者契約法、割賦販売法	
12	特定商取引法（特定商取引に関する法律）	
13	インターネットに関する法律	
14	道路交通法	
15	まとめ（総復習、小テスト）	

教科書	特に指定しない。必要に応じてレジュメや資料を配付する。
参考文献	（憲法）『いちばんやさしい憲法入門　第５版』初宿正典他著，有斐閣アルマ （民法）『民法への招待　第５版』池田真朗著，税務経理協会　他，適宜講義内で紹介する。
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。授業内容は，進度に応じて変更する場合がある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
C0-0-HS0-03

科目名	現代の社会				単位認定者	吉田　理		評価の方法	試験(レポート)	60　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2　単位		授業内課題等	20　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	20　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	現代の日本が世界の中でどのような立場にあるか、初めに日本及び主な国の文化・思想・宗教ならびに近代の歴史を学ぶことから理解をする。そのうえで政治・経済の視点を軸にして現代の日本の様々な問題点について学修し、現代の社会を生きるために不可欠な基本知識を身につけ、社会生活において適切な選択や判断ができることを目指す。
到達目標	取り上げるテーマは、いずれも社会人として当然備うるべき常識と考えられる事項である。社会生活自体はもちろんのこと就職活動における面接等でそれらについて問われた際に、概略と自身の考えを述べられるようになることを目標とする。
学修者への期待等	「自立した大人」になるための下地を作ってほしいという観点から、各人の専攻に関わらず社会人として当然知っておくべき事項を取り上げる。一般的な知識を修得し、良き職業人を目指すという意欲をもって受講してほしい。

回	授業計画	準備学修
1	「現代の社会」導入(現代世界概観-文化と思想)	私たちを取り巻く現代社会について、その特徴を列挙し考察すること。当日配信する確認テストに備えること。(30分程度)
2	現代社会の誕生(特に近現代日本と大衆社会)	前回の講義内容(「現代の社会」導入)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
3	現代社会の特質(特に生命科学と情報技術)	前回の講義内容(現代社会の誕生)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
4	現代社会と人間の本質(特に自己形成)	前回の講義内容(現代社会の特質)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
5	日本国憲法の基本的性格(特に社会権・参政権)	前回の講義内容(現代社会と人間の本質)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
6	日本の政治機構と政治参加(特に地方自治と政党政治)	前回の講義内容(日本国憲法の基本的性格)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
7	現代の経済社会(特に財政と金融) 附、レポート作成に当たって(説明)	前回の講義内容(日本の政治機構と政治参加)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
8	少子高齢化と国民の福祉(その原因と対策、社会保障の概要について)	前回の講義内容(現代の経済社会)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
9	消費者問題(消費者問題の歴史、消費者を保護するための制度について)	前回の講義内容(少子高齢化と国民の福祉)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
10	労働問題(日本の労働事情や労働関係法規・制度、労働格差について) 附、レポート作成に当たって(再度)	前回の講義内容(消費者問題)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
11	現代社会の特質・補足(生命科学)	前回の講義内容(労働問題)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
12	日本の政治機構と政治参加・補足1(選挙制度と世論)	前回の講義内容(生命科学)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
13	日本の政治機構と政治参加・補足2(裁判と司法権)	前回の講義内容(選挙制度と世論)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
14	現代の経済社会・補足(日本の財政課題)	前回の講義内容(裁判と司法権)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
15	日本の社会保障制度と環境問題 附、レポート作成に当たって(最終)	前回の講義内容(日本の財政課題)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)

教科書	『2022小論文頻出テーマ解説集　現代を知るplus』第一学習社
参考文献	『別冊NHK 100分de名著 読書の学校 特別授業　君たちはどう生きるか』池上彰著 (NHK出版(2017) 各項目について報道している日刊新聞(購読していない場合は各社のweb版でも可。ただし不特定者によるまとめ記事はむしろ不可)
備考	講義は全て遠隔(オンデマンド)で実施するが、板書を中心に進めるのでノートを準備すること。 成績の主は試験の代わりとして課されるレポート作成であり、単位認定の必須事項となる(未提出は認定しない)。 確認テストのうち任意の回は授業内課題として成績に加える。(課題の解説は次回講義の際に講義内で行なう)。 受講態度は、確認テスト解答送信で判断する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●		

科目ナンバリング
DH-0-HSO-01

科目名	コミュニケーション演習				単位認定者	鈴木　優子		評価の方法	試験（筆記）	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題等	30　%
						授業時間数	20　時間			
				授業形態	演習	授業回数	10　回			

授業の概要	教養を形成する上で、礼儀・作法をはじめとして型から入ることによって身体感覚として身につけられる修養的教養は重要な意義をもっている。社会人としてビジネスマナーのみならず、医療や介護の現場で必要とされる接遇やマナーを身につけるために、グループワークやロールプレイングなどの演習を中心に学んでいく。
到達目標	社会人としての一般常識と医療職者としてのマナーを演習を通じて身につけ、さらに患者接遇の基礎知識やマナーについて実践できる能力を修得する。
学修者への期待等	幅広い年代の患者様との接遇に備え、専門分野のみならず幅広い知識と洞察力を養ってほしい。日頃から適切なマナーを心がけ、コミュニケーション能力向上を目標に授業以外でも常に実践していただきたい。

回	授業計画	準備学修
1	コミュニケーションの重要性を理解し、ビジネスで求められるコミュニケーション能力とは何かを理解する	あなたの考える「コミュニケーション」とは、どのようなものか？また、日常生活で気になっていることはないか？を考え、まとめてきてください。
2	多様な価値観（人によって価値観はさまざまであることを理解し、他を思いやる必要性を認識する）	マナー、仕事、和、自我、結婚、給料、育児、出世の8項目について、あなたの語句の解釈と価値観の順位を考えてきてください。（約1時間）
3	多様な価値観（多数決ではなく、話し合いの上で結論を導き出し、グループ全員で結果発表する）	
4	言葉遣い（敬語の必要性を理解し、各場面での敬語表現を演習する）	
5	電話応対（様々なケースに対応できるよう実践力を高める）	
6	電話応対（伝言メモの作成などで応用力を高める）	
7	社会人としてのマナーを身につける（患者接遇の基礎知識やマナーについて実践できる能力を修得する）	
8	ビジネス文書（礼状作成を通して、決まりごとを理解する）	
9	プレゼンテーションのテクニック（分かりやすく伝えることを学ぶ）	
10	プレゼンテーションのテクニック（分かりやすく伝えることを主目的にスピーチする）	「今、伝えたいこと」、「私の希望」、「自己紹介」の3項目から1つを選び、2分間でスピーチできるよう練習してきて下さい。（本番では、原稿を持ってのスピーチはできません）

教科書	教科書は使用せず、配布するプリントでの講義、演習となります。
参考文献	『即戦力になる！！　ビジネスコミュニケーション　第2版』箱田忠昭著、日経BP社 『コミュニケーション基本テキスト』五十嵐健著、日本能率協会マネジメントセンター
備考	授業内課題として、小テスト採点後、授業内で総括する。また、各演習を通して習熟度を総括する。2クラスに分かれて授業を実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●		

科目ナンバリング
DH-0-HSO-02

科目名	心理学				単位認定者	坂井　信之		評価の方法	試験（レポート）	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	１年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題	10　%
	歯科衛生学科	選択	３年			授業時間数	20　時間		受講態度	20　%
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	人間を理解するため，自分をより知るために，心理学という学問を体系的に学ぶ。認知心理学をはじめ，認知発達及び社会発達，パーソナリティー，社会心理学といった主な領域を中心に，心理学全般における理解と基礎的知識の修得を目指す。
到達目標	心理学の基礎的知識を修得し、実際の医療現場や実生活でその知識を役立てることができるようになる。日常的な食行動を心理学の観点から理解できる。食行動に関する知識を身に付けることによって、QOLの向上に対する理解を高める。
学修者への期待等	授業の前後にその日に学修する(した)事項についての予習と復習が必要となります。予習は配布資料を読むこと、復習はその日に修得した知識を友人や家族と話しながら、理解を深めることです。また、毎授業後に小レポートを課しますので、授業中に理解できないところなどあれば積極的に質問してください。

回	授業計画	準備学修
1	授業ガイダンスと心理学への導入	血液型で性格が決まるかどうかについて身の回りの人と話し、自分の考えをまとめておいてください。（概ね30分くらい）
2	知覚（五感と「味」）	食べ物を味わいながら、その「味」がどの感覚なのか考えてみてください。　（概ね20分くらい）
3	感情（おいしさと錯誤帰属）	食べ物を味わいながら、そのおいしさの理由について考えてみてください。　（概ね20分くらい）
4	記憶（記憶の仕組みと誤った記憶）	自分の一番小さい頃の記憶について思い出し、その記憶がどのくらい正しいかについて養育者の方の記憶と照合してください。　（概ね60分くらい）
5	欲求・動機・意欲（欲求階層説と心理社会的発達理論）	子どものときに好きだった食べ物、家族が好きな食べ物などをリストアップし、それぞれにどのような違いがあるか考えてみてください。　（概ね40分くらい）
6	香りの心理学（体臭からアロマセラピーまで）	自分の好きな香りを嗅いでいるときの心と体（心拍、体温、呼吸など）の変化について考えてみてください。（概ね20分くらい）
7	対人関係（第一印象とハロー効果）	第一印象を良くするためにどのような工夫が効果的かについて幅広い（年齢や性別など）人の意見を参考にしながら、考えてみてください。　（概ね60分くらい）
8	恋愛の社会心理学（遺伝子からアイデンティティまで）	恋愛観についていろいろな人と話し合って、恋愛対象の条件、恋愛のメリットなどについて考えてください。（概ね60分くらい）
9	心と体の健康（ダイエットと自尊心）	心と体を健康的に美しく維持するためにはどのような食習慣が効果的かについて考え、普段の食習慣との違いについて考えてください。　（概ね20分くらい）
10	応用心理学とQoLの向上	授業で学んだことを総括し、これからの自分の生き方がどのように変わっていくかについて考えてください。（概ね30分くらい）

教科書	『香りや見た目で脳を勘違いさせる　毎日が楽しくなる応用心理学』坂井信之著、株式会社かんき出版
参考文献	『心理学の視点25』東北大学心理学講座編、株式会社国際文献社
備考	授業は遠隔(オンデマンド)で実施する。授業は原則としてパワーポイント(スライド)形式となる。小レポート課題のフィードバックは次回の授業に行います。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
CO-0-HSC-01

科目名	情報処理				単位認定者	氏家　留美子		評価の方法	試験（筆記）	50　%
対象学科 必修･選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	１年	開講時期	前期	単位数	１　単位		授業内課題	20　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	30　%
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて，文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて，パソコンをコミュニケーションツール，ビジネスツールとして活用する能力を養う。また，パソコンを使う者のマナー，情報保護の意識等も学修する。
到達目標	パソコンの基本操作を修得し，業務内でWord・Excel・PowerPointが効率的に使用出来ることを目標とする。 ◆Word：書式設定や印刷設定を適切に使える。表・図形・写真を取り入れた表現力のある文書を作成できる。 ◆Excel：書式設定をして表を整えることができる。適切な計算式や関数を使える。グラフを作成できる。 ◆PowerPoint：プレゼンテーションについて理解し，訴求力のあるスライド作成とスライドショー実施ができる。
学修者への期待等	パソコンの基本操作から行う。操作が苦手な者は，これを機に操作が出来るようにすること。 操作が出来る者であっても，自分にとって不足しているスキルはより向上するよう学修すること。 操作がわからない部分はそのままにせず，演習中に巡回をするので質問をして確認すること。 教材データを保存するために，USBメモリを授業２回目以降で使用する。授業１回目の時にUSBメモリについては詳しく説明するので，２回目の授業までに各自準備しておくこと。

回	授業計画	準備学修
1	基礎知識：Windowsの基本操作 Word：入力方法・ビジネス文書入力・保存	【予習について】 マウス操作・入力操作は各自できるようにして授業に臨むこと。特に入力操作が苦手な場合は，タイピングの練習をして技術を向上させること。 （30分程度） 【復習について】 Word・Excelは，はじめは基礎内容から入り，段階的に応用内容に進んでいくため，各回の内容をしっかりと身につけ，次の授業へ臨むこと。 授業内に完成しなかった作成物は，次回までに完成しておくこと。 これまでの経験によって，パソコンスキル（技能）は各人で異なるため，自分の現在のスキルを把握し，学修したパソコン操作が身についていないと感じる場合は，授業で作成したものを繰り返し操作して復習すること。 （各自のスキルにより30分～1時間程度）
2	Word：文書の書式設定・印刷設定	
3	Word：表を取り入れた文書の作成	
4	Word：段落の網かけ・均等割り付け・ルビ・囲い文字・傍点・段組み・ヘッダーフッター	
5	Word：イラスト・写真・ワードアート・図形描画	
6	Word：レポートなどの長文作成時の効率的な機能 情報保護：情報セキュリティ・著作権に関しての知識	
7	PowerPoint：スライドの作成・アニメーションの設定 スライドショーの実施方法・印刷設定	
8	PowerPoint：図解表現の手法・指示するテーマを元に課題の作成	
9	Excel：入力と編集方法・数式や関数（SUM・AVERAGE）・書式設定・行列操作・表示形式・保存・印刷設定	
10	Excel：相対参照と絶対参照の使い分けをした数式	
11	Excel：基本的な関数（MAX・MIN・COUNT・COUNTA）	
12	Excel：グラフ作成	
13	Excel：データベースの操作（並べ替え・フィルター）	
14	Excel：条件を指定する関数（IF・COUNTIF・SUMIF関数など）	
15	Excel：一覧表から参照する関数（VLOOKUP関数など） Excel関数のまとめ	

教科書	『30時間アカデミック Office2019』　杉本くみ子／大澤栄子　実教出版
参考文献	進行に応じてプリントを配付する。
備考	授業内容は，クラス全体の操作の進捗により前後する場合もある。 「試験」は，Word・Excel・PowerPointの使用方法に関する筆記試験を行う。 「課題」は，指示した作成ファイルをデータ形式で提出する。後日，添削をした上で各学修者へ返却する。 情報処理室で授業を実施する場合は，パソコンの操作手順を示す際に講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム(SkyClassesMng)を利用する。 当科目は2クラスに分けて実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要，実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
CO-0-HSC-02

科目名	化学				単位認定者	石澤　公明		評価の方法	試験（筆記）	60　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	1 年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題（レポート）	10　%
						授業時間数	20　時間		受講態度（毎回の授業内課題を含む）	30　%
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	化学とは物質の構造・性質及び物質相互の反応を研究する学問である。化学の基礎的知識や化学物質の性質を理解し，化学が現代の社会や生活において欠かせないことを認識する。さらに，歯科臨床でも役立つ化学の基礎について視覚教材を活用して理解していく。
到達目標	高校で学ぶ化学を基本としてそれを更に発展させ、歯科衛生士の専門知識を学ぶために必要となる化学の基礎知識を修得する。
学修者への期待等	ビデオ講義の内容で理解が難しかった点や改善してほしい点があれば、オンライン上で質問として記述してほしい。

回	授業計画	準備学修
1	物質 Ⅰ（原子と分子）	教科書1章①物質の分類、②物質の構造、③原子の電子配置（p2-p10）、7章②ヒトを形作る元素（p133-134)予習・復習は概ね1時間
2	物質 Ⅱ（周期律と物質量）	教科書1章④元素の周期律、⑤物質量（p11-p15）、予習・復習は概ね1時間
3	物質 Ⅲ（化学結合）	教科書1章⑥化学結合（p16-p23）、予習・復習は概ね1時間
4	気体の性質	教科書2章気体について知ろう（p26-p40）、7章①水はいたるところに存在する（p130-p132）予習・復習は概ね1時間
5	水溶液の性質	教科書3章①水溶液の濃さの表し方、②希薄水溶液の示す不思議な性質（p42-p58）、予習・復習は概ね1時間
6	コロイド溶液の性質	教科書3章③身のまわりにはコロイドがいっぱい（p59-p66）、予習・復習は概ね1時間
7	酸とアルカリ	教科書3章④酸とアルカリの水溶液（p67-p77）、予習・復習は概ね1時間
8	酸化還元反応	教科書4章酸化とは、還元とは（p80-p86）、予習・復習は概ね1時間
9	化学反応Ⅰ（反応式）と第1～4回講義の復習	教科書5章①化学反応の速さを決めているもの（p88-p90）、予習・復習は概ね1時間
10	化学反応 Ⅱ（速度と平衡）と第5～9回講義の復習	教科書5章①化学反応の速さを決めているもの(p90-92),②化学平衡って何だろう（p93-p96）、予習・復習は概ね1時間

教科書	『最新歯科衛生士教本　化学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	『コ・メディカル化学』 齋藤勝裕・荒井貞夫・久保勘二共著　裳華房
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。最初の講義で出す授業内課題（レポート）を期限内に紙媒体（A4レポート用紙一枚）で指定の場所に提出してください。その総評は最終講義で行います。レポートとは別に毎回授業内課題を出します。その解答を授業視聴後オンラインで提出してください。そのフードバックは次回以降の講義で行います。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-1-DHB-01

科目名	解剖学				単位認定者	小野寺　健		評価の方法	試験（筆記）	60　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2　単位		授業内課題等	20　%
				授業形態	講義	授業時間数	30　時間		受講態度	20　%
						授業回数	15　回			

授業の概要	解剖学では主に人体の形・構造とその成り立ちを追求する。これは全身の健康や病気を理解する上でその初めとなる重要なステップとなる。本科目では、人体の正常な形・構造を体系的に理解する。また、全身の構造について口腔内の構造との対比の中で理解していく。
到達目標	解剖学の種類や分類について学び人体の正常な形態と構造について理解する。また、人体を構成する各器官の位置形態および構造を修得し、各系統ごとに整理して理解する。
学修者への期待等	人体の構造に関する知識は、すべての医学分野の学修において欠く事のできないものといえる。日々の授業の中で十分な理解と共に修得に努めてほしい。

回	授業計画	準備学修
1	総論（解剖学の意義・用語）	教科書1～11ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
2	骨格系①（骨の構造、形態、連結、発生）	教科書46～54ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
3	骨格系②（各論）	教科書56～63ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
4	筋と運動①（筋の形状・分類、構造と機能）	教科書64～70ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
5	筋と運動②（頭部、頚部、背部）	教科書70～74ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
6	筋と運動③（胸部、腹部、上肢、下肢）	教科書74～80ページを見ておくこと。（おおよそ20分） 次回の授業時、より理解を深めるために骨格系・筋系の領域について小テストを行う予定。（事前に概ね2時間程度の学修が必要）
7	消化器の構造①（上部消化管）	教科書84～91ページを見ておくこと。（おおよそ30分）＋小テスト
8	消化器の構造②（下部消化管）	教科書92～93ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
9	消化器の構造③（肝臓、胆嚢、膵臓）	教科書94～97ページを見ておくこと。（おおよそ20分）。より理解を深めるために消化器系に関するレポート課題を出す。（図書室、情報処理室で概ね2時間程度必要となる課題）。
10	神経系	教科書179～203ページを見ておくこと。（おおよそ30分）
11	循環系①（心臓、動脈系）	教科書122～144ページを見ておくこと。（おおよそ20分）。
12	循環系②（静脈系、リンパ系）	教科書144～154ページを見ておくこと。（おおよそ20分）。
13	呼吸器系	教科書213～222ページを見ておくこと。（おおよそ20分）。
14	泌尿器系	教科書234～238ページを見ておくこと。（おおよそ20分）。
15	生殖器系	教科書259～263ページを見ておくこと。（おおよそ20分）。

教科書	『歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	適宜、参考資料を配付する。
備考	小テスト・レポート課題は回収後、採点し、次回総括する。講義の進行具合によっては、シラバスの授業計画は前後することもある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-1-DHB-02

科目名	生理学				単位認定者	小野寺　健		評価の方法	試験（筆記）	60　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題等	20　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	20　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	ヒトの身体は様々な器官や組織から構成されている。これら器官・組織がどのような働きをしているか、また、その働きがどのような仕組みで行われるかを学修するのが生理学である。その仕組みを理解することで、様々な病気の仕組みも理解することが容易になる。
到達目標	感覚生理学、運動生理学、さらに神経系と内分泌系の形態と機能について理解する。
学修者への期待等	人間の体はさまざまな細胞や臓器からできており、それらが協力して働いている。まずは、全体を大きく把握することからはじめてほしい。

回	授業計画	準備学修
1	生理学概論	教科書9～11ページを見ておくこと。（おおよそ15分）
2	細胞の構造と基本機能	教科書14～20ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
3	血液①（成分と機能）	教科書112～117ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
4	血液②（血液凝固、血液型）	教科書118～122ページを見ておくこと。（おおよそ20分） 次回の授業時、細胞・血液に関する小テストを行う予定。（概ね2時間程度の事前学修が必要）
5	循環器系（心臓の働き、心電図、血管の機能）	小テスト（細胞、血液）実施予定。教科書127～139ページを見ておくこと。（おおよそ30分）
6	呼吸器系（呼吸運動、肺気量、呼吸の調節）	教科書222～232ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
7	筋系（筋の収縮と微細構造、筋電図）	教科書65～69、80～83ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
8	神経系①（基本機能、中枢神経）	教科書183～184、191～193ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
9	神経系②（末消神経、自律神経）	教科書204～232ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
10	感覚系（感覚の性質と種類、体性感覚、感覚情報の伝達）	教科書156～160ページを見ておくこと。（おおよそ20分） より理解を深めるために神経-感覚器系に関するレポート課題を出す。（図書室、情報処理室で概ね2時間程度必要となる課題）なお、提出はLMSによる電子投稿を予定している。
11	消化と吸収	教科書97～105ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
12	排泄（排便・排尿）、体温	教科書106～108、238～243ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
13	内分泌系①(脳下垂体、甲状腺、上皮小体)	教科書246～251ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
14	内分泌系②（膵、副腎、精巣、卵巣）	教科書251～256ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
15	生殖（性周期、受精と妊娠）	教科書259～268ページを見ておくこと。（おおよそ20分）

教科書	『歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	適宜、参考資料を配付する。
備考	小テスト・レポート課題は回収後、採点し、次回総括する。講義の進行具合によっては、シラバスの授業計画は前後することもある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-1-DHB-03

科目名	組織発生学				単位認定者	小野寺　健		評価の方法	小テスト	60　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題等	20　%
						授業時間数	20　時間		受講態度	20　%
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	人体において基本的な単位とは細胞であり、細胞が集まって組織となり、組織が集まって器官となり、器官が集まって器官系をなす。人体を構成する構造について階層的に学び、構造と機能の関係や各器官の特徴を理解する。さらに、人体が一つの受精卵から組織・器官に分化してゆく発生機序について理解する。
到達目標	人体を構成する各種細胞、組織における種類と微細構造、細胞の分化・構築・機能を理解する。また、人の発生時の構造について理解する。
学修者への期待等	肉眼では確認できない細胞・組織の構造について理解できるよう努めてほしい。また、発生過程での受精卵の動態について理解できるよう努めてほしい。

回	授業計画	準備学修
1	細胞、組織（上皮組織、支持組織）	教科書①12～30ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
2	組織（筋組織、神経組織）、造血器官とリンパ性器官（血液、血管、循環器系、リンパ系）	教科書①64～65、179～182、109～111、149～154ページを見ておくこと。（おおよそ20分） 次回授業時、細胞、組織に関する小テストを行う予定。 (概ね2時間程度の事前学修が必要)
3	口腔組織（エナメル質、象牙質）	教科書②218～235ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
4	口腔組織（セメント質、歯髄、歯根膜、歯槽骨）	教科書②236～251ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
5	発生（染色体、受精と着床、胚葉）	教科書①31～43ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
6	皮膚と粘膜	教科書①161～167ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
7	呼吸器系、泌尿器系	教科書①213～222、234～238ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
8	感覚器系、神経系	教科書①167～178、185～190、196～203ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
9	消化器系	教科書①84～97ページを見ておくこと。（おおよそ20分）
10	内分泌系	教科書①246～254ページを見ておくこと。（おおよそ20分）

教科書	①『歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 ②『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	適宜、参考資料を配付する。
備考	小テストは回収後、採点し、次回総括する。講義の進行具合によっては、シラバスの授業計画は前後することもある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-1-DHB-04

科目名	口腔解剖学				単位認定者	小野寺 健 白石　成		評価の方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	40 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	20 回			

授業の概要	口腔とは消化管の始まりの部分であり、食物摂取、咀嚼、嚥下などの一連の役割がある。本科目では、口腔疾患に携わる歯科衛生士に必要な、歯・口腔とその周囲組織の形・構造に関する理解を深める。また口腔に関する発生について理解を深める。
到達目標	歯・口腔とその周囲組織の構造・機能に関する理解を深め、説明できる。
学修者への期待等	口腔の解剖に関する知識は、臨床を行う上でも不可欠なものとなる。学修量が多いので必ず復習をすること。また、必ず授業に参加すること。定期試験以外にも適宜小テストを行う。

回	授業計画	準備学修	担当
1	口腔解剖学総論 頭蓋の骨 ①（頭蓋の骨の全体像・頭蓋の前面）	「2章　②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで授業に臨む。（概ね20分）	小野寺 健
2	頭蓋の骨 ②（頭蓋の上面・後面・側面 ）	「2章　②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで臨むこと。（概ね20分）	小野寺 健
3	頭蓋の骨 ③（頭蓋の下面・内面）	「2章の　②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで臨むこと。（概ね20分）	小野寺 健
4	頭蓋の骨 ④（顔面骨①）	「2章の　②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで臨むこと。（概ね20分）	小野寺 健
5	頭蓋の骨 ⑤（顔面骨②）	「2章の　②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。次回小テストを行う予定。（概ね3時間程度準備必要）	小野寺 健
6	顎関節（顎関節の構造と働き）	「2章　④顎関節」の部位を読んで授業に臨むこと。（概ね30分）	小野寺 健
7	口腔の構成①（口唇、頬、歯肉）	「2章　①口腔とは」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。（概ね30分）	小野寺 健
8	口腔の構成②（口蓋、舌下部、舌、味蕾）	「2章　①口腔とは」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。（概ね30分）	小野寺 健
9	唾液腺（三大唾液腺、小唾液腺）、咽頭と喉頭の構造	「8章　①唾液腺」「6章①嚥下と嘔吐に関わる構造」を読んで授業に臨むこと。（概ね30分）	小野寺 健
10	口腔、歯胚の発生	Ⅰ編1章顔面と口腔の発生、Ⅱ編2章歯と歯周組織の発生、を読んで授業に臨むこと。（概ね30分）	小野寺 健

回	授業計画	準備学修	担当
11	頭頚部の筋肉について（総論） 頭頚部の筋 ①（顔面筋）	「2章　③頭頸部の筋と作用」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。（概ね20分）	白石　成
12	頭頚部の筋 ②（咀嚼筋とその作用、舌骨上筋群、舌骨下筋群とその作用）	「2章　③頭頸部の筋と作用」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。（概ね20分）	白石　成
13	口腔付近の動脈 ①（脈管系総論と総頚動脈、外頸動脈の枝・舌動脈と顔面動脈）	「2章　⑤口腔付近に分布する脈管系」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。（概ね20分）	白石　成
14	口腔付近の動脈・静脈 ②（顎動脈とその分枝、内頚静脈、下顎後静脈など）	「2章　⑤口腔付近に分布する脈管系」のうち、動脈系の対応する部位を読んで授業に臨むこと。（概ね20分）	白石　成
15	頭頚部のリンパ系（頭頚部のリンパ節の分布）	「2章　⑤口腔付近に分布する脈管系」のうち、リンパ系の部位を読んで授業に臨むこと。（概ね20分）	白石　成
16	神経学総論	「2章　⑥神経」 のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。（概ね20分）	白石　成
17	頭頚部の神経 ①（脳神経__嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、外転神経）	「2章　⑥神経」 のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。（概ね20分）	白石　成
18	頭頚部の神経 ②（顔面神経、内耳神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経）	「2章　⑥神経」 のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。（概ね20分）	白石　成
19	頭頚部の神経 ③（三叉神経とその分枝）	「2章　⑥神経」 のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。（概ね20分）	白石　成
20	頭頸部の神経 ④（脊髄神経と自律神経系）	「2章　⑥神経」 のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。（概ね20分）	白石　成
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 頭蓋骨の模型・プロジェクターを使用する。プリントを配布する。		
参考文献	適宜紹介する。		
備考	小野寺分は対面授業、白石分は遠隔（オンデマンド）で授業を実施する。 小テストは個別に実施し、頭蓋骨を手にして、各部名称、神経・付着筋についての概要が説明できるようにする。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-1-DHB-05

科目名	口腔生理学				単位認定者	阿部　昌子		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2　単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	30　時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	高齢者・要介護者が抱える諸問題の中でも咀嚼・嚥下・発声の障害は大きな問題となっている。歯・口腔とその周囲組織の機能は、正常な咀嚼・嚥下・発声に重要にかかわっている。本科目では、歯・口腔とその周囲組織の生理機能に関する基礎知識を修得する。
到達目標	歯・口腔とその周囲組織の生理機能に関する基礎知識を修得する。
学修者への期待等	全身の解剖・生理の基本的知識を踏まえた上で、授業に臨むことを期待する。また、教科書などによる予習・復習を行い、授業内容を十分に理解することを期待する。

回	授業計画	準備学修
1	歯と口腔の感覚（歯の感覚、口腔粘膜の感覚）	［事前］教科書のⅠ編3章「歯の感覚」、「口腔粘膜の感覚」を読んで来ること（30分程度）。
2	味覚（味覚の役割、感受性、味蕾、味覚の神経機構、味盲）	［事前］教科書のⅠ編4章「味覚の役割」、「感受性」、「味蕾」、「味覚の神経機構」、「味盲」を読んで来ること（30分程度）。
3	嗅覚（役割、特性、嗅覚器と嗅細胞、神経機構、嗅覚障害と嗅盲）	［事前］教科書のⅠ編4章「嗅覚の役割」、「特性」、「嗅覚器」、「嗅細胞」、「神経機構」、「嗅覚障害」を読んで来ること（30分程度）。 ［事後］次回、1～3回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習をすること（2時間程度）。
4	咬合と咀嚼・吸啜1（下顎位、下顎の運動）	［事前］教科書のⅠ編5章「下顎位」、「下顎の運動」を読んで来ること（30分程度）。
5	咬合と咀嚼・吸啜2（顎反射、摂食行動）	［事前］教科書のⅠ編5章「顎反射］、「摂食行動」を読んで来ること（30分程度）。
6	咬合と咀嚼・吸啜3（咀嚼能力、吸啜）	［事前］教科書のⅠ編5章「咀嚼能力」、「吸啜」を読んで来ること（30分程度）。 ［事後］次回、4～6回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習をすること（2時間程度）。
7	嚥下と嘔吐1（嚥下と嘔吐に関わる構造）	［事前］教科書のⅠ編6章「嚥下と嘔吐に関わる構造」を読んで来ること（30分程度）。
8	嚥下と嘔吐2（嚥下）	［事前］教科書のⅠ編6章「嚥下」を読んで来ること（30分程度）。
9	嚥下と嘔吐3（嘔吐）	［事前］教科書のⅠ編6章「嘔吐」を読んで来ること（30分程度）。 ［事後］次回、7～9回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習をすること（2時間程度）。
10	発声1（発声機構の概要）	［事前］教科書のⅠ編7章「発声機構の概要」を読んで来ること（30分程度）。
11	発声2（声の生成、言語音の形成）	［事前］教科書のⅠ編7章「声の生成」、「言語音の形成」を読んで来ること（30分程度）。
12	発声3（歯・口腔の病態と発音）	［事前］教科書のⅠ編7章「歯・口腔の病態と発音」を読んで来ること（30分程度）。
13	唾液1（唾液腺、唾液の分泌機構）	［事前］教科書のⅠ編8章「唾液腺」、「唾液の分泌機構」を読んで来ること（30分程度）。
14	唾液2（唾液の性状・成分と機能）	［事前］教科書のⅠ編8章「唾液の性状・成分と機能」を読んで来ること（30分程度）。
15	唾液3（唾液と疾患）	［事前］教科書のⅠ編8章「唾液と疾患」を読んで来ること　（30分程度）。 ［事後］15回の講義で学んだ内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（2時間程度）。

教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	
備考	小テストを採点後、授業内で総括する。講義の進行具合によっては、シラバスの授業計画は前後する事もある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-1-DHB-06

科目名	歯牙解剖学				単位認定者	小野寺　健 加藤　裕光		評価の方法	小テスト	20　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題 （歯牙鑑別）	30　%
						授業時間数	20　時間		授業内課題 （デッサン）	50　%
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	ヒトの歯の形態、歯の発生、歯の組織を理解し、歯そのものの歯冠及び歯根形態を学ぶ。また、歯周組織との関連を理解する。スケッチ描画等を通して乳歯、永久歯の各歯牙の形態、機能の特徴を明確に把握する。
到達目標	歯科医療に従事する者として、その最も基礎的な知識であるヒトの歯の表示法や記号、歯種鑑別、歯列と咬合との関連性、歯種別の歯の形態そして歯の形態異常を学ぶ。またスケッチ描画を通して歯そのものの歯冠及び歯根形態を学ぶ。
学修者への期待等	覚えるべき専門用語が多いので、必ず事前に教科書を熟読し、質問事項を用意して授業に挑む。授業後は復習を行うこと。

回	授業計画	準備学修	担当
1	歯の概論①（歯の機能、歯の種類と名称、歯式）	予習として、Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの歯の機能、歯の形態、歯の種類と数、歯の表示法についてあらかじめ読んでおくこと。（概ね30分）	小野寺　健
2	歯の概論②（歯の形態、歯の各部名称、根管の形態）	予習として、Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの歯の形態、歯の各部名称、根管の形態についてあらかじめ読んでおくこと。（概ね30分）	小野寺　健
3	永久歯の形態的特徴（中切歯、側切歯、犬歯）	予習として、Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの中切歯、側切歯、犬歯についてあらかじめ読んでおくこと。（概ね30分）	小野寺　健
4	永久歯の形態的特徴（小臼歯、大臼歯）	予習として、Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの小臼歯、大臼歯についてあらかじめ読んでおくこと。（概ね40分）	小野寺　健
5	乳歯の形態的特徴、特色のある歯の形態	予習として、Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの乳歯の形態的特徴、特色のある歯の形態についてあらかじめ読んでおくこと。（概ね40分）	小野寺　健
6	（歯牙デッサン演習）右側上顎中切歯のデッサン	【事前】事前に上顎中切歯の形態的学的特徴を把握してくること。	加藤　裕光
7	（歯牙デッサン演習）右側上顎犬歯のデッサン	【事前】事前に上顎犬歯の形態的学的特徴を把握してくること。	加藤　裕光
8	（歯牙デッサン演習）右側上顎第一小臼歯のデッサン	【事前】事前に上顎第一小臼歯の形態的学的特徴を把握してくること。	加藤　裕光
9	（歯牙デッサン演習）右側上顎第一大臼歯のデッサン	【事前】事前に上顎第一大臼歯の形態的学的特徴を把握してくること。	加藤　裕光
10	（歯牙デッサン演習）右側下顎第一大臼歯のデッサン	【事前】事前に下顎第一大臼歯の形態的学的特徴を把握してくること。	加藤　裕光

教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	適宜、プリントを配布する。
備考	1～5回は1クラス（グループワーク）で、6～10回は2クラスに分かれて授業を行う。小テストは小野寺担当分は筆記形式と実技（歯牙鑑別）の試験を行う。 授業内課題は歯牙デッサン演習で毎回歯牙スケッチを提出し、それを評価とする。デッサンは評価後に返却してフィードバックする。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-1-DHB-07

科目名	病理学				単位認定者	小野寺　健		評価の方法	試験（筆記）	60　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題等	20　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	20　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	病理学とは病気になった原因を探り、病気になった患者の身体に生じている変化が、どのようなものであるかを明らかにする学問である。本科目では、病気にはどういう種類があるか、細胞・組織・臓器にどのよう病的変化(病理・病変)を生じるかを、肉眼的及び微細構造学的に理解し、個体に現れる症状や徴候についての知識を修得する。とりわけ、顎口腔は、硬・軟両組織を含む多数の組織より構築され、口腔領域に特徴的な病変が多く発生するので、その基本的な知識を修得する。
到達目標	種々の疾患で生じる臓器、組織、細胞での形態学的な変化を理解する。とりわけ、硬・軟両組織を含む多数の組織より構築されている顎口腔部位について、その特異的な病変を理解する。
学修者への期待等	病理学とは医学の基礎となる学問である。そのため、解剖学、生理学等の他の基礎医学の基本的知識を踏まえた上で修得に努めてほしい。

回	授業計画	準備学修
1	病理学①（病理学とは、病因論（内因と外因）、遺伝性疾患と奇形）	教科書2～13ページまでを読んでおく（1章、2章； 約30分程度）
2	病理学②（循環障害）	教科書14～22ページまでを読んでおく（3章； 約30分程度）
3	病理学③（代謝障害と退行性病変）	教科書23～33ページまでを読んでおく（4章； 約30分程度）
4	病理学④（増殖と修復）	教科書34～41ページまでを読んでおく（5章； 約30分程度）
5	病理学⑤（炎症と免疫応答異常）	教科書43～59ページまでを読んでおく（6章； 約30分程度）
6	病理学⑥（腫瘍）	教科書60～68ページまでを読んでおく（7章； 約30分程度） 次回小テストを行う予定（範囲は病理学①～⑥）。
7	口腔病理学①（歯の発育異常、歯の損傷）	教科書70～87ページまでを読んでおく（口腔病理1、2章；約30分程度）
8	口腔病理学②（う蝕、象牙質・歯髄複合体の病態）	教科書88～104ページまでを読んでおく（口腔病理3、4章； 約30分程度）
9	口腔病理学③（歯周組織の病態）	教科書105～121ページまでを読んでおく（口腔病理5章；約30分程度）
10	口腔病理学④（口腔粘膜病変）	教科書122～132ページまでを読んでおく（口腔病理6章；約30分程度）
11	口腔病理学⑤（口腔領域の嚢胞と腫瘍）	教科書133～145ページまでを読んでおく（口腔病理7章；約30分程度）
12	口腔病理学⑥（口腔癌）	教科書146～151ページまでを読んでおく（口腔病理8章；約30分程度）
13	口腔病理学⑦（顎骨の病変））	教科書152～159ページまでを読んでおく（口腔病理9章；約30分程度）
14	口腔病理学⑧（唾液腺の病変）	教科書161～167ページまでを読んでおく（口腔病理10章； 約30分程度）
15	口腔病理学⑨（口腔領域奇形、加齢変化）	教科書168～179ページまでを読んでおく（口腔病理11、12章； 約30分程度）

教科書	『最新歯科衛生士教本　疾病の成り立ち及び回復過程の促進1病理学・口腔病理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	適宜、参考資料を配付する。
備考	小テストは回収後、採点し、次回総括する。講義の進行具合によっては、シラバスの回数とは、ややずれる事もある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-1-DHB-08

科目名	微生物学				単位認定者	阿部　昌子		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題等	15 %
						授業時間数	30　時間		受講態度	15 %
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	微生物学とは、微生物（細菌、真菌、ウイルスなど）がどのようにして人に感染し、病気（感染症）を起こすのかという「感染症の成り立ち」を明らかにする学問である。 歯科衛生士にとって必要な知識である微生物と免疫について学ぶことを通して、全身の感染症の成り立ちについて理解する。また、口腔に常在する微生物と口腔疾患について学ぶとともに、感染予防についての基礎的な知識を修得する。
到達目標	種々の微生物の性質を理解し、感染症と感染予防についての基礎的な知識を修得する。
学修者への期待等	教科書などによる予習・復習を行い、授業内容を十分に理解することを期待する。

回	授業計画	準備学修
1	[微生物学] 疾病と微生物　感染と感染症	[事前]教科書の1章「感染と感染症」を読んで来ること(30分程度)。
2	微生物の病原性1　1) 微生物の位置づけ	[事前]教科書の2章「微生物の位置づけ」を読んで来ること(30分程度)。
3	微生物の病原性2　2) 細菌	[事前]教科書の2章「細菌」を読んで来ること(30分程度)。
4	微生物の病原性3　3) マイコプラズマ属、4) スピロヘータ、5) リケッチア	[事前]教科書の2章「マイコプラズマ属」、「スピロヘータ」、「リケッチア」を読んで来ること(30分程度)。
5	微生物の病原性4　6) クラミジア、7) ウイルス、8) その他の微生物(真菌、原虫)	[事前]教科書の2章「クラミジア」、「ウイルス」、「その他の微生物(真菌、原虫)」を読んで来ること(30分程度)。 [事後]次回、1～5回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習をすること(2時間程度)。
6	宿主防御機構と免疫1　1) 宿主防御機構 ①非特異的防御機構	[事前]教科書の3章「宿主防御機構　①非特異的防御機構」を読んで来ること(30分程度)。
7	宿主防御機構と免疫2　1) 宿主防御機構 ②特異的防御機構	[事前]教科書の3章「宿主防御機構　②特異的防御機構」を読んで来ること(30分程度)。
8	宿主防御機構と免疫3　2) 免疫機構	[事前]教科書の3章「免疫機構」を読んで来ること(30分程度)。
9	宿主防御機構と免疫4　3) 液性免疫	[事前]教科書の3章「液性免疫」を読んで来ること(30分程度)。
10	宿主防御機構と免疫5　4) 細胞性免疫	[事前]教科書の3章「細胞性免疫」を読んで来ること(30分程度)。
11	宿主防御機構と免疫6　5) アレルギー(過敏症)	[事前]教科書の3章「アレルギー(過敏症)」を読んで来ること(30分程度)。 [事後]次回、6～11回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習をすること(2時間程度)。
12	[口腔微生物学] 口腔微生物学1　1) 口腔細菌叢	[事前]教科書の4章「口腔細菌叢」を読んで来ること(30分程度)。
13	口腔微生物学2　2) デンタルプラーク	[事前]教科書の4章「デンタルプラーク」を読んで来ること(30分程度)。
14	口腔感染症1　1) う蝕	[事前]教科書の5章「う蝕」を読んで来ること(30分程度)。
15	口腔感染症2　2) 歯周病	[事前]教科書の5章「歯周病」を読んで来ること(30分程度)。 [事後]15回の講義で学んだ内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること(2時間程度)。

教科書	『最新歯科衛生士教本　疾病の成り立ち及び回復過程の促進2　微生物学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	
備考	小テストを採点後、授業内で総括する。講義の進行具合によっては、シラバスの授業計画は前後する事もある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-1-DHB-09

科目名	薬理学				単位認定者	磯谷　美重		評価の方法	試験（筆記）	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	20　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	薬理学の基礎的知識を修得し、生体と薬物との関わりを理解する。総論では、薬物の作用機序、薬物動態、薬効に影響する因子、副作用及び薬物の取り扱い・管理について学ぶ。 各論では、様々な疾患に用いられる代表的な治療薬について作用機序、特徴、副作用について理解する。さらに、歯科疾患に対して臨床上使用される治療薬についても学ぶ。
到達目標	歯科衛生士として必要な薬理学の基礎的知識を修得し生体と薬物との関わりを理解する。
学修者への期待等	疾病を有する患者や服薬中の患者が歯科治療を受ける機会が増している。全身疾患と薬物治療の知識を広く修得することを期待する。

回	授業計画	準備学修
1	総論①（薬理学とは、薬物療法、薬理作用、用量）	教科書Ⅰ編第1章　薬物の作用（p.2-10）を読んでくること（概ね30分）
2	総論②（薬物動態）	教科書Ⅰ編第2章　薬物動態（p.11-20）を読んでくること（概ね30分）
3	総論③（薬物の適用方法、血中濃度）	教科書Ⅰ編第3章　薬物の適用方法の種類と特徴（p.22-27）を読んでくること（概ね30分）
4	総論④（薬理作用に影響を与える因子、薬物の連用・併用、薬物相互作用）	教科書Ⅰ編第4章　薬物の作用に影響を与える要因（p.28-33）を読んでくること（概ね30分）
5	総論⑤（薬物の副作用、適用する際の注意点、薬物の取り扱い、法規・分類）	教科書Ⅰ編第5章　薬物の副作用、有害作用　6章　医薬品を適用する際の注意、7章　薬物の取り扱い　8章　薬物と法律・薬物と医薬品（p.37-63）を読んでくること（概ね30分）
6	中枢神経作用薬（全身麻酔薬、催眠薬、抗てんかん薬、鎮痛薬、中枢神経興奮薬）	教科書Ⅱ編第3章　中枢神経系に作用する薬物（p.81-91）を読んでくること（概ね30分）
7	末梢神経作用薬（自律神経作用薬、筋弛緩薬）	教科書Ⅱ編第2章　末梢神経系に作用する薬物（p.73-79）を読んでくること（概ね30分）
8	循環・呼吸系作用薬（高血圧症治療薬、心疾患治療薬、気管支喘息治療薬）	教科書Ⅱ編第4章　循環器系に作用する薬物、第6章　呼吸器系に作用する薬物（p.93-107）を読んでくること（概ね30分）
9	血液作用薬（止血機序、止血薬、抗血栓薬）	教科書Ⅱ編第8章　血液に作用する薬物（p.112-117）を読んでくること（概ね30分）
10	抗炎症薬（炎症の定義、抗炎症薬の分類）、鎮痛薬	教科書Ⅱ編第12章　炎症と薬、第13章　痛みと薬（p.135-148）を読んでくること（概ね30分）
11	抗悪性腫瘍薬、免疫作用薬（抗悪性腫瘍薬、抗アレルギー薬、免疫抑制薬）	教科書Ⅱ編第9章　免疫と薬、第10章　悪性腫瘍と薬、第11章代謝性疾患治療薬（p.118-134）を読んでくること（概ね30分）
12	局所麻酔薬	教科書Ⅱ編第14章　局所麻酔（p.150-157）を読んでくること（概ね30分）
13	抗感染症作用薬（感染とは、抗感染症薬）	教科書Ⅱ編第15章　抗感染症薬、第16章（p.159-169）を読んでくること（概ね30分）
14	消毒薬	教科書Ⅱ編第16章　消毒に使用する薬（p.170-180）を読んでくること（概ね30分）
15	ビタミン・ホルモン（ビタミン欠乏症、ホルモン製剤、代謝性疾患治療薬）	教科書Ⅱ編第1章　ビタミンとホルモン（p.66-72）（概ね30分）

教科書	『最新歯科衛生士教本　疾病の成り立ち及び回復過程の促進3薬理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	『イラストでわかる歯科医学の基礎』渕端孟ほか監修、株式会社永末書店
備考	授業は遠隔（オンデマンド）で実施します。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-1-DHB-10

科目名	栄養学				単位認定者	岩間 正典 後藤 未希		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		確認小テスト	30 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			

授業の概要	栄養学とは、健康な生命活動を維持・増進するために必要な物質を食品から利用する現象を明らかにする学問である。はじめに、栄養素の消化吸収を学び、続いて、各栄養素の必要量や働きを理解する。さらに適切な食生活の必要性と日本人の現状を理解して、健康な生活を送るための基本的な知識を修得する。
到達目標	(1)栄養学の必要性、栄養素の消化吸収及び働きを理解する。 (2)国民の健康と栄養の実態を把握し、ライフステージ別の特徴と望ましい食生活を理解する。 (3)食品の分類と特性、保健機能食品について理解する。
学修者への期待等	受講後は復習を行い、不明箇所を確認し理解しておくこと。

回	授業計画	準備学修	担当
1	栄養の基礎知識(1) なぜ栄養学を学ぶのか、栄養素とは何か	教科書等で栄養素について復習し、確認小テストを解くこと。(概ね1時間)	岩間 正典
2	栄養の基礎知識(2) 栄養素の消化・吸収	教科書等で消化・吸収について復習し、確認小テストを解くこと。(概ね1時間)	岩間 正典
3	日本人の食事摂取基準(2020年版)	教科書等で食事摂取基準について復習し、確認小テストを解くこと。(概ね1時間)	岩間 正典
4	栄養素の働き(1) ①糖質 ②タンパク質 ③脂質	教科書等で栄養素について復習し、確認小テストを解くこと。(概ね1時間)	岩間 正典
5	栄養素の働き(2) ④ビタミン	教科書等で栄養素について復習し、確認小テストを解くこと。(概ね1時間) 今までのところで疑問点があれば、LMSで提出すること。次回説明します。	岩間 正典
6	栄養素の働き(3) ⑤ミネラル ⑥水 ⑦食物繊維 1回～6回の疑問点を説明します。	教科書等で栄養素について復習し、確認小テストを解くこと。(概ね1時間)	岩間 正典
7	食生活と健康(1)国民の健康と栄養の現状 ①食生活の変換と疾病構造の変化 ②国民栄養の現状と課題	教科書等で健康と栄養の現状および課題について復習し、確認小テストを解くこと。(概ね1時間)	後藤 未希
8	食生活と健康(2)望ましい食生活 ①国民健康づくりにおける食生活改善の取り組み ②保健機能食品等 ③食事計画	教科書等で健康日本21・保健機能食品について復習し、確認小テストを解くこと。(概ね1時間)	後藤 未希
9	食生活と健康(3)ライフステージ別の栄養と調理 ①成長期 ②成人期	教科書等でライフステージ別の栄養(成長期、成人期)について復習し、確認小テストを解くこと。(概ね1時間)	後藤 未希
10	食生活と健康(3)ライフステージ別の栄養と調理 ③高齢期 食べ物と健康 ①食品の成分と分類 ②食べ物の物性	教科書等でライフステージ別の栄養(高齢期)・食品分類について復習し、確認小テストを解くこと。(概ね1時間)	後藤 未希

教科書	『最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2栄養と代謝』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	
備考	授業は遠隔(オンデマンド)で実施します。毎回確認小テストを行い、締め切り後に解説を配信します。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-1-DHB-13

科目名	衛生学・公衆衛生学				単位認定者	阿部　昌子		評価の方法	試験（筆記）	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題等	20　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	10　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	衛生学は主に個人の健康に関わる学問である。一方、公衆衛生学は、不特定多数の公衆の健康に関わる学問である。本科目では、様々な環境要因が、どのように個人や公衆の健康に影響を及ぼすかについて理解するとともに、それらの疾病予防について学ぶ。また、健康障害の原因究明や予防対策に欠かせない疫学に関する基礎を学ぶ。
到達目標	・すべての人々の暮らしと健康を守る、公衆衛生について理解する。 ・個人と集団の健康に影響を及ぼす環境要因を理解する。
学修者への期待等	授業は医療・保健の基本となる内容である。授業内容を理解できるように授業前に予習を心がけ、授業後にも復習を行うことを期待する。

回	授業計画	準備学修
1	総論　①衛生学・公衆衛生学とは　②健康の概念 ③予防医学の概念（第一次予防、第二次予防、第三次予防）	［事前］教科書の1編1章2「健康の概念」、3「予防医学の概念」を読んで来ること（30分程度）。
2	人口1　①人口静態統計（世界の人口、わが国の人口）	［事前］教科書の1編3章1「世界の人口、わが国の人口」読んで来ること（30分程度）。
3	人口2　②人口動態統計（出生・死亡・婚姻と離婚に関する統計）	［事前］教科書の1編3章2「出生・死亡・婚姻と離婚に関する統計」を読んで来ること（30分程度）。
4	人口3　③生命表（生命表とは、日本人の平均寿命と三大死因）	［事前］教科書の1編3章3「生命表とは、日本人の平均寿命と三大死因」を読んで来ること（30分程度）。 ［事後］次回、1～4回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（2時間程度）。
5	環境と健康1　①環境の概念	［事前］教科書の1編4章1「環境の概念」を読んで来ること（30分程度）。
6	環境と健康2　②空気と健康	［事前］教科書の1編4章2「空気と健康」を読んで来ること（30分程度）。
7	環境と健康3　③水と健康	［事前］教科書の1編4章2「水と健康」読んで来ること（30分程度）。
8	環境と健康4　④放射線と健康　⑤住居・衣服と健康 ⑥地球環境の変化と健康への影響（地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊など）	［事前］教科書の1編4章3「放射線と健康」、4「住居・衣服と健康」、5「地球環境の変化と健康への影響」を読んで来ること（30分程度）。
9	環境と健康5　⑦公害と健康への影響（大気・水・土壌の汚染、騒音、悪臭）⑧廃棄物処理（一般廃棄物、産業廃棄物、感染性廃棄物）	［事前］教科書の1編4章6「公害と健康への影響」、7「廃棄物処理」を読んで来ること（30分程度）。 ［事後］次回、5～9回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（2時間程度）。
10	感染症1　①感染症の成り立ち（感染と発病、感染成立の三要因、感染症の流行）	［事前］教科書の1編5章1「感染症の成り立ち」を読んで来ること（30分程度）。
11	感染症2　②感染症の予防（感染症予防の基本概念、感染症対策上の問題点、わが国における感染症対策）	［事前］教科書の1編5章2「感染症の予防」を読んで来ること（30分程度）。
12	感染症3　③主な感染症の動向（一類～四類感染症）	［事前］教科書の1編5章3「主な感染症の動向」を読んで来ること（30分程度）。 ［事後］次回、10～12回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（2時間程度）。
13	食品と健康　食品保健（食中毒の疫学、食中毒の分類、食品の安全性確保）	［事前］教科書の1編6章1「食品保健」を読んで来ること（30分程度）。
14	疫学1　①疫学の定義および概要（疫学とは、疾病や異常の発生要因、疾病の発生・流行状態を表す指標）	［事前］教科書の1編2章1「疫学の定義および概要」を読んで来ること（30分程度）。
15	疫学2　②疫学の方法（記述疫学、分析疫学、介入研究）	［事前］教科書の1編2章2「疫学の方法」を読んで来ること（30分程度）。 ［事後］15回の講義で学んだ内容を、教科書、ノートなどで復習すること（2時間程度）。

教科書	『最新歯科衛生士教本　歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	
備考	小テストを採点後、授業内で総括する。講義の進行具合によっては、シラバスの授業計画は前後する事もある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-1-DHB-14

科目名	口腔衛生学				単位認定者	伊藤　恵美		評価の方法	試験（筆記）	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	2　単位		授業内課題等	10　%
						授業時間数	60　時間		受講態度	10　%
				授業形態	講義	授業回数	30　回			

授業の概要	口腔の健康に影響を及ぼす種々の要因について基礎的な知識を修得した上で、う蝕や歯周病など様々な口腔疾患の予防法について学修する。さらに、自らの歯と口腔の健康を把握して、歯と口腔の健康づくりについて学ぶ。歯科衛生士として、人々の歯と口腔の健康づくりを支援するための基礎知識と方策について学修する。
到達目標	口腔の健康に影響を及ぼす種々の要因及び口腔疾患の予防法について理解する。
学修者への期待等	教科書などによる予習・復習を行い、授業内容を十分に理解することを望む。

回	授業計画	準備学修
1	Ⅱ編1章　①歯・口腔の健康と予防（歯・口腔の健康と予防の定義・基礎・方法・健康づくり）	教科書P88～91 「歯・口腔の健康と予防」を読んでおくこと。（概ね30分程度）
2	Ⅱ編1章　②歯・口腔の健康1（歯・歯周組織・口腔粘膜）	教科書P92～95 「歯・口腔の健康」を読んでおくこと。（概ね30分程度）
3	Ⅱ編1章　②歯・口腔の健康2（舌・顎関節・唾液腺）	教科書P95～97 「歯・口腔の健康」を読んでおくこと。（概ね30分程度）
4	Ⅱ編1章　②歯・口腔の健康3（歯・口腔の発生と成長・発育）	教科書P98～104 「歯・口腔の発生と成長・発育」を読んでおくこと。（概ね30分程度）
5	Ⅱ編1章　②歯・口腔の健康4（歯・口腔の機能）	教科書P105～109 「歯・口腔の機能」について教科書を読んでおくこと。（概ね30分程度）
6	Ⅱ編1章　③歯・口腔の付着物・沈着物1（ペリクル、プラーク）	教科書P110～114 「歯・口腔の付着物・沈着物」を読んでおくこと。（概ね30分程度）
7	Ⅱ編1章　③歯・口腔の付着物・沈着物2（マテリアアルバ、歯石、舌苔、外来性色素沈着）	教科書P115～117 「歯・口腔の付着物・沈着物」を読んでおくこと。（概ね30分程度）
8	Ⅱ編4章　う蝕の予防1（う蝕病院論の変遷、現在のう蝕病因論）	教科書P138～139 「う蝕発生のメカニズム」を読んでおくこと。（概ね30分程度）
9	Ⅱ編4章　う蝕の予防2（宿主・歯・口腔細菌・発酵性糖質）	教科書P140～146 「う蝕発生要因」を読んでおくこと。（概ね30分程度）
10	Ⅱ編4章　う蝕の予防3（う蝕活動性試験、リスク分類の特徴）	教科書P146～149 「う蝕活動性」を読んでおくこと。（概ね30分程度）
11	Ⅱ編4章　う蝕の予防4（う蝕に対する予防法の適用、う蝕の発生要因に対する予防法）	教科書P150～154 「う蝕の予防法」を読んでおくこと。（概ね30分程度）
12	Ⅱ編4章　う蝕の予防4（まとめ）	シラバス8～11回までの復習をしておくこと。（概ね45分程度）
13	Ⅱ編3章　歯科疾患の疫学1（歯科疾患実態調査）	厚生労働省「歯科疾患実態調査」の主な調査事項を調べておくこと。（概ね30分程度）
14	Ⅱ編3章　歯科疾患の疫学1（う蝕の疫学）	教科書P132～134 「歯科疾患の疫学」を読んでおくこと。（概ね30分程度）
15	Ⅱ編3章　歯科疾患の疫学2（歯周疾患の疫学）	教科書P135～136 「歯科疾患の疫学」を読んでおくこと。（概ね30分程度）

回	授業計画	準備学修
16	Ⅱ編3章　歯科疾患の疫学3（その他の疫学）	教科書P135～137 「歯科疾患の疫学」を読んでおくこと。（概ね30分程度）
17	Ⅱ編5章　フッ化物によるう蝕予防1（我が国のフッ化物応用、フッ化物の一般性状よ用語、人間生態系におけるフッ化物、フッ化物摂取量とその基準）	教科書P155～158 「フッ化物によるう蝕予防」を読んで来ること。（概ね30分程度）
18	Ⅱ編5章　フッ化物によるう蝕予防2（フッ素の代謝、フッ素の毒性）	教科書P158～165 「フッ化物によるう蝕予防」を読んで来ること。（概ね30分程度）
19	Ⅱ編5章　フッ化物によるう蝕予防3（フッ化物応用におけるう蝕予防法～フッ化物歯面塗布法～）	教科書P165～169 「フッ化物によるう蝕予防」を読んで来ること。（概ね30分程度）
20	Ⅱ編5章　フッ化物によるう蝕予防4（フッ化物応用におけるう蝕予防法～フッ化物洗口、フッ化物配合歯磨剤～）	教科書169～175 「フッ化物によるう蝕予防」を読んでおくこと。（概ね30分程度）
21	Ⅱ編5章　フッ化物によるう蝕予防5（フッ化物応用におけるう蝕予防法～水道水フロリデーション、食品へのフッ化物添加、フッ化物錠剤・液剤～）	教科書P175～181 「フッ化物によるう蝕予防」を読んでおくこと。（概ね30分程度）
22	Ⅱ編6章　歯周疾患の予防1（歯周疾患の症状と分類）	教科書P182～185 「歯周疾患の予防」を読んで来ること。（概ね30分程度）
23	Ⅱ編6章　歯周疾患の予防2（歯周疾患の発症機序、歯周疾患の全身に与える影響）	教科書P185～189 「歯周疾患の予防」を読んでおくこと。（概ね30分程度）
24	Ⅱ編6章　歯周疾患の予防3（歯周疾患の予防手段と処置～歯周疾患の予防段階、付着細菌の除去、定期的歯科健診と歯科保健）	教科書P189～193 「歯周疾患の予防」を読んでおくこと。（概ね30分程度）
25	Ⅱ編7章　その他の疾患・異常の予防（口内炎、口腔癌、不正咬合、顎関節症、歯の形成不全、口臭症、口腔乾燥症）	教科書P194～203 「その他の疾患・異常の予防」を読んでおくこと。（概ね30分程度）
26	Ⅲ編2章　母子保健・小児保健（1歳6か月・3歳時歯科健康診断）	教科書P248～262「母子保健」を読んでおくこと。（概ね45分程度）
27	Ⅲ編3章　学校歯科保健（学校歯科健康診断）	教科書P263～279「学校歯科保健」を読んでおくこと（概ね45分程度）
28	Ⅲ編3章　成人保健	教科書P280～296「成人保健」を読んでおくこと（概ね45分程度）
29	Ⅲ編4章　職業性疾病（職業性歯科疾患）	教科書P287～293「職業性歯科疾患」を読んでおくこと。（概ね30分程度）
30	まとめ	教科書、ノートを見直してくること。（概ね1時間程度）
教科書	『最新歯科衛生士教本　歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1　保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社	
参考文献	『最新歯科衛生士教本　歯周病学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社	
備考	・授業内課題は添削し返却する。 ・授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●			●	

科目ナンバリング
DH-2-DHC-01

科目名	歯科衛生士概論				単位認定者	大宮　由布子　花渕　静		評価の方法	試験（筆記）	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	１年	開講時期	前期	単位数	2　単位		受講態度	10　%
				授業形態	講義	授業時間数	30　時間		授業内課題	10　%
						授業回数	15　回			

授業の概要	歯科衛生士が保健・医療・福祉に関わることの意義を理解し，人々の健康を支援する専門職として倫理的な考え方と科学的な根拠をもって歯科衛生活動を展開するために必要な態度や知識，技術についての全体像を学ぶ。
到達目標	①保健・医療・福祉に関わる意義を理解する。 ②歯科衛生士法に基づく業務内容を理解し、歯科衛生士に必要な知識、技術、態度を身につける。 ③医療従事者として倫理観に基づいた考えや態度を身につける。 ④専門職として生涯にわたり学修することの意義を理解する。
学修者への期待等	欠席せず、意欲を持って臨み、目指す職業について理解して欲しい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	歯科臨床概論（歯科医療とは）	歯科診療における人－歯科診療従事者の種類と役割について調べてきてください。（概ね３０分程度）	花渕　静
2	歯科疾患の概要／歯科診療の流れ	前時の授業内容レジュメを復習し、授業に臨んでください（概ね３０分程度）	花渕　静
3	伝統的な医の倫理から新しい医の倫理へ ～父権主義での治療から患者の自己決定権の医療へ～	歯科医療倫理１章Ｐ１の到達目標①～④の内容を理解しながら教科書を熟読し、授業にのぞんでください。（概ね３０分程度）	花渕　静
4	医療倫理に関する規範とバイオエシックス	歯科医療倫理2章Ｐ10の到達目標①～⑥の内容を理解しながら教科書を熟読し、授業にのぞんでください。（概ね３０分程度）	花渕　静
5	各症例で学ぶバイオエシックスに関わる問題	歯科医療倫理2章Ｐ16-③－バイオエシックスに関わる問題について熟読し、授業にのぞんでください。（概ね３０分程度）	花渕　静
6	インフォームド・コンセント ＥＢＭ	インフォームドコンセントおよびＥＢＭの用語について調べ授業に臨んでください。（概ね３０分程度）	花渕　静
7	歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動	歯科医療倫理付章Ｐ52～72　歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動／その他歯科医療従事者に必要とされることについて熟読し、授業にのぞんでください。（概ね４０分程度）	花渕　静
8	歯科衛生学とは 歯科衛生士の歴史／海外における歯科衛生士	歯科衛生学総論 1章P1～7、2章Ｐ8～19を読んで授業に臨んでください。出身県の歯科医院数および歯科衛生士の就業人数を調べてきてください。（概ね30分程度）	大宮　由布子
9	歯科衛生士と歯科衛生士法 医療安全管理について	歯科衛生学総論　5章①歯科衛生士と歯科衛生士法Ｐ42～53④安全管理P53～65を読ん授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子
10	歯科衛生活動のための理論	歯科衛生学総論　3章歯科衛生活動のための理論Ｐ20～31を読ん授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子
11	歯科衛生過程	歯科衛生学総論　4章歯科衛生過程Ｐ32～41を読ん授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子
12	歯科衛生士の活動と組織	歯科衛生学総論　7章歯科衛生士の活動と組織Ｐ77～92を読ん授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子
13	歯科衛生士の活躍の場（１） ～歯科診療所に勤務する歯科衛生士～ ～病院歯科に勤務する歯科衛生士～	歯科衛生学総論　7章の復習およびP98付１歯科衛生士と関わる専門職を読んで授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 笠井　美穂 佐藤　さゆり
14	歯科衛生士の活躍の場（２） ～一般企業に勤務する歯科衛生士～ ～歯科衛生士養成校に勤務する歯科衛生士～	歯科衛生学総論　7章の復習およびP98付１歯科衛生士と関わる専門職を読んで授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 武山　真奈美 佐藤　結愛
15	災害支援と歯科衛生士 災害時における歯科衛生士の役割	保健生態学Ⅲ編８章災害時の歯科保健教科書P317～321を読ん授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 阿部　夕

教科書	『最新歯科衛生士教本　歯科衛生学総論』全国歯科衛生士教育協議会　監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯科医療倫理』全国歯科衛生士教育協議会　監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』第３版　全国歯科衛生士教育協議会　監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	『新歯科衛生士教本　　歯科衛生士概論』全国歯科衛生士教育協議会編集、医歯薬出版株式会社 『新歯科衛生士教本　　歯科臨床概論』全国歯科衛生士教育協議会編集、医歯薬出版株式会社 『世にも危険な医療の世界史』文藝春秋
備考	レポート、課題等は添削後、授業内で総括します。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
歯科診療所で勤務経験のある教員が、歯科衛生士として保健・医療・福祉において、倫理的考察および科学的根拠をもった活動を展開するために必要な態度や知識・技術の概要を指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-2-DHC-02

科目名	歯内療法学				単位認定者	荘司　佳奈子		評価の方法	試験（筆記）	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	20　%
						授業時間数	20　時間			
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	歯内療法学とは、歯の硬組織、歯髄腔内、根尖周囲組織の疾病や傷害に対する診断、予防、治療に関する研究を行う臨床歯学の一分野である。本科目では、歯と歯髄の疾患の治療法、最新の機器、材料、薬剤の特徴や使用法についてその基礎を学ぶ。さらに、歯内療法に関する診療補助の基礎知識を修得する。
到達目標	歯内療法学の基礎を学び、歯内療法に関する診療補助の能力を修得する。
学修者への期待等	歯内療法の対象となる患者の訴えの多くは歯の痛みであり、それを理解することが重要である。そのため歯内疾患の症状や治療法の概要をしっかり把握しておくことが大事である。また歯内療法には多くの治療用器材・器具が必要となり、その名称や形状の特徴を理解することがスムーズな診療補助に繋がるので、しっかりと講義を聴くこと。

回	授業計画	準備学修
1	歯内療法学概論（歯の痛みに関する基礎知識と歯内疾患の分類について概要を学ぶ）	教科書Ⅲ編第1章　歯内療法の概要を読み、象牙質知覚過敏症・歯髄炎・根尖性歯周炎の原因・症状・処置について理解しましょう。
2	歯髄疾患及び根尖性歯周組織疾患の分類・症状・処置（各疾患に必要な診査・診断・処置について概要を学ぶ）	歯内療法に必要な診査について、理解しましょう。
3	歯髄保存療法（歯髄鎮静療法、覆髄法、ラバーダム防湿法について学ぶ）	教科書Ⅲ編第2章　歯髄保存療法を読み、各治療法のイラストをよく見比べておきましょう。
4	歯髄の除去療法（生活歯髄切断法（生活断髄法）、直接抜髄法（麻酔抜髄法）について学ぶ）	教科書Ⅲ編第3章　歯髄の除去療法を読み、イラストで術式を把握しておきましょう。
5	根管治療・根管充填①（根管治療の概念、根管治療の流れ、必要な器材・滅菌法、感染対策法について学ぶ）	教科書Ⅲ編第4章　根管治療・根管充填を読み、ラバーダム防湿法に必要な器具について理解しましょう。
6	根管治療・根管充填②（作業長の測定法、根管の拡大形成・根管清掃・根管消毒、仮封について学ぶ）	教科書Ⅲ編第4章　根管治療・根管充填を読み、リーマー・ファイルのISO規格を覚えましょう。
7	根管治療・根管充填③（根管充填に用いる器材・根管充填の流れ・側方加圧充填法について学ぶ）	教科書Ⅲ編第4章　根管治療・根管充填を読み、側方加圧充填法の術式を覚えましょう。
8	外科的歯内療法（外科的歯内療法の種類・術式について学ぶ）	教科書Ⅲ編第5章　外科的歯内療法を読み、各治療法のイラストをよく見比べておきましょう。
9	歯の外傷、歯内療法における安全対策（歯の外傷の種類・処置法、歯内療法時の偶発事故・対処法・予防法について学ぶ）	教科書Ⅲ編第6章　歯の外傷および第7章　歯内療法における安全対策を読み、完全脱臼した歯の保存法と皮下気腫の原因・対処法について理解しましょう。
10	歯内療法における歯科衛生士の役割（根管治療、根管充填、外科的歯内療法の診療補助を学ぶ）	歯内療教科書Ⅲ編第8章　歯内療法における歯科衛生士の役割を読み、歯科衛生士として必要な診療補助を理解しましょう。今までの総復習をしましょう。

教科書	『最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	
備考	レポート課題を出す場合は、採点後、授業にて総括する。授業は遠隔（オンデマンド）で実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-2-DHC-03

科目名	保存修復学				単位認定者	八幡　祥生		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	20　%
						授業時間数	20　時間			
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	う蝕などの硬組織疾患によって生じた欠損部の様々な修復法やその修復材料についての基礎知識を修得する。さらに，保存修復における診療補助の基礎知識を修得する。
到達目標	保存修復学の基礎を学び、保存修復に関する診療補助の能力を修得する。
学修者への期待等	講義内容の理解を確実にするため、授業内容の復習を期待します。特に授業で出てくる特殊な単語を理解するように心がけて下さい。

回	授業計画	準備学修
1	概論(保存修復学の意味と概要)	教科書　Ⅱ編1章①②③をよく読んで授業に臨むjこと。授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。(概ね45分程度)
2	診査診断と前準備	教科書　Ⅰ編2章と教科書Ⅱ編1章④をよく読んで授業に臨むjこと。授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。(概ね45分程度)
3	う蝕(う蝕の病態と窩洞形成)	教科書　Ⅱ編1章①②をよく読んで授業に臨むjこと。授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。(概ね45分程度)
4	直接修復法①(コンポジットレジン修復)	教科書　Ⅱ編2章①をよく読んで授業に臨むjこと。授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。(概ね45分程度)
5	直接修復法②(グラスアイオノマーセメント修復)	教科書　Ⅱ編2章②をよく読んで授業に臨むjこと。授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。(概ね45分程度)
6	関接修復法①(メタルインレーおよびアンレー修復	教科書　Ⅱ編3章①-1、2をよく読んで授業に臨むjこと。授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。(概ね45分程度)
7	間接修復法②(審美的間接修復))	教科書　Ⅱ編3章①-3、4をよく読んで授業に臨むjこと。授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。(概ね45分程度)
8	ベニア修復とホワイトニング、合着材および接着剤	教科書　Ⅱ編3章②③をよく読んで授業に臨むjこと。授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。(概ね45分程度)
9	保存修復における歯科衛生士の役割 (保存修復処置に使用する器具・器材)	教科書　Ⅱ編4章をよく読んで授業に臨むjこと。授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。(概ね45分程度)
10	演習問題と解説、復習のポイント	プリントを配布するので、授業終了後に復習すること。(概ね20分)

教科書	『最新歯科衛生士教本　歯の硬組織・歯髄疾患　保存修復・歯内療法』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	
備考	授業は遠隔(オンデマンド)で実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-2-DHP-01

科目名	歯科予防処置法				単位認定者	大宮　由布子		評価の方法	試験（筆記）	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	2　単位		授業内課題	10　%
						授業時間数	60　時間		受講態度	10　%
				授業形態	演習	授業回数	30　回			

授業の概要	口腔疾患を予防し、歯と口腔の健康を維持・増進させるためにう蝕と歯周病の原因を理解し、う蝕予防法と歯周病予防法の基本的な知識・技術および態度を修得する。また、健康像と病的変化を把握し、口腔観察の基本を学ぶ。その手技として各検査法、予防的歯石除去法の基礎知識を学び、それに用いる器具・器材の使用法と手技を理解する。
到達目標	①歯周病予防法の基礎知識を理解し、基礎的な技術を修得する。 ②う蝕の原因とその予防法を理解しその技術を修得する。
学修者への期待等	1.身だしなみをきちんと整え、教科書等の忘れ物がないように授業に臨むこと。 2.欠席・欠課をしないよう意欲的臨んでほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	歯科予防処置の概要	教科書Ⅰ編総論1章P2～5　歯科予防処置の概要P11～13予防の概念を読んでおくこと。(概ね30分程度)	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈
2	口腔内の付着物・沈着物	教科書Ⅱ編2章P28～32、口腔内の付着物・沈着物、Ⅲ編2章P139～140 6)歯面の付着物・沈着物を読んでおくこと。(概ね30分程度)	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈
3	口腔内の検査　エキスプローラ―基本操作	教科書Ⅲ編2章P144～151　7）歯周ポケット、8）歯の動揺度を読んでおくこと。（概ね30分程度）	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
4	スケーリングの基礎知識(スケーラーの種類、構成、操作方法)	教科書Ⅲ編3章P185～195　歯科衛生介入としての歯科予防処置　スケーリング・ルートプレーニングを読んでください。(概ね30分程度)	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
5	スケーラーの基本操作　部位別操作(下顎前歯部)顎模型演習	前時の復習および教科書Ⅲ編3章P196～197　4)部位別操作法下顎前歯部・上顎前歯部を読んでください。(概ね30分程度)	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
6	スケーラーの基本操作　部位別操作(上顎前歯部)顎模型演習	前時の復習および教科書Ⅲ編3章P196～197　4)部位別操作法下顎前歯部・上顎前歯部を読んでください。(概ね30分程度)	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
7	スケーラーの基本操作　部位別操作(下顎右側臼歯部)顎模型演習	前時の復習および教科書Ⅲ編3章P198～199　4)部位別操作法下顎右側臼歯部、下顎左側臼歯部を読んでください。(概ね30分程度)	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
8	スケーラーの基本操作　部位別操作(下顎左側臼歯部)顎模型演習	前時の復習および教科書Ⅲ編3章P198～199　4)部位別操作法下顎右側臼歯部、下顎左側臼歯部を読んでください。(概ね30分程度)	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
9	スケーラーの基本操作　部位別操作(上顎右側臼歯部)顎模型演習	前時の復習および教科書Ⅲ編3章P198～199　4)部位別操作法上顎右側臼歯部、上顎左側臼歯部を読んでください。(概ね30分程度)	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
10	スケーラーの基本操作　部位別操作(上顎左側臼歯部)顎模型演習	前時の復習および教科書Ⅲ編3章P198～199　4)部位別操作法上顎右側臼歯部、上顎左側臼歯部を読んでください。(概ね30分程度)	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
11	歯面研磨（ポリッシング）	教科書Ⅲ編３章P222～227　歯科衛生介入としての歯科予防処置　歯面研磨を読んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈
12	歯面研磨　顎模型による演習（下顎）	前時の復習をし、授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
13	歯面研磨　顎模型による演習（上顎）	前時の復習をし、授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
14	歯石除去相互演習①（下顎前歯部）一人目(検査、歯石除去、歯面研磨)	シラバス5回目および前時までの復習をして授業に臨んでください。(概ね30分程度)	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
15	歯石除去相互演習②（下顎前歯部）二人目、三人目 (検査、歯石除去、歯面研磨)	シラバス5回目および前時までの復習をして授業に臨んでください。(概ね30分程度)	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子

回	授業計画	準備学修	担当
16	歯石除去相互演習③（下顎右側臼歯部）一人目、二人目（検査、歯石除去、歯面研磨）	シラバス7回目および前時までの復習をして授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
17	歯石除去相互演習④（下顎右側臼歯部）三人目（検査、歯石除去、歯面研磨）	シラバス7回目および前時までの復習をして授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
18	歯石除去相互演習⑤（下顎左側臼歯部）一人目、二人目（検査、歯石除去、歯面研磨）	シラバス8回目および前時までの復習をして授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
19	歯石除去相互演習⑥（下顎左側臼歯部）三人目（検査、歯石除去、歯面研磨）	シラバス8回目および前時までの復習をして授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
20	歯石除去相互演習⑦（上顎前歯部）　一人目、二人目（検査、歯石除去、歯面研磨）	シラバス6回目および前時までの復習をして授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
21	歯石除去相互演習⑧（上顎前歯部）　三人目（検査、歯石除去、歯面研磨）	シラバス6回目および前時までの復習をして授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
22	歯石除去相互演習⑨（上顎右側臼歯部）　一人目、二人目（検査、歯石除去、歯面研磨）	シラバス9回目および前時までの復習をして授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
23	歯石除去相互演習⑩（上顎右側臼歯部）　三人目（検査、歯石除去、歯面研磨）	シラバス9回目および前時までの復習をして授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
24	歯石除去相互演習⑪（上顎左側臼歯部）一人目、二人目（検査、歯石除去、歯面研磨）	シラバス10回目および前時までの復習をして授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
25	歯石除去相互演習⑫（上顎左側臼歯部）三人目（検査、歯石除去、歯面研磨）	シラバス10回目および前時までの復習をして授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
26	パワー（機械的）スケーラーの基礎知識 種類、特徴、取り扱い方法　顎模型演習①	教科書Ⅲ編3章P209～P220パワー（機械的）スケーラーについて読んできたください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
27	パワー（機械的）スケーラーの基礎知識 種類、特徴、取り扱い方法　顎模型演習②	教科書Ⅲ編3章P209～P220パワー（機械的）スケーラーについて読んできたください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
28	パワー（機械的）スケーラーによるスケーリング相互演習⑬　1人目 （超音波スケーラー、手用スケーラー、PMTC）	前時までの授業を復習し、授業に臨んでください。 （概ね30分程度）	大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
29	パワー（機械的）スケーラーによるスケーリング相互演習⑭　2人目 （超音波スケーラー、手用スケーラー、PMTC）		大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
30	パワー（機械的）スケーラーによるスケーリング相互演習⑮　3人目 （超音波スケーラー、手用スケーラー、PMTC）		大宮　由布子 武山　真奈美 西條　佳奈 宍戸　敦子
教科書	『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献	『最新歯科衛生士教本　歯周病学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1　保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
備考	シラバス1,2,11回目合同講義、シラバス4～10, 12,13,26,27回目は実験室にてクラス別演習、その他は、歯科実習室にてクラス別演習。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
歯科診療所で勤務経験のある教員が、う蝕および歯周病予防法について基礎知識と技術を指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-2-DHP-06

科目名	保健指導論				単位認定者	大宮　由布子		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	10 %
						授業時間数	30　時間		授業内課題	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	歯科衛生士が行う歯科保健指導業務の専門性について理解し、正常な口腔とその機能について学ぶ。また、各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、そして、望ましい歯科保健行動について理解する。
到達目標	①歯科保健指導の意義および目的を理解する。 ②個人を対象とした歯科保健指導を実践するための基礎知識と技術を修得する。
学修者への期待等	欠席や遅刻をせず、準備学修はしっかりと行い、歯科保健指導論の基礎となる部分を身につけられるよう意欲的に学んでください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	歯科保健指導の概要	1編　総論　1章　歯科保健指導の概要について教科書P2～13を読んできてください。(概ね30分程度)	大宮　由布子
2	口腔の働きと特徴	Ⅱ編　1章　口腔の基礎知識について教科書P16～27を読んできてください。（概ね30分程度）	大宮　由布子
3	う蝕と歯周病	Ⅱ編　2章　う蝕と歯周病の基礎知識について教科書P28～43を読んできてください。(概ね30分程度)	大宮　由布子
4	食生活とう蝕、歯周病の関係	Ⅱ編　3章　⑥食品とう蝕誘発性～⑩特別用途食品と保健機能食品について教科書P68～85を読んできてください。(概ね30分程度)	大宮　由布子
5	食生活指導	Ⅱ編　3章　食生活指導のための基礎知識　①国民の健康と栄養の現状～⑤食事摂取基準について教科書P44～68を読んできてください。	大宮　由布子
6	保健行動支援のための基礎知識	Ⅱ編　4章保健行動支援のための基礎知識について教科書P86～96を読んできてください。(概ね30分程度)	大宮　由布子
7	歯科衛生過程の進め方	Ⅲ編1章　歯科衛生過程の進め方①歯科衛生過程の概要について教科書P98～106を読んできてください。(概ね20分程度)	大宮　由布子
8	対象者の把握	Ⅲ編　2章　①患者からの情報収集～⑤生活習慣の把握について教科書P119～131を読んできてください。(概ね30分程度)	大宮　由布子
9	口腔内観察と検査　（器質的問題の把握）	Ⅲ編　2章　⑥口腔の器質的問題の把握について教科書P133～153を読んできてください。(概ね30分程度)	大宮　由布子
10	口腔内観察と検査　（機能的問題の把握）	Ⅲ編　2章　⑦口腔の機能的問題の把握について教科書P153～158を読んできてください。(概ね20分程度)	大宮　由布子
11	口腔清掃指数	Ⅲ編　2章　⑧分析のためのデータについて教科書P158～161読んできてください。(概ね30分程度)	大宮　由布子
12	口腔清掃用具(歯ブラシと歯磨剤)	Ⅲ編　4章　歯科衛生介入としての歯科保健指導①口腔衛生管理に関わる指導について教科書P268～273を読んできてください。(概ね20分程度)	大宮　由布子
13	口腔清掃指導法　歯ブラシ検討演習	前時の復習と、自身が使用している歯ブラシについて特徴をまとめてきてください。（概ね３０分）	大宮　由布子 千葉　藍
14	口腔清掃指導法　ブラッシング方法	Ⅲ編　4章　歯科衛生介入としての歯科保健指導　①口腔衛生管理3)ブラッシング方法について教科書P273～278を読んできてください。(概ね20分程度)	大宮　由布子 千葉　藍
15	各種ブラッシング法演習		大宮　由布子 千葉　藍

教科書	『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	『最新歯科衛生士教本　小児歯科』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　高齢者歯科』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　障害者歯科』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『健康寿命の延伸をめざした 口腔機能への気づきと支援　ライフステージごとの機能を守り育てる』(公財)ライオン歯科衛生研究所編、医歯薬出版株式会社
備考	シラバス1～12回目は教室で合同講義。シラバス13～15回目は各クラスごと実習室にて演習。レポートおよび課題は添削後、授業内で総括する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
歯科診療所で勤務経験のある教員が、歯科保健指導の意義とそれを実践するための基礎知識を指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●		

科目ナンバリング
DH-2-DHP-07

科目名	保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）				単位認定者	花渕　静 武山　真奈美		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	10 %
						授業時間数	30　時間		授業内課題	10 %
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	歯科保健指導において、対象者の健康を保つためのセルフケアに必要な口腔清掃用具の種類と使用目的について学ぶ。また、プラークコントロールを中心とした各種ブラッシング方法を理解し、演習においてその技術を修得する。
到達目標	歯科保健指導において歯科衛生士が使用するさまざまな口腔清掃用具の使用法を学び、その基本的実技に習熟し、臨床の場に十分対応し得る能力を修得する。
学修者への期待等	1.欠席・欠課をしないよう意欲を持って授業に臨んで欲しい。 2.身だしなみをきちんと整え、教科書等忘れ物をしないようにして欲しい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	口腔清掃自習法（自分自身の口腔内観察） ブラッシング法演習	『歯科予防処置・歯科保健指導論』P216～表Ⅲ-3-20【歯ブラシの毛先を使ったブラッシング方法】表Ⅲ-3－21【歯ブラシのわき腹を使ったブラッシング方法】を読んで授業に臨んでください。（概ね20分程度）	花渕　静 武山真奈美
2	フロッシング検討演習	『歯科予防処置・歯科保健指導論』P223～表Ⅲ-3-23【デンタルフロスの種類と特徴】P220表Ⅲ-3-22【デンタルフロスの種類と使用方法】を読んで授業に臨んでください。（概ね20分程度）	花渕　静
3	歯間ブラシ／タフトブラシ検討演習	『歯科予防処置・歯科保健指導論』P220～表Ⅲ-3-22【歯間ブラシと使用方法】を読んで授業に臨んでください。（概ね20分程度）	武山　真奈美
4	電動歯ブラシ検討演習 各種清掃補助用具検討演習	『歯科予防処置・歯科保健指導論』P209表Ⅲ-3-16【電動歯ブラシ、音波ブラシ、超音波歯ブラシの使用法】P221表Ⅲ-3-22【スポンジブラシの種類と使用方法】を読んで授業に臨んでください。（概ね20分程度）	武山　真奈美
5	歯磨剤／洗口剤検討演習 （推奨される効果的なフッ化物配合歯磨剤の使用方法）	『歯科予防処置・歯科保健指導論』P221表Ⅲ-3-17【歯磨剤の成分による分類】を読んで授業に臨んでください。（概ね20分程度）	花渕　静
6	各症例別歯磨剤の推奨方法について	『歯科予防処置・歯科保健指導論』P221表Ⅲ-3-17【歯磨剤の成分による分類】を読んで授業に臨んでください。（概ね20分程度）	花渕　静
7	オーレリーのPCRチャート判定検討 相互演習（1）／（演習説明／術者1人目）	シラバス2回目の演習記録および授業資料を読んで授業に臨んでください。（概ね20分）	花渕　静 武山　真奈美 千葉　藍
8	オーレリーのPCRチャート判定検討 相互演習（2）／（術者2人目、3人目／演習まとめ）	シラバス2回目の演習記録および授業資料を読んで授業に臨んでください。（概ね20分）	花渕　静 武山　真奈美 千葉　藍
9	各種手用口腔清掃用具による術者磨き 相互演習（1）／（演習手順説明／術者1人目）	シラバス2回目の演習記録および授業資料を読んで授業に臨んでください。（概ね20分）	花渕　静 武山　真奈美 千葉　藍
10	各種手用口腔清掃用具による術者磨き 相互演習（2）／（術者2人目、3人目／演習まとめ）	シラバス2回目の演習記録および授業資料を読んで授業に臨んでください。（概ね20分）	花渕　静 武山　真奈美 千葉　藍
11	歯面研磨・歯面清掃（PTCとPMTC）エバチップ操作相互演習　（1）／（演習手順説明／術者1人目）	『歯科予防処置・歯科保健指導論』第Ⅲ編3章②歯面研磨・歯面清掃（PTC）を読んで授業に臨んでください。（概ね20分程度）	花渕　静 武山　真奈美 千葉　藍
12	歯面研磨・歯面清掃（PTCとPMTC）エバチップ操作相互演習　（2）／（術者2人目、3人目／演習まとめ）	『歯科予防処置・歯科保健指導論』第Ⅲ編3章②歯面研磨・歯面清掃（PTC）およびシラバス11回目の授業資料を読んで授業に臨んでください。（概ね20分程度）	花渕　静 武山　真奈美 千葉　藍
13	歯面研磨・歯面清掃（PTCとPMTC） 相互演習（1）／（演習手順説明／術者1人目／手技評価）	『歯科予防処置・歯科保健指導論』第Ⅲ編3章②歯面研磨・歯面清掃（PTC）およびシラバス11回・12回目の演習記録および授業資料を読んで授業に臨んでください。（概ね20分程度）	花渕　静 武山　真奈美 千葉　藍
14	歯面研磨・歯面清掃（PTCとPMTC） 相互演習（2）／（術者2人目／手技評価）	『歯科予防処置・歯科保健指導論』第Ⅲ編3章②歯面研磨・歯面清掃（PTC）およびシラバス11回・12回目の演習記録および授業資料を読んで授業に臨んでください。（概ね20分程度）	花渕　静 武山　真奈美 千葉　藍
15	歯面研磨・歯面清掃（PTCとPMTC） 相互演習（3）／（術者3人目／手技評価／演習まとめ）	『歯科予防処置・歯科保健指導論』第Ⅲ編3章②歯面研磨・歯面清掃（PTC）およびシラバス11回・12回目の演習記録および授業資料を読んで授業に臨んでください。（概ね20分程度）	花渕　静 武山　真奈美 千葉　藍

教科書	『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	『新歯科衛生士教本　歯科保健指導』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生士のための齲蝕予防処置法』中垣晴男ほか編著、医歯薬出版株式会社
備考	２クラスに分かれて歯科実習室にて講義・演習を行う。 シラバス１回目～６回目　新歯科演習室　　シラバス７回目～１５回目　８階歯科実習室

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
歯科診療所で勤務経験のある教員が、対象者に合わせた口腔清掃用具の基礎知識と使用法の技術を指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-2-DHP-12

科目名	歯科診療補助法（基礎知識）				単位認定者	花渕　静　武山　真奈美 長南　真弓　西條　佳奈		評価の方法	試験（筆記）	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2　単位		受講態度	20　%
				授業形態	講義	授業時間数	40　時間			
						授業回数	20　回			

授業の概要	歯科衛生士が行う歯科診療補助業務の法的な変化および業務の専門性について理解する。 また、歯科診療補助のみならず歯科衛生士の活動に関わる医療安全と感染予防の基礎知識を学び実践できる能力を身につける。さらに、歯科衛生士が取り扱う歯科材料、歯科機器の種類、目的、用途ならびに歯科理工学的特性について理解する。
到達目標	歯科診療補助及び歯科材料に関する知識を学び、その基本的実技を習熟し、臨床の場に十分対応し得る能力を修得する。
学修者への期待等	1.欠席・欠課をしないよう意欲を持って授業に臨んで欲しい。 2.身だしなみをきちんと整え、教科書等忘れ物をしないようにして欲しい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	歯科診療補助の概念／歯科診療室の基礎知識	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第1章歯科診療補助の概念および第3章歯科診療における基礎知識①-歯科診療室の基礎知識を読み授業に臨むこと。（概ね60分程度）	武山 真奈美
2	歯科材料/歯科機器の種類と特性	『歯科材料』vii執筆の序、Ⅰ編第1歯科材料と歯科衛生士および2章歯科材料の基礎知識『歯科機器』vii執筆の序、第1章および第2章①-歯科用ユニット、④-滅菌・消毒用機器、第4章④-歯およびロ腔検査用機器を読み授業に臨むこと。（概ね60分程度）	武山 真奈美
3	医療従事者としての身だしなみについて 清潔・不潔の概念について	医療従事者としての身だしなみが重要視される理由とは何か。考察すること。清潔・不潔の概念について調べてきてください。（概ね40分程度）	武山 真奈美 長南　真弓
4	歯科診療所における患者対応の基本 ／共同動作　基礎演習	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章③-共同動作を読み授業に臨むこと。（概ね60分程度）	花渕　静 長南 真弓 三浦　悦子 宍戸敦子
5	バキューム・スリーウェイシリンジテクニック マネキン演習	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章③-6. バキュームテクニック、7.スリーウェイシリンジテクニックを読み授業に臨むこと。また、シラバス第4回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	花渕　静 長南 真弓 三浦　悦子 宍戸敦子
6	共同動作（患者誘導～口腔内洗浄） 相互演習（1） ／（演習手順説明／術者1人目）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章②-歯科診療所における受診の流れ、③-6. バキュームテクニック、7.スリーウェイシリンジテクニックを読み授業に臨むこと。また、シラバス第4、5回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	花渕　静 長南 真弓 三浦　悦子 宍戸敦子
7	共同動作（患者誘導～口腔内洗浄） 相互演習（2） ／（術者2人目、3人目／演習まとめ）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章②-歯科診療所における受診の流れ、③-6. バキュームテクニック、7.スリーウェイシリンジテクニックを読んで授業に臨むこと。また、シラバス第4～6回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	花渕　静 長南 真弓 三浦　悦子 宍戸敦子
8	合着材の基礎知識／基礎演習	『歯科材料』Ⅱ編第4章①-はじめに、②-合着材の種類と用途、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編5章③-合着・接着の補助を読み授業に臨むこと。（概ね60分程度）	西條 佳奈 長南 真弓 三浦　悦子 宍戸　敦子
9	合着・接着の補助（各種合着材練和演習）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章③-合着・接着の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第8回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	西條 佳奈 長南 真弓 三浦　悦子 宍戸　敦子
10	各種印象材の基礎知識 遠隔【オンデマンド】	『歯科材料』Ⅱ編第2章印象材を読み授業に臨むこと。（概ね60分程度）	武山真奈美

回	授業計画	準備学修	担当
11	アルジネート印象材の基礎知識／練和演習	『歯科材料』Ⅱ編第2章③-1. アルジネート印象材、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-2.アルジネート印象材による概形印象採得を読み授業に臨むこと。また、シラバス第10回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	長南　真弓 花渕　静 三浦　悦子 宍戸　敦子
12	アルジネート印象材による概形印象採得 マネキン演習	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-2.アルジネート印象材による概形印象採得を読み授業に臨むこと。また、シラバス第11回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	長南　真弓 花渕　静 三浦　悦子 宍戸　敦子
13	アルジネート印象材による概形印象採得 相互演習（1） ／（演習手順説明／術者1人目）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-2.アルジネート印象材の概形印象採得を読み授業に臨むこと。また、シラバス第11、12回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	長南　真弓 花渕　静 三浦　悦子 宍戸　敦子
14	アルジネート印象材による概形印象採得 相互演習（2） ／（術者2人目、術者3人目／演習まとめ）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-2.アルジネート印象材の概形印象採得を読み授業に臨むこと。また、シラバス第11～13回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	長南　真弓 花渕　静 三浦　悦子 宍戸　敦子
15	模型用材料の基礎知識／各種石膏検討演習	『歯科材料』Ⅱ編第3章模型用材料、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編5章②-模型の作製を読み授業に臨むこと。（概ね60分程度）	長南　真弓 武山　真奈美 三浦　悦子 宍戸　敦子
16	歯科用石膏の取り扱い　基礎演習（1） ／（演習手順説明／術者1人目）	『歯科材料』Ⅱ編第3章模型用材料、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編5章②-模型の作製を読み授業に臨むこと。また、シラバス第15回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	長南　真弓 武山　真奈美 三浦　悦子 宍戸　敦子
17	歯科用石膏の取り扱い　基礎演習（2） ／（術者2人目／演習まとめ）	『歯科材料』Ⅱ編第3章模型用材料、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編5章②-模型の作製を読み授業に臨むこと。また、シラバス第15、16回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	長南　真弓 武山　真奈美 三浦　悦子 宍戸　敦子
18	アルジネート印象材による概形印象採得 石膏模型作製　相互演習（1） ／（演習手順説明／術者1人目）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-2.アルジネート印象材の概形印象採得、②-模型の作製、『歯科材料』Ⅱ編第3章模型用材料を読み授業に臨むこと。（概ね40分程度）	長南　真弓 花渕　静 武山　真奈美 三浦　悦子
19	アルジネート印象材による概形印象採得 石膏模型作製　相互演習（2） ／（術者2人目）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-2.アルジネート印象材の概形印象採得、②-模型の作製、『歯科材料』Ⅱ編第3章模型用材料を読み授業に臨むこと。また、シラバス第18回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね30分程度）	長南　真弓 武山　真奈美 三浦　悦子 宍戸　敦子
20	アルジネート印象材による概形印象採得 石膏模型作製　相互演習（3） ／（術者3人目／演習まとめ）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-2.アルジネート印象材の概形印象採得、②-模型の作製、『歯科材料』Ⅱ編第3章模型用材料を読み授業に臨むこと。また、シラバス第18回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね30分程度）	長南　真弓 花渕　静 武山　真奈美 三浦　悦子
教科書	『最新歯科衛生士教本　歯科診療補助論　第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯科材料』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯科機器』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献	授業の中で適宜紹介する。		
備考	1・2回は合同授業。10回は遠隔（オンデマンド）で実施する。3～7回、11～20回は歯科実習室、8、9回は新演習室にてクラス別に講義・演習を行う。6、7回、13、14回、16、17回は連続で演習を行う。 なお、授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。		

以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
歯科診療所で勤務経験のある教員が、歯科衛生士が取り扱う材料と機器の基礎知識と基本的技術を指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●			

科目ナンバリング
DH-2-DHP-13

科目名	歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）	単位認定者	武山　真奈美 長南　真弓　西條　佳奈	評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科 / 必修 / 1年	開講時期	後期	単位数	2　単位	受講態度	20 %
		授業時間数	40　時間			
		授業形態	演習	授業回数	20　回		

授業の概要	「歯科診療補助法（基礎知識）」で学んだ標準予防策（スタンダードプレコーション）の実践方法を修得し、歯科診療で取り扱うさまざまな歯科材料、歯科機器の基礎知識、取り扱い上の留意点を理解した上での顎模型、マネキン演習、相互演習の3段階を経て基本技術を修得する。
到達目標	歯科診療補助及び歯科材料に関する知識を学び、その基本的実技に習熟し、臨床の場に十分対応し得る能力を修得する。
学修者への期待等	1.欠席・欠課をしないよう意欲を持って授業に臨んで欲しい。 2.身だしなみをきちんと整え、教科書等忘れ物をしないようにして欲しい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	ワックスの基礎知識／基礎演習	『歯科材料』Ⅱ編第8章ワックスを読み授業に臨むこと。（概ね40分程度）	西條　佳奈 長南　真弓 三浦　悦子
2	仮封材の基礎知識／基礎演習	『歯科材料』Ⅱ編第6章仮封材、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章⑤-仮封・仮着の補助を読み授業に臨むこと。（概ね60分程度）	西條　佳奈 長南　真弓 三浦　悦子
3	各種仮封材の取り扱い　マネキン演習（1）	『歯科材料』Ⅱ編第6章仮封材、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章⑤-仮封・仮着の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第2回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	西條　佳奈 長南　真弓 三浦　悦子
4	各種仮封材の取り扱い　マネキン演習（2）	『歯科材料』Ⅱ編第6章仮封材、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章⑤-仮封・仮着の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第2、3回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	西條　佳奈 長南　真弓 三浦　悦子
5	寒天印象材の基礎知識／基礎演習	『歯科材料』Ⅱ編第2章③-2.寒天印象材、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-3.寒天印象採得の補助を読み授業に臨むこと。（概ね60分程度）	長南　真弓 三浦　悦子 千葉　藍
6	寒天・アルジネート連合印象採得 マネキン演習	『歯科材料』Ⅱ編第2章③-2.寒天印象材、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-3.寒天印象採得の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第5回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	長南　真弓 三浦　悦子 千葉　藍
7	寒天・アルジネート連合印象採得相互演習（1）／（演習手順説明／術者1人目）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-3.寒天印象採得の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第5、6回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	長南　真弓 三浦　悦子 千葉　藍
8	寒天・アルジネート連合印象採得相互演習（2）／（術者2人目、3人目／演習まとめ）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-3.寒天印象採得の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第5～7回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	長南　真弓 三浦　悦子 千葉　藍
9	シリコーンゴム印象材の基礎知識／基礎演習	『歯科材料』Ⅱ編第2章③-3.シリコーンゴム印象材、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-4.合成ゴム質印象の補助を読み授業に臨むこと。（概ね60分程度）	長南　真弓 三浦　悦子 千葉　藍
10	シリコーンゴム印象材による精密印象採得 マネキン演習	『歯科材料』Ⅱ編第2章③-3.シリコーンゴム印象材、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-4.合成ゴム質印象の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第9回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	長南　真弓 三浦　悦子 千葉　藍

回	授業計画	準備学修	担当
11	シリコーンゴム印象材による精密印象採得 相互演習（1） ／（演習手順説明／術者1人目）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-4.合成ゴム質印象の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第9、10回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	長南　真弓 三浦　悦子 千葉　藍
12	シリコーンゴム印象材による精密印象採得 相互演習（2） ／（術者2人目、3人目／演習まとめ）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-4.合成ゴム質印象の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第9～11回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	長南　真弓 三浦　悦子 千葉　藍
13	ラバーダム防湿の基礎知識／基礎演習	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章⑦-ラバーダム防湿を読み授業に臨むこと。（概ね60分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 三浦　悦子
14	ラバーダム防湿　マネキン演習	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章⑦-ラバーダム防湿を読み授業に臨むこと。また、シラバス第13回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 三浦　悦子
15	ラバーダム防湿　相互演習（1） ／（演習手順説明／術者1人目）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章⑦-ラバーダム防湿を読み授業に臨むこと。また、シラバス第13、14回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 三浦　悦子
16	ラバーダム防湿　相互演習（2） ／（術者2人目、3人目／演習まとめ）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章⑦-ラバーダム防湿を読み授業に臨むこと。また、シラバス第13～15回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 三浦　悦子
17	暫間修復材の基礎知識／基礎演習	『歯科材料』Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメントを読み授業に臨むこと。（概ね40分程度）	西條　佳奈 長南　真弓 千葉　藍
18	口腔内写真撮影の基礎知識／基礎演習	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章⑤-2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』Ⅲ編第2章⑧-2.写真・画像を読み授業に臨むこと。（概ね40分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍
19	暫間修復物（既製冠）作製演習 ／口腔内写真撮影（5枚法）相互演習（1）	『歯科材料』Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメント、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章⑤-2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』Ⅲ編第2章⑧-2.写真・画像を読み授業に臨むこと。シラバス第17、18回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね30分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 西條　佳奈 三浦　悦子 千葉　藍
20	暫間修復物（既製冠）作製演習 ／口腔内写真撮影（5枚法）相互演習（2）	『歯科材料』Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメント、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章⑤-2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』Ⅲ編第2章⑧-2.写真・画像を読み授業に臨むこと。シラバス第17、18回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね30分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 西條　佳奈 三浦　悦子 千葉　藍
教科書	『最新歯科衛生士教本　歯科診療補助論　第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯科材料』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯科機器』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論　第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献	授業の中で適宜紹介する。		
備考	5～17回、19、20回は歯科実習室、1～4回、18回は新演習室にてクラス別に講義・演習を行う。 5、6回、7、8回、、9、10回、11、12回、15、16回は連続で演習を行う。 なお、授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。		

以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
歯科診療所で勤務経験のある教員が、歯科診療で取り扱う材料と機器について臨床の場で対応できる技術を指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●			

科目ナンバリング
DH-2-DHP-16

科目名	感染予防法				単位認定者	佐藤　由美子 花渕　静		評価の方法	試験（筆記）	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	20　%
						授業時間数	20　時間			
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	歯科医療行為の多くは外科的な治療と位置づけられ、歯科医療従事者の感染リスクは低くない。加えて医療の高度化に伴う易感染性宿主の増加や進行ないし再興感染症の拡大等から、歯科医療の現場でも十分な感染予防対策をとる必要に迫られている。感染が起こる原因の理解と感染予防対策の具体的方法について学び、臨床の場で実践できる能力を修得する。
到達目標	感染症に関わる予防法について理解し、臨床の場で実践できる能力を修得する。
学修者への期待等	感染に対する理解は、自分自身を感染から守るだけでなく、病院あるいは診療所において、患者に感染を生じさせないことにつながっている。したがって、臨床の現場で、どこに感染の危険性が潜んでいるのか、常に感染対策に関するリスク管理が必要である。欠席しないこと。授業中は私語を慎しむこと。

回	授業計画	準備学修	担当
1	感染症が起こるメカニズム	教科書を読み、感染と感染症の違い、感染を起こす要因について予習してきてください。また、感染しやすい患者（易感染患者）とはどのような患者か、調べてください。（概ね30分程度）	佐藤　由美子
2	病院内で感染を起こす微生物について　院内感染の危険性	教科書を読み、媒介者にならないためにどのようなことを留意すべきか考えてきてください。（概ね30分程度）	佐藤　由美子
3	スタンダードプリコーションの考え方 感染経路別予防策の考え方	教科書を読み標準予防策が必要なのは、診療のどの場面なのか調べてきてください。（概ね30分程度）	佐藤　由美子
4	血液由来病原体による職業感染防止対策	教科書を読み針刺し防止対策の重要性を考えてきてください。また小児ウイルス性疾患に罹患したか？ワクチンを接種しているか？調べてきてください。（概ね30分程度）	佐藤　由美子
5	演習①手指衛生、個人防護具着脱演習	アルコール手指消毒剤と流水下での手洗い、どちらが効果的か調べてきてください。（概ね30分程度）	花渕　静 武山　真奈美 長南　真弓
6	演習②手指衛生、個人防護具着脱演習	アルコール手指消毒剤と流水下での手洗い、どちらが効果的か調べてきてください。（概ね30分程度）	花渕　静 武山　真奈美 長南　真弓
7	滅菌と消毒	歯科診療の場面でどのような器具の洗浄・消毒・滅菌が必要か調べてきてください。（概ね30分程度）	花渕　静
8	医療廃棄物の取り扱い 歯科医療における感染予防対策の実践	歯科診療補助論P44～47までを読み医療廃棄物の分別方法について調べてきてください。（概ね30分程度）	花渕　静
9	歯科医療における清潔・不潔について グループワーク①	今までの授業の復習をして来てください。また、実習先での感染対策に関する疑問などまとめてきてください。（概ね30分程度）	花渕　静 武山　真奈美
10	歯科医療における清潔・不潔について グループワーク②	今までの授業の復習をして来てください。また、実習先での感染対策に関する疑問などまとめてきてください。（概ね30分程度）	花渕　静 武山　真奈美

教科書	『最新歯科衛生士教本　歯科診療補助論　第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	『歯科医療における感染管理のためのCDCガイドライン』満田年宏・丸森英史監修、国際医学出版株式会社 『歯科医院の感染管理　常識非常識　Q&Aで学ぶ勘所と実践のヒント』前田芳信監修、クインテッセンス出版株式会社
備考	1・2・3・4・7・8回は、2クラス合同講義　5・6回は2クラスに分かれて8階実習室で授業を行う。 9・10回は2クラスに分かれて7階歯科演習室で授業を行う。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●		

科目ナンバリング
DH-2-CLT-01

科目名	臨地実習Ⅰ（臨床基礎）				単位認定者	小野寺　健　伊藤恵美 大宮由布子　花渕　静 武山真奈美　長南真弓 西條　佳奈		評価の方法	実習状況	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	4　単位			
						授業時間数	180　時間			
				授業形態	実習	授業回数	集中			

授業の概要	本科目は、医療機関で行う臨床実習と、教育機関で行う臨地実習からなる。前期に行う医療機関での見学実習では、歯科診療の業務内容、及び歯科医療チームの一員としての歯科衛生士の役割を理解し、歯科衛生士としての心構えを身につける。後期に行う臨床実習では、学内で既修の知識、技術、態度を具体的、かつ、実際的に理解し、歯科衛生士としての役割を把握する。また、教育機関で行う臨地実習を通して、ライフステージに合わせた歯科保健指導について学ぶ。歯科衛生士として基本的な知識、技能及び態度を身につけ、今後の学修目標を明確にする。
学修者への期待等	1）臨床現場における歯科衛生士の業務を見学することで将来の自分の歯科衛生士像をイメージしてください。 2）学内で学んだ知識、技術を具体的かつ実践的に実施してください。

授業計画

1．実習期間
1）歯科診療所見学実習：6月（2日間）
2）歯科診療所臨床実習：1月～2月（21日間）
3）小学校実習：1日間

2．実習の目的
1）歯科医院見学実習
（1）歯科医院における歯科診療の流れを理解する。
（2）歯科医院における歯科衛生士の仕事内容を理解する。
2）歯科医院臨床実習
（1）歯科診療の流れを理解し、それに必要な診療介助の方法を理解する。
（2）歯科衛生士が歯科医院で行う歯科診療補助、歯科予防処置歯科保健指導の内容を理解する。
（3）1年次に学内で学んだ知識、技術を臨床現場で実施することにより自己の学修成果を確認する。
3）小学校実習
（1）ライフステージに合わせた歯科保健指導について理解する。
（2）児童との円滑なコミュニケーションの重要性を理解する。

3．実習計画
1）歯科医院見学実習
実習項目）
・診療室内の環境整備
・患者誘導
・各症例の見学（患者来院～治療終了後まで）

2）歯科医院臨床実習
実習項目）
・診療室内の環境整備
・患者誘導
・使用器具・器材・材料の準備・後片付け
・診療介助（バキューム／ライティング／器具・器材の受け渡し）
・各種検査記録（歯式、歯周検査、O’Leary）
・印象採得介助（印象材練和）
・各種セメントの取り扱い

3）小学校実習
実習項目）
・学年に合わせた歯科保健指導案の作製
・児童に対する口腔衛生集団指導の実施

教科書	1年次で、専門展開科目で使用する各教科書
参考文献	特になし。
備考	実習終了後に、実習報告会を実施する。この報告会で実習の振り返りを行い、実習評価について総括する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

歯科衛生学科
２年生

（２０２１年度入学生）

- ■　カリキュラムツリー
- ■　カリキュラムマップ
- ■　年間予定表
- ■　シラバス

2022年度歯科衛生学科2年生　カリキュラムツリー

教養教育分野
専門支持科目
専門展開科目（講義）
専門展開科目（演習）
専門展開科目（関連分野）(講義、演習）
実習

1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期
臨地実習Ⅰ（臨床基礎）		臨地実習Ⅱ（臨床応用）		臨地実習Ⅲ（臨床総合）	
		臨地実習指導（臨床応用）		臨地実習指導（臨床総合）	
歯科予防処置法		歯周病予防法（臨床基礎）		歯周病予防法（臨床応用）	
		う蝕予防処置法（臨床基礎）		う蝕予防処置法（臨床応用）	
保健指導論	保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）	保健指導演習Ⅱ（臨床応用）		保健指導演習Ⅲ（臨床総合）	
歯科診療補助法（基礎知識）	歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）	歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）		歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）	
歯科衛生士概論		介護技術の基礎	歯科医療請求事務	口腔衛生管理	救急法・救急蘇生法
			臨床検査法		審美歯科演習
			口腔リハビリテーション論	口腔リハビリテーション演習	
	歯内療法学	歯科補綴学	歯周療法学	歯科衛生研究法Ⅰ(臨床基礎)	歯科衛生研究法Ⅱ(臨床応用)
	保存修復学	口腔外科学			
		歯科矯正学			
		小児歯科学			
感染予防法		高齢者口腔保健学	障害者口腔保健学		
		歯科放射線学			
解剖学					
口腔解剖学					
生理学	口腔生理学	生化学	衛生行政・社会保障	臨床医学	
組織発生学	歯牙解剖学				
栄養学	病理学	社会福祉論		人間関係論	
	微生物学				
衛生学・公衆衛生学	薬理学	地域福祉保健			
口腔衛生学					
日本語表現法	現代の社会				
英語Ⅰ					
手話		英語Ⅱ	暮らしの中の法律	心理学	
大学生活論					
情報処理	歴史と文化				
化学	コミュニケーション演習				
スポーツレクリエーション					

２０２２年度歯科衛生学科２年　カリキュラムマップ

学修成果（到達目標）

1 【基　礎　力】：一般教養並びに各専門分野の基礎的能力
①全身と口腔の健康を理解し、歯科衛生士として必要な基本的な知識を身につける。
②口腔疾患の原因、病態、予防方法を理解し、歯科衛生士としての専門性を理解し応用できる能力を身につける。
③自らの健康管理ができ、社会人として責任を果たすことができる。

2 【実　践　力】：各分野の実際の場面に対応できる力
①疾病予防のために必要な情報を収集し、問題解決のための基本的な施術や適切な口腔衛生指導ができる。
②安全で効果的な歯科医療を提供するため、基本的な技術を身につけ実践できる。
③社会人として、また医療従事者として倫理観をもって行動できる。

3 【人間関係力】：専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力
①社会人としての責任感を自覚し周囲と良好な人間関係を築くことができる。
②保健・医療・福祉チームの中で果たす役割を理解し、他者と連携しながら歯科衛生士の役割・責任を担うことができる。
③他者との関わりの中で、自らの課題を見つける客観性と、改善・解決できる柔軟性を身につける。

4 【生涯学習力】：生涯にわたって学び、成長できる力
①学修内容に興味や関心をもち、主体的、意欲的に取り組むことができる。
②専門職者として歯科医療における問題点をみつけ、自己学修によって解決できる。
③専門職者として常に謙虚で自己の成長に努めることができる。

5 【地域理解力】：地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力
①地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感を持って積極的に行動できる。
②地域の文化、人々の生活に興味、関心をもち、地域住民の視点にたちコミュニケーションをとることができる。

学修成果　：　1 基礎力　2 実践力　3 人間関係力　4 生涯学習力　5 地域理解力

学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。
●は、各授業科目が学修成果の1～5のどれに当てはまるかを表すものです。

科目区分			授業科目の名称	授業回数	履修年次																					単位数	
					１年		学修成果					２年		学修成果					３年		学修成果					必	選
					前	後	1	2	3	4	5	前	後	1	2	3	4	5	前	後	1	2	3	4	5		
教養教育分野	人間と文化		日本語表現法	15	○		●																			2	
			英語Ⅰ	10	○		●																			1	
			英語Ⅱ	10								○		●												1	
			歴史と文化	10		○	●																			1	
			手話	10	○			●	●																		1
	人間と社会		大学生活論	15		○	●																			1	
			暮らしの中の法律	10									○	●												1	
			現代の社会	10		○	●																			1	
			コミュニケーション演習	10		○		●	●																	1	
			心理学	10															○		●		●				1
	人間と科学		情報処理	15	○		●																			1	
			化学	10	○		●																				1
			スポーツレクリエーション	15		○	●	●																			1
専門教育分野	専門支持科目	人体の構造と機能	解剖学	15	○		●																			2	
			生理学	15	○		●																			1	
			組織発生学	10	○		●																			1	
		歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学	20		○	●																			2	
			口腔生理学	15		○	●																			2	
			歯牙解剖学	10		○	●																			1	
		疾病の成り立ちと回復	病理学	15		○	●																			1	
			微生物学	15		○	●																			1	
			薬理学	15		○	●																			1	
			栄養学	10	○		●																			1	
			生化学	10								○		●												1	
			臨床医学	10															○		●					1	
		健康と予防に関わる人間の社会の仕組み	衛生学・公衆衛生学	15	○		●																			1	
			口腔衛生学	30		○	●																			2	
			地域福祉保健	20									○	●												2	
			衛生行政・社会保障	15									○	●												1	
			社会福祉論	15								○		●												1	
			人間関係論	10															○		●		●				1
	専門展開科目	歯科衛生士概論	歯科衛生士概論	15	○		●			●																2	
		臨床歯科医学	歯内療法学	10		○	●																			1	
			保存修復学	10		○	●																			1	
			歯周療法学	15									○	●												1	
			歯科補綴学	15								○		●												1	
			口腔外科学	15								○		●												1	
			歯科矯正学	15								○		●												1	
			小児歯科学	15								○		●												1	
			高齢者口腔保健学	10								○		●												1	
			障害者口腔保健学	10									○	●												1	
			歯科放射線学	15								○		●												1	
			口腔衛生管理	10															○		●						1
		歯科予防処置論	歯科予防処置法	30		○	●																			2	
			う蝕予防処置法（臨床基礎）	10								○		●	●											1	
			歯周病予防法（臨床基礎）	30									○	●	●											2	
			う蝕予防処置法（臨床応用）	10															○			●				1	
			歯周病予防法（臨床応用）	20																○		●				2	
		歯科保健指導論	保健指導論	15	○		●																			1	
			保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）	15		○		●	●																	1	
			保健指導演習Ⅱ（臨床応用）	30									○		●	●										2	
			保健指導演習Ⅲ（臨床総合）	30																○		●	●			2	
			口腔リハビリテーション論	10									○	●												1	
			口腔リハビリテーション演習	10															○			●					1
		歯科診療補助論	歯科診療補助法（基礎知識）	20	○		●																			2	
			歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）	20		○	●	●																		2	
			歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）	20									○		●	●										2	
			歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）	20																○		●	●			2	
			感染予防法	10	○		●	●																		1	
			臨床検査法	10									○	●	●											1	
			救急法・救急蘇生法	15																○	●	●				1	
			介護技術の基礎	15								○		●	●											1	
			歯科医療請求事務	10									○	●	●												1
			審美歯科演習	10																○	●	●					1
		実習	臨地実習Ⅰ（臨床基礎）	集中		○	●	●	●																	4	
			臨地実習Ⅱ（臨床応用）	集中									○		●	●	●	●								8	
			臨地実習指導（臨床応用）	15									○		●	●	●									1	
			臨地実習Ⅲ（臨床総合）	集中																○		●	●	●	●	8	
			臨地実習指導（臨床総合）	15																○		●	●	●		1	
		特別科目	歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）	15															○		●						1
			歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）	15																○	●						1
総計（卒業要件100単位以上）																										93	11

2022年度　歯科衛生学科2年生　年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月											1		2	
	3		4		5	オリエンテーション	6	（入学式）	7		8		9	
	10		11		12	健康診断	13		14		15		16	
	17		18		19		20		21		22		23	
	24		25		26		27		28	合同交流会	29	昭和の日	30	
5月	1		2		3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6		7	
	8		9		10		11		12		13		14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23		24		25		26		27		28	
6月	29		30		31		1		2		3	相互台小	4	
	5		6		7		8		9		10		11	
	12		13	臨床実習	14	臨床実習	15	臨床実習	16	臨床実習	17	臨床実習	18	
	19		20	臨床実習	21	臨床実習	22	臨床実習	23	臨床実習	24	臨床実習	25	
	26		27	臨床実習	28	臨床実習	29	臨床実習	30	臨床実習	1	予備日／臨地実習	2	
7月	3		4	予備日／臨地実習	5	予備日／臨地実習	6	予備日／臨地実習	7	予備日／臨地実習	8	予備日／臨地実習	9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18	海の日	19		20		21		22		23	
	24		25		26		27		28		29		30	
8月	31		1		2		3		4		5		6	
	7		8		9		10		11	山の日	12	お盆休み	13	
	14		15	お盆休み	16	お盆休み	17	定期試験	18	定期試験	19	定期試験	20	
	21		22	定期試験	23	定期試験	24	追試験	25	夏休み／臨地実習	26	夏休み／臨地実習	27	
9月	28		29	夏休み／臨地実習	30	夏休み／臨地実習	31	夏休み／臨地実習	1	夏休み／臨地実習	2	夏休み／臨地実習	3	
	4		5	夏休み／臨地実習	6	夏休み／臨地実習	7	不合格発表	8	夏休み／臨地実習	9	夏休み／臨地実習	10	
	11		12	再試験	13	再試験	14	再試験	15	夏休み／臨地実習	16	夏休み／臨地実習	17	
	18		19	敬老の日	20	夏休み／臨地実習	21	夏休み／臨地実習	22	夏休み／臨地実習	23	秋分の日	24	
	25		26		21		28		29		30			

※振替授業日、追試験の日程、再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2022年度　歯科衛生学科2年生　年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
10月													1	
	2		3		4		5		6		7		8	
	9		10	スポーツの日	11		12		13		14		15	
	16		17		18		19		20		21		22	
	23		24		25	臨床実習	26	臨床実習	27	臨床実習	28	臨床実習	29	せいよう祭
11月	30		31	臨床実習	1	臨床実習	2	臨床実習	3	文化の日	4	臨床実習	5	
	6		7	臨床実習	8	臨床実習	9	臨床実習	10	臨床実習	11	臨床実習	12	
	13		14	臨床実習	15	予備日／臨地実習	16	予備日／臨地実習	17	予備日／臨地実習	18		19	
	20		21	予備日／臨地実習	22	予備日／臨地実習	23	勤労感謝の日	24		25	合同交流会	26	
12月	27		28		29		30		1	臨床実習	2	臨床実習	3	
	4		5	臨床実習	6	臨床実習	7	臨床実習	8	臨床実習	9	臨床実習	10	
	11		12	臨床実習	13	臨床実習	14	臨床実習	15	臨床実習	16	臨床実習	17	
	18		19	臨床実習	20	臨床実習	21	予備日	22	予備日	23		24	
	25		26	冬休み	27	冬休み	28	冬休み	29		30		31	
1月	1		2		3		4	冬休み	5	冬休み	6	冬休み	7	
	8		9	成人の日	10		11		12		13		14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23		24		25		26		27		28	
2月	29		30		31		1		2		3		4	
	5		6		7		8		9	定期試験	10	定期試験	11	建国記念日
	12		13	定期試験	14	定期試験	15	定期試験	16	追試験	17		18	
	19		20		21		22		23	天皇誕生日	24		25	
3月	26		27		28	不合格発表	1	春休み	2	春休み	3	再試験	4	
	5		6	再試験	7	再試験	8	春休み	9	春休み	10	春休み	11	
	12		13	春休み	14	春休み	15	春休み	16	春休み	17	春休み	18	
	19		20	春休み	21	春分の日	22	春休み	23	春休み	24	春休み	25	
	26		27	春休み	28	春休み	29	春休み	30	春休み	31	春休み		

※振替授業日、追試験の日程、再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-0-HCU-01

科目名	英語Ⅱ				単位認定者	細川　亮一		評価の方法	試験（レポート）	50　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	20　時間		授業内課題	20　%
				授業形態	演習	授業回数	10　回			

授業の概要	歯科医療現場で必要な単語を使った英会話を学ぶ。歯科医療現場で外国人の患者さんと接する機会が増えているが、そうした場面で、外国人の方々の不安や苦痛を理解し、的確な質問や説明を英語でできるようになることを目指す。
到達目標	英語を用いたコミュニケーションのツールを作成することを通して、安心した歯科医療を提供できるスキルを身につける。
学修者への期待等	コミュニケーション能力を伸ばすため、積極的な授業への参加を期待します。

回	授業計画	準備学修
1	授業のイントロダクション （授業概要・受講上の留意点）、自己紹介	簡単な自己紹介を英語で考えてきてください。
2	歯科治療で用いる英単語【オンデマンド授業】	これまでに習った歯科の単語の英語表現を調べてください。（概ね30分程度）
3	受付と電話での英会話　1　初診患者【オンデマンド授業】	日本語で良いので問診票などどのようなことを患者さんに聞くかまとめてください。（概ね30分程度）
4	受付と電話での英会話　2　予約の変更【オンデマンド授業】	覚えたフレーズの発音の練習をしてください。（概ね30分程度）
5	ユニットでの英会話　1　初診の問診	日本語で良いので患者さんに聞くかまとめてください。（概ね30分程度）
6	ユニットでの英会話　2　ユニットを動かす【オンデマンド授業】	覚えたフレーズの発音の練習をしてください。（概ね30分程度）
7	治療の説明　1　歯周炎の原因を説明【オンデマンド授業】	日本語で歯周治療をどのように説明するかまとめてください。（概ね30分程度）
8	治療の説明　2　歯周治療の流れを説明【オンデマンド授業】	覚えたフレーズの発音の練習をしてください。（概ね30分程度）
9	う蝕予防についての説明【オンデマンド授業】	日本語でフッ化物の説明をできるようにしておいてください。（概ね30分程度）
10	まとめ　授業内課題のフィードバック	これまでの疑問点をまとめてください。（概ね30分程度）

教科書	『最新歯科衛生士教本　歯科英語』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	適宜資料を配布する。
備考	1、5、10回は合同授業を行う。2～4、6～9回は遠隔（オンデマンド）で授業を実施する。 授業内課題は添削後返却し授業内で総括する。講義の進行具合により、シラバスの順番が変更されることもある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学修力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
CO-0-HSO-02

科目名	暮らしの中の法律				単位認定者	湯本　あゆみ		評価の方法	試験（レポート）	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	歯科	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	20　時間			
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	法律問題の理解に必要な基本法である憲法、民法等の条文に触れ、法律の基礎知識を修得する。憲法では基本的人権や最近議論されている憲法改正等を、民法では日常生活で生じる契約や家族といった学生にとって身近な法律問題を、積極的に取り上げる。 さらに、身近な法律問題について、具体的な事例を検討させ、事例から結論に至る論理を理解する。他者の意見を理解するとともに、自己の意見を持つ機会を与え、法的思考力を身につける。
到達目標	法の基本原則や概念を理解して説明できるようになる。具体的な法律問題について、法的論理・根拠に基づいて自ら考えて結論を導くことができる。
学修者への期待等	本講義では、法について広く学ぶため、さまざまな法律用語や考え方に触れることとなります。そのため、特に復習に重点を置いて、各講義で学んだことを逐一整理し理解するようにして下さい。「なぜ」という部分を重視し、学修に取り組むようにして下さい。また、各講義の最後に復習問題を出しますので、しっかり取り組むこと。

回	授業計画	準備学修
1	ガイダンス、法学の基礎①法とは何か	法がなぜ存在するのか、社会と法の関係性について復習すること。（概ね30分程度）
2	法の基礎②法の機能、法源	法がどのような機能を有しているのか、法源としてどのようなものが認められているのか、復習すること。（概ね30分程度）
3	法の基礎③法体系の概要	さまざまな法の関係性をしっかり整理すること。（概ね30分程度）
4	刑事裁判	刑事裁判における人権保障の重要性について、復習すること。（概ね30分程度）
5	民事裁判	刑事裁判との違いを意識して、民事裁判について復習すること。（概ね30分程度）
6	憲法①人権	憲法の保障する人権の内容について、しっかり整理すること。（概ね20分程度）
7	憲法②表現の自由	表現の自由の保障がなぜ重要なのかについて、しっかり整理すること。（概ね20分程度）
8	民法　契約と不法行為	契約や不法行為がどのように成立するのかについて、復習すること。（概ね30分程度）
9	民法　家族と相続	家族問題に対して法がどのような解決方法を採用しているのかを復讐すること。（概ね20分程度）
10	刑法　罪刑法定主義など、講義のまとめ	第4回の講義を復習したうえで、罪刑法定主義の意義を整理すること。（概ね30分程度）

教科書	特に指定しない。
参考文献	吉永一行編『法学部入門〔第3版〕』（法律文化社、2020年）
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。 授業内容は、進度に応じて変更する場合がある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-1-DHB-11

科目名	生化学				単位認定者	阿部　昌子		評価の方法	試験（筆記）	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題等	10　%
						授業時間数	20　時間		受講態度	20　%
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	生命現象を，生体構成成分や栄養素が体内で変化する様子やエネルギーが作られる過程，すなわち，化学反応として捉え，これらを生化学的に理解する。また，口腔に特徴的な歯，歯周組織，唾液，プラーク（歯垢）の構成成分やそこで生じる疾患（う蝕や歯周病）について生化学的な側面から学ぶ。
到達目標	生命現象を生化学的に理解する。また、栄養素と直接関係する口腔疾患について理解を深める。
学修者への期待等	教科書などによる予習・復習を行い、授業内容を十分理解することを期待する。

回	授業計画	準備学修
1	「一般生化学」 生体の構成要素（細胞の役割、生体構成成分と栄養素）	［事後］Ⅰ編1章「細胞の役割、生体構成成分と栄養素」について、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（30分程度）。
2	糖質と脂質の代謝（糖質の代謝とエネルギーの生成、脂質の代謝とエネルギーの生成）	［事後］Ⅰ編3章「糖質の代謝とエネルギーの生成、脂質の代謝とエネルギーの生成」について、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（30分程度）。
3	タンパク質とアミノ酸の代謝（タンパク質の加水分解、アミノ酸の加水分解、タンパク質の合成）	［事後］次回、1～3回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習をすること（2時間程度）。
4	「口腔生化学」 歯と歯周組織の生化学1（歯と歯周組織、結合組織）	［事後］Ⅱ編1章「歯と歯周組織」、2章「結合組織」について、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（30分程度）。
5	歯と歯周組織の生化学2（歯の組成、歯の無機成分、歯の有機成分）	［事後］Ⅱ編1章3「歯の組成、歯の無機成分、歯の有機成分」について、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（30分程度）。
6	硬組織の生化学（石灰化の仕組み、骨の生成と吸収）	［事後］Ⅱ編2章「石灰化の仕組み、骨の生成と吸収」について、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（30分程度）。
7	唾液の生化学（唾液の組成と機能）	［事後］Ⅱ編3章「唾液の組成と機能」について、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（30分程度）。
8	プラークの生化学1（プラークの生物活性）	［事後］Ⅱ編4章1「プラークの生物活性」について、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（30分程度）。
9	プラークの生化学2（プラークによるう蝕発症機構）	［事後］Ⅱ編4章2「プラークによるう蝕発症機構」について、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（30分程度）。
10	プラークの生化学3（プラークによる歯周疾患発症機構）	［事後］10回の講義で学んだ内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（2時間程度）。

教科書	『最新歯科衛生士教本　人体の構造と機能2　栄養と代謝』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	
備考	小テストを採点後、授業内で総括する。講義の進行具合によっては、シラバスの授業計画の順番は前後する事もある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-1-DHB-15

科目名	地域福祉保健				単位認定者	小野寺　健 大森　俊也　石河　理紗		評価の方法	試験（筆記）	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	通年	単位数	2　単位		受講態度	20　%
						授業時間数	40　時間		授業内課題（小テスト等）	10　%
				授業形態	講義	授業回数	20　回			

授業の概要	それぞれの地域において人々が安心して暮らせるよう，地域住民や公私の社会福祉関係者が互いに協力して地域社会の福祉課題の解決に取り組む地域福祉の考え方を学ぶ。さらに，歯科における地域保健活動の実際についての知識を修得し，人々の福祉をいかに支援できるかを学ぶ。また，歯科保健情報の収集および分析の手段として保健統計の基礎を学ぶ。
到達目標	・地域の人々の歯と口腔の健康づくりを支援するための基礎と方策について理解する。 ・一人ひとりの生活行動が身近な地域福祉活動に結びつくものであること、また、一人ひとりが社会資源として地域福祉のネットワークに参画する必要性について理解する。 ・保健統計とは、健康増進、疾病予防、医療等人の健康に関する統計のことを指す。本科目では、保健統計の種類と意義を学修し、わが国の保健統計の変遷及び現状等について理解を深める。さらに医療の現場で得られる様々なデータは、そのままでは理解することが難しい場合も多い。そうしたデータを視覚的、数量的にまとめ、有用な情報を抽出するための方法を理解する。
学修者への期待等	地域福祉について、口腔の健康に及ぼす要因も含めて理解する。基本的な統計学的手法について理解する。授業終了後に重要項目をまとめた小テストを実施するので、その内容については次回までに復習することが望ましい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	地域保健・公衆衛生①　生活と健康、地域社会と保健対策の基本的な考え方を学び、時代の変化に伴う地域保健活動の変化から、今日の現状を概説する。	予習として教科書のⅢ編1章①～④を読んで授業に臨むこと。	石河　理紗
2	地域保健・公衆衛生②　健康づくり対策と地域歯科保健について説明する。	前回の復習として講義資料を再読しておくこと。 予習として教科書のⅢ編1章⑤～を読んで授業に臨むこと。	石河　理紗
3	母子保健　母子健康手帳に記載された口腔関連質問項目や妊産婦への歯科保健指導の要点について学ぶ。また1歳6カ月児、3歳児健康診断の目的と結果によるう蝕罹患型の分類、それに応じた歯科保健指導の要点について学習する。	前回の復習として講義資料を再読しておくこと。 予習として教科書のⅢ編2章を読んで授業に臨むこと。	石河　理紗
4	学校保健　学校保健の対象者とその意義、関係職員について学ぶ。また保健教育と保健管理の概要を理解する。学校歯科健康診断について診査の項目や記載事項、事後措置を学ぶ。	前回の復習として講義資料を再読しておくこと。 予習として教科書のⅢ編3章を読んで授業に臨むこと。	石河　理紗
5	成人保健・高齢者保健　成人保健として生活習慣病のリスクファクターと成人期の口腔保健管理について学ぶ。また、高齢者保健として高齢者の保健対策や介護保険、地域支援事業について理解する。	前回の復習として講義資料を再読しておくこと。 予習として教科書のⅢ編4章、6章を読んで授業に臨むこと。	石河　理紗
6	産業保健　産業保健の目的、関連法規について学び、職業性疾病の要因と歯科を含む特殊健康診断について理解する。また安全衛生管理について学習する。	前回の復習として講義資料を再読しておくこと。 予習として教科書のⅢ編5章を読んで授業に臨むこと。	石河　理紗
7	精神保健　精神保健の定義、意義を学び、精神保健福祉行政や精神医療の現状と課題について理解する。また精神障害者の社会復帰と歯科保健の問題を考える。	前回の復習として講義資料を再読しておくこと。 予習として教科書のⅢ編7章を読んで授業に臨むこと。	石河　理紗
8	災害時歯科保健、国際保健　日常的災害対策や災害時の保健医療について学び、災害時の歯科保健、歯科の役割について理解する。また世界的な健康水準や保健医療水準について理解し、国際協力に関わる機関やその活動について学ぶ。	前回の復習として講義資料を再読しておくこと。 予習として教科書のⅢ編8～9章を読んで授業に臨むこと。	石河　理紗
9	まとめ　これまでの授業内容について総括する	これまでの講義内容のうち、自分で理解不十分と思う部分について、教科書や講義資料を確認の上で授業に臨むこと。	石河　理紗

回	授業計画	準備学修	担当
10	テキスト全体から地域福祉の全体像をとらえる(1) 福祉コミュニティの形成に各自が関与するという意識を高める。 『地域福祉』が社会福祉法に盛り込まれてきた背景について、少子高齢から少産多死の人口減少社会の諸相から『地域福祉』を捉える。	配布資料、スライド資料をもとに授業を進める。資料を予習してきてください(概ね20分)	大森　俊也
11	テキスト全体から地域福祉の全体像をとらえる(2) 福祉の主体 Welfare社会福祉からWell-being福祉社会への転換につながる思想、地域福祉の理念について理解を深める。	ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、アドボカシー、ボランティアコーディネートの項目についてテキストを精読しておく。(概ね20分)	大森　俊也
12	地域福祉と法 地域福祉の視点と構成要素の整理する。 ①コミュニティ重視 ②政策制度 ③在宅福祉 ④住民の主体形成と参加等いう４つの志向軸から地域福祉の構成要素にふれ、理解を深める。	左記の項目についてテキスト記載部分およびソーシャルサポートネットワーク、パートナーシップの項目についてテキストを精読しておく。 (概ね20分)	大森　俊也
13	地域福祉の対象について整理する。 自治体の抱える課題から地域福祉を考える。 社会福祉法による地域福祉計画、地域福祉活動計画等について実際例をもとに地域づくりのためのネットワーキングについて理解を深める。	テキストの社会福祉協議会、ネットワーキングをピックアップして精読しておく。(概ね20分)	大森　俊也
14	住民による福祉組織化と多職種連携による地域包括ケアシステムについて、それらを構成する要素から地域福祉の理解を深める。 地域の福祉課題解決に必要なネットワークとプロセスについて、『情報共有』、『個別化』、『総合化』や『資源開発』について考えを深める。	前4回の講義をもとに、地域福祉の必要性について脈絡を整理して、講義に臨む。(概ね20分)	大森　俊也
15	地域福祉分野の全授業を振返り、ひとり一人が担い手として福祉コミュニティの形成に関与し、また、多職種連携やパートナーシップのもとで地域福祉が展開するという理解と意識を高め、地域福祉分野の講義をまとめる。	これまで学んだ地域福祉の課題を身近なこと、自分だったらどうする？どうしたい？どうとてほしいかを整理して、講義に臨む(概ね20分)	大森　俊也
16	保健情報と保健統計、国家統計調査について	『保健情報統計学』の1～17ページを読んで授業に臨むこと。(概ね30分程度)	小野寺　健
17	保健情報と疫学(総論、方法論)、歯科疾患の指数(数量化と指数、様々な歯科保健指標)	『保健情報統計学』の18～70ページ(とりわけ、18～33ページ)を読んで授業に臨むこと。(概ね40分程度)	小野寺　健
18	保健情報の分析手順(保健情報の収集、調査、母集団と標本抽出)	『保健情報統計学』の73～88ページを読んで授業に臨むこと。(概ね30分程度)	小野寺　健
19	保健統計の方法(データの特性、記述統計、推定と信頼区間、保健情報の多変量解析)	『保健情報統計学』の89～113ページを読んで授業に臨むこと。(概ね30分程度)。次回授業時、保健統計に関する小テストを行う予定。(概ね1時間程度の事前学修が必要)	小野寺　健
20	保健情報の分析演習(解析と検定の演習)	『保健情報統計学』の114～136ページを読んで授業に臨むこと。(概ね30分程度)	小野寺　健
教科書	『最新歯科衛生士教本　歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1　保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『よくわかる地域福祉　第5版』上野谷加代子・松端克文・山縣文治編、ミネルヴァ書房 『最新歯科衛生士教本　歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3　保健情報統計学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献			
備考	1～15回目の授業は遠隔(オンデマンド)で実施する。小テスト課題は回収後、採点し、次回総括する。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-1-DHB-16

科目名	衛生行政・社会保障				単位認定者	園部　英俊		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	衛生行政・社会保障に関する一般的知識を修得する。さらに，必要な法規について理解し，暮らしを支える「費用と負担」のシステムについて理解する。
到達目標	衛生学・公衆衛生学とは、衛生学という基礎の上に成り立っている社会医学の一分野である。従来、個人及び公衆の健康維持・向上、疾病予防などを目的としていたが、現在では遺伝・伝染病・環境・社会的要因など、様々な要因が人間に及ぼす影響、多彩な健康問題を社会全体の問題として捉え、その問題解決・改善を目指す学問領域となっている。個人衛生、環境衛生、公害、母子保健、学校保健、地域保健、産業保健、食品衛生、精神衛生など様々な領域があり、その基本的な知識について理解する。また、これらの根幹となる医療の保障、所得保障等について理解する。
学修者への期待等	欠席をせず、意欲的に臨むこと。

回	授業計画	準備学修
1	社会保障制度①（わが国の社会保障制度とは・社会情勢の変化と社会保障制度）	教科書1章ⅠからⅢまでを熟読しておく（概ね45分程度）
2	社会保障制度②（役割と機能・給付と負担・今日の動向）	教科書1章ⅣからⅦまでを熟読しておく（概ね45分程度）
3	衛生行政①（衛生行政とは・衛生行政組織など）	教科書2章Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを熟読しておく（概ね45分程度）
4	衛生行政②（保健所、市町村保健センター・地域保健医療従事者）	〃
5	衛生関係法（法制概論について）	教科書3章Ⅰを熟読しておく（概ね45分程度）
6	衛生関係法（医業と歯科医業など）	教科書3章Ⅱを熟読しておく（概ね45分程度）
7	衛生関係法③（歯科衛生士に関する法律）	教科書3章Ⅲを熟読しておく（概ね45分程度）
8	衛生関係法④（関連する医療関係者の身分に関する法律など）	教科書3章Ⅳを熟読しておく（概ね45分程度）
9	保健医療の動向①（保健関係統計調査・国民の健康状態と受療状況）	教科書4章Ⅰ、Ⅱを熟読しておく（概ね45分程度）
10	保健医療の動向②（医療施設・医療従事者）	教科書4章Ⅲ、Ⅳを熟読しておく（概ね45分程度）
11	保健医療の動向③（歯科疾患実態調査・歯科口腔保健推進に関する目標値など）	〃
12	社会保険（社会保険の沿革、組織、医療保険制度）	教科書4章Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを熟読しておく（概ね45分程度）
13	社会保険（介護保険制度）	教科書5章Ⅳを熟読しておく（概ね45分程度）
14	保険医療の実務（制度の仕組みなど）	教科書7章を熟読しておく（概ね45分程度）
15	ふりかえり	前回までの授業を復習しておく（概ね45分程）

教科書	『歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険』末髙武彦著、医歯薬出版株式会社
参考文献	『最新歯科衛生士教本　歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2　歯科衛生士と法律・制度』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
備考	進捗状況により順番が前後される場合がある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-1-DHB-17

科目名	社会福祉論				単位認定者	末田　耕司		評価の方法	授業内課題	75　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		レポート	25　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	福祉と社会福祉の関係を考え、社会福祉の基本的な理念、仕組み、サービスについて理解するとともに、社会福祉の必要性や今後の方向性・問題点についても考えていく。 社会福祉の現状と問題点を身近な課題として捉え、医療従事者として、また一人の生活者としてどのようにしていったらよいかを考えながら進めていく。
到達目標	社会福祉の概要を知り、特に施設中心のサービスから在宅サービスへと福祉サービスが移行する中で、歯科衛生士の果たす役割について理解し、実践につなげることができる価値・知識及び技術の一端を学ぶ。
学修者への期待等	社会福祉の現状・課題について、学生自身や家族にとっての身近な自分事として捉えると共に、医療従事者としての役割や社会的期待を探り、専門性の確立に活かすことができる。

回	授業計画	準備学修
1	・授業ガイダンス ・福祉と社会福祉・社会保障制度の概要①	自分にとっての「ふくし」を考える。本論のシラバスを確認した上で、自分が本論を学ぶ意義、目標を定める。
2	・社会保障制度の概要②	教科書：総論「我が国の社会保障制度の概要」①「国民生活と社会保障」(1)(2)を通読する。
3	児童福祉①・・・子どもの権利、児童福祉制度（子育て支援施策、施設サービス等）	教科書「子育て支援施策」「保育施策」「認定こども園」を通読する。
4	児童福祉②・・・子どもの貧困問題、ひとり親家庭と家庭福祉（子ども食堂・子ども宅食等子育て支援）、女性の人権（虐待、DV、離婚等）、その他ヤングケアラー、ステップファミリー等	教科書「児童に関する手当」「配偶者からの暴力の防止」、「ひとり親家庭等への支援施策」を通読する。
5	生活保護、生活困窮者自立支援制度	教科書「生活保護」「生活困窮者自立支援制度」を通読する。
6	高齢者保健福祉① 高齢者福祉理念、高齢化社会の進展と介護問題／制度の概要	教科書「高齢化の進む人口構造」、「認知症高齢者等の権利擁護」を通読する。
7	高齢者保健福祉② 認知症を知る（認知症基本法案、JDWG、ユマニチュード等）	教科書「認知症施策」を通読する。
8	高齢者保健福祉③　介護保険制度、老後に備える	教科書「介護保険制度」を通読する。
9	障害者福祉①　障がいの定義・理解、制度の概要、教育関連	教科書「障害者保健福祉施策」を通読する。
10	障害者福祉②　福祉サービスの理解	教科書「障害者総合支援法」を通読する。
11	障害者福祉③　環境を考える（バリアフリーとユニバーサルデザイン、ユニバーサルマナー、障害者差別解消法（合理的配慮）等）	教科書「障害者基本法」を通読する。
12	住民福祉と福祉嫌いについて考える。 ソーシャルワークの概要（バイステックの7原則、自己覚知）	
13	21世紀型社会福祉の構築をめざして・・・ 地域共生社会への取り組み、ソーシャルキャピタル	教科書「社会保障制度の変遷（3）-⑧地域共生社会の実気に向けた取組みの推進」を通読する。
14	歯科衛生士と社会福祉・・・プロボノ、ソーシャルデザイン、ソーシャルビジネス、社会福祉の分野における歯科衛生士の役割／今後の課題と方向性	
15	まとめ～人権、福祉制度を振り返る。自分の福祉観を確認する。	

教科書	『社会保障入門2022』社会保障入門編集委員会編、中央法規出版株式会社
参考文献	
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-2-DHC-04

科目名	歯周療法学				単位認定者	梶川　哲宏		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	歯周疾患が全身状態に影響することが明らかとなり，超高齢社会を迎え，歯周疾患の治療と予防のニーズはますます高まっている。歯科衛生士として治療と予防に積極的に参加介入するために，歯周疾患と歯周療法に関する基礎知識及び診療補助を行うために必要な基礎知識を修得する。
到達目標	歯周疾患の分類及びプラークを主とする歯周疾患の原因について理解する。次に歯周疾患の診査法を学び，プラーク付着状態の診査，歯周ポケット測定，歯の動揺度の測定，X線写真読影，その他の診査を理解する。さらに歯周治療の流れ，歯周基本治療および歯周外科治療について内容を理解するとともに，歯科衛生士の果たす役割についても理解する。
学修者への期待等	事前にテキストを熟読してくること。

回	授業計画	準備学修
1	歯周疾患の基礎知識Ⅰ　歯周病の概要，歯周組織の構造と機能を学ぶ。	教科書I編1章「歯周治療とは」，教科書I編2章「正常な歯周組織の構造と機能」を予習して来て下さい。(概ね30分程度)
2	歯周疾患の基礎知識Ⅱ　歯肉炎と歯周炎・その他の歯周疾患を理解する。	教科書I編3章「①歯周病の分類」を予習して来て下さい。(概ね30分程度)
3	歯周疾患の基礎知識Ⅲ　歯周疾患の原因を学ぶ。	教科書I編3章「②歯周病の原因，③ペリオドンタルメディシン，④インプラント周囲疾患」を予習して来て下さい。(概ね30分程度)
4	歯周治療の実際Ⅰ　歯周治療の進め方を学ぶ。	教科書II編1章「歯周治療の進め方」を予習して来て下さい。(概ね30分程度)
5	歯周治療の実際Ⅱ　歯周疾患の診査 ― 一般診査，歯周組織破壊の程度の診査，原因となる因子の診査を学ぶ。	教科書II編2章「①主訴を中心とした一般診査，②歯周病検査」，教科書III編1章「②－歯周病検査・診断時の補助」を予習して来て下さい。(概ね30分程度)
6	歯周治療の実際Ⅲ　歯周疾患の診査 ― 咬合の診査，画像診断，その他の診査を学ぶ。	教科書II編2章「③咬合の診査，④画像診断，⑤その他の診査」，教科書III編1章「②－歯周病検査・診断時の補助」を予習して来て下さい。(概ね30分程度)
7	歯周治療の実際Ⅳ　歯周基本治療とは何か？　目的と効果，基本治療の内容と実際について学ぶ。	教科書II編3章「歯周基本治療」，教科書III編1章「③－リスクファクターなどに対する指導」を予習して来て下さい。(概ね30分程度)
8	歯周治療の実際Ⅴ　スケーリング・ルートプレーニングについて学ぶ。	教科書III編1章「④－スケーリング・ルートプレーニング」を予習して来て下さい。(概ね30分程度)
9	歯周治療の実際Ⅵ　歯周外科① ― 歯周外科治療の目的，分類について学ぶ。	教科書II編4章「①－歯周外科治療の目的と分類，②歯周外科治療後の治癒形態」を予習して来て下さい。(概ね30分程度)
10	歯周治療の実際Ⅵ　歯周外科② ― 主な歯周外科手術の適応・術式について学ぶ。	教科書II編4章「④－種々の歯周外科治療」を予習して来て下さい。(概ね30分程度)
11	歯周治療の実際Ⅵ　歯周外科③ ― 歯周外科治療における準備，介助について学ぶ。	教科書II編4章「③－歯周外科に用いる器材」，教科書III編1章「⑤－歯周外科治療」を予習して来て下さい。(概ね30分程度)
12	歯周治療の実際Ⅵ　歯周外科④ ― 根分岐部病変，歯周－歯内病変について学ぶ。	教科書II編4章「付－根分岐部病変の治療，付－歯周－歯内病変の治療」を予習して来て下さい。(概ね30分程度)
13	歯周治療の実際Ⅶ　歯周治療としての口腔機能回復治療について学ぶ。	教科書II編5章「歯周治療としての口腔機能回復治療」，教科書III編1章「⑥－口腔機能回復治療」を予習して来て下さい。(概ね30分程度)
14	歯周治療の実際Ⅷ　メインテナンスの重要性，時期，内容について学ぶ。	教科書II編6章「メインテナンス」，教科書III編1章「⑦－メインテナンス，SPT」を予習して来て下さい。(概ね30分程度)
15	診療室と器具・器材の管理　器材の滅菌・消毒・管理について学ぶ。	教科書III編1章「⑧－診療室と器具・器材の管理」を予習して来て下さい。(概ね30分程度)

教科書	『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	
備考	各回講義終了後に復習テストを行います。提出後に梶川が確認したのち学生に返却します。要提出。評価に反映されます。授業は遠隔(オンデマンド)で実施します。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学習成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-2-DHC-05

科目名	歯科補綴学				単位認定者	依田　信裕		評価の方法	試験（筆記）	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	20　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	歯科補綴治療とは，歯の欠損やそれに伴う周囲組織の変化を，人工材料で修復して，形態・諸機能を回復させ，さらに歯の喪失などにより二次的に生じる障害を予防するものである。本科目では，歯科補綴学の概要を理解する上で必要な基礎的事項を理解し，次いで種々の歯科補綴物についての理解を深める。
到達目標	歯科補綴診療に際して歯科衛生士に求められる必要最少限の知識を修得する。
学修者への期待等	歯科補綴学は歯科独自の臨床科目の一つであり、医科と歯科を大きく分けているものである。近年高齢社会となり、歯の喪失による咀嚼障害についての認識が高まり、とくに有床義歯などの歯科補綴治療に対する関心が高まっている。歯科衛生士はこれらのニーズに応えられる歯科補綴治療の知識を身につけることを期待する。そのためには教科書等による予習、復習も行ない、授業内容を十分に理解することを望む。

回	授業計画	準備学習
1	歯科補綴学概論：意義と目的（歯科補綴治療とはどんな事をするのか、歯科治療全体における歯科補綴治療の役割。（歯科治療と医科治療の違い、歯科治療と社会生活とのかかわり）））	予習として教科書の序章「咀嚼障害・咬合異常に対する歯科補綴」、および1章「歯科補綴の概要」を読んでおいて下さい。（概ね1時間程度）
2	歯科補綴治療の基礎事項：歯列弓の形態とその対合関係：歯列弓、咬合彎曲、咬合平面、対合関係、歯科補綴治療で重要な基準平面	歯科補綴治療の最も基礎知識を学びます。覚えることが多いので、予習・復習して十分理解して下さい。（概ね1時間程度）
3	補綴歯科治療における検査・診断：医療面接と診察、画像検査、咬合と顎口腔機能の検査	歯科補綴によりどのように機能が回復しうるかは、なぜ補綴治療が必要なのか患者さんに説明する上で重要な事項ですので十分理解してください。（概ね1時間程度）
4	クラウン・ブリッジ①：クラウン治療の概要、ブリッジ治療の概要、CAD/CAMクラウン治療概要	クラウン・ブリッジは日常臨床において頻度の高い重要な治療の一つです。ここでは基本知識を中心に予習しましょう。（概ね1時間程度）
5	クラウン・ブリッジ②：クラウン・ブリッジ治療の流れと診療の補助	クラウン・ブリッジ治療の流れ、各治療段階において準備する器材を覚えることは歯科衛生士業務として重要です。（概ね1時間程度）
6	クラウン・ブリッジ③：クラウン・ブリッジ治療の流れと診療の補助、クラウン・ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応	クラウン・ブリッジ治療の流れと診療の補助、クラウン・ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応は臨床において重要です。教科書の該当箇所を予習してください。（概ね1時間程度）
7	全部床義歯①：全部床義歯治療の概要、全部床義歯治療の流れと診療の補助	全部床義歯は、歯科補綴学において「咬合」を学ぶ上で大切な事項が多く存在します。まずは基本知識・治療の流れについて予習しましょう。（概ね1時間程度）
8	全部床義歯②：全部床義歯の装着、患者への説明と指導、全部床義歯治療に伴うトラブルとその対応	全部床義歯装着後はしっかりとメインテナンスすることが重要です。患者への説明と指導、全部床義歯治療に伴うトラブルとその対応について予習してください。（概ね1時間程度）
9	部分床義歯①：部分床義歯治療の概要、部分床義歯治療の流れと診療の補助	部分床義歯治療は、適用範囲が広く、高頻度治療です。治療の流れは複雑ですので十分に教科書を予習してください。（概ね1時間程度）
10	部分床義歯②：部分床義歯の装着、患者への説明と指導、部分床義歯治療に伴うトラブルとその対応	部分床義歯装着後もメインテナンスが重要です。また、治療後のトラブルとその対応も複雑ですので、しっかりと予習してください。（概ね1時間程度）
11	インプラント①：インプラント治療の概要、インプラント治療の流れと診療の補助	インプラント治療は補綴治療の一選択肢として確立された方法です。その概要や治療の流れについて教科書をしっかり予習してください。（概ね1時間程度）
12	インプラント②：インプラント治療の流れと診療の補助、上下無歯顎症例に対するインプラント治療、インプラント治療に伴うトラブルとその対応	インプラント治療は様々な欠損形態に応用可能です。また、高額治療でもあるので、治療後のトラブル対応は他の治療に比較して重要度が高いです。良く予習しましょう。（概ね1時間程度）
13	インプラント③：インプラントのメインテナンス、天然歯との相違、使用すべき器財、症例供覧	インプラント治療後のメインテナンスは歯科衛生士として重要な業務の一つです。生物学的な基礎知識をしっかり予習してください。（概ね1時間程度）
14	特殊な口腔内装置を用いる治療：顎顔面補綴治療、構音・嚥下機能の補助治療、顎関節と歯ぎしりの治療、スポーツ外傷の予防、睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療、	これまで学んだ補綴装置以外にも、多くの補綴装置が存在します。ここでは様々な補綴装置の基礎を学びますので、教科書の該当箇所を事前に予習して下さい。。（概ね1時間程度）
15	器材の管理：感染予防策、滅菌、消毒、洗浄、保管） 歯科補綴学のまとめ：国家試験問題の傾向と対策	感染予防対策は全ての診療の基本ですので、復習し十分に理解してください。また、国家試験の動向を踏まえ、歯科補綴をまとめます。

教科書	『最新歯科衛生士教本　咀嚼障害・咬合異常１歯科補綴』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）にて行う。（録画授業またはZOOM使用予定）

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-2-DHC-06

科目名	口腔外科学				単位認定者	宮下　仁		評価の方法	試験（筆記）	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	口腔・顎顔面領域における各種疾患及び口腔に関連した全身疾患について，基本的な知識を学習し，患者の全身状態を考慮した歯科治療を介助する上で必要な知識を理解する。また，口腔外科学診療に際して求められる知識の修得を目標とする。
到達目標	口腔外科学の診療補助の能力を修得する。ただし各項目については、診察補助の範囲を考慮する。
学修者への期待等	あらかじめ教科書を熟読し、質問事項を用意して授業に臨む。私語、居眠りを慎む、疑問点は積極的に質問する。配布したプリントも参考にする。

回	授業計画	準備学修	担当
1	総論　ウイルス疾患、消毒等に関しての内容を中心として口腔外科一般について	【事前】教科書の「Ⅰ編 1章　口腔外科の概要」を通読しておくこと(約30分)	未定
2	顎・口腔領域の先天異常と発育異常　　歯の異常、口腔軟組織の先天異常、唇裂・口蓋裂、顎の先天異常と変形について	【事前】教科書の「Ⅰ編 2章　顎・口腔領域の先天異常と発育異常」を通読しておくこと(約30分)	岩間　亮介
3	顎・口腔領域の損傷および機能障害　歯の外傷、顎骨骨折、軟組織の損傷について	【事前】教科書の「Ⅰ編 3章　顎・口腔領域の損傷および機能障害」を通読しておくこと(約30分)	岩間　亮介
4	顎・口腔領域の損傷および機能障害　顎関節疾患　顎関節症などの顎関節疾患について	【事前】教科書の「Ⅰ編 3章　顎・口腔領域の損傷および機能障害の顎関節疾患を通読しておくこと(約30分)	岩間　亮介
5	口腔粘膜の病変(1)水疱形成、紅斑およびびらん、潰瘍、白斑、色素沈着を主徴とする疾患について	【事前】教科書の「Ⅰ編 4章　口腔粘膜の病変」を通読しておくこと(約30分)	三浦桂一郎
6	口腔粘膜の病変(2)血液疾患など全身疾患が口腔粘膜に症状を呈する疾患などについて	【事前】教科書の「Ⅰ編 4章　口腔粘膜の病変」を通読しておくこと(約30分)	三浦桂一郎
7	顎・口腔領域の化膿性炎症疾患　　歯周組織の炎症、顎骨および顎骨周囲組織の炎症について	【事前】教科書の「Ⅰ編 5章　顎・口腔領域の化膿性炎症疾患」を通読しておくこと(約30分)	岩間　亮介
8	顎・口腔領域の嚢胞性疾患　　顎骨内に生じる嚢胞、軟組織に生じる嚢胞について	【事前】教科書の「Ⅰ編 6章　顎・口腔領域の嚢胞性疾患」を通読しておくこと(約30分)	宮下　仁
9	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患(1)　「前癌病変と癌・悪性腫瘍」について	【事前】教科書の「Ⅰ編 7章　顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患」を通読しておくこと(約40分)	三浦桂一郎
10	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患(2)　「歯原性腫瘍と非歯原性腫瘍」「良性腫瘍」について	【事前】教科書の「Ⅰ編 7章　顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患」を通読しておくこと(約40分)	宮下　仁
11	口腔領域の神経疾患　　三叉神経痛、顔面神経麻痺について	【事前】教科書の9章　口腔領域の神経疾患」を通読しておくこと(約40分)	岩間　亮介
12	口腔外科診療の実際(1)　口腔外科治療の流れ、診察と診断、清潔と不潔	【事前】教科書の「Ⅰ編 1章　基礎疾患と歯科治療、10章　口腔外科診療の実際」を通読しておくこと(約30分)	三浦桂一郎
13	口腔外科診療の実際(2)　口腔外科小手術；口腔外科基本手技，創傷の処置	【事前】教科書の「Ⅰ編 1章　基礎疾患と歯科治療、10章　口腔外科診療の実際」を通読しておくこと(約30分)	三浦桂一郎
14	口腔外科診療の実際(3)　口腔外科小手術；縫合・止血処置	【事前】教科書の「Ⅰ編 10章　口腔外科診療の実際」を通読しておくこと(約50分)	宮下　仁
15	口腔外科診療の実際(4)　口腔外科小手術；抜歯術・歯根端切除術、消炎処置・膿瘍切開、小帯切除術、嚢胞・腫瘍摘出術、口腔インプラント手術について　およびその合併症について	【事前】教科書の「Ⅰ編 10章　口腔外科診療の実際」を通読しておくこと(約50分)	宮下　仁

教科書	『最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	
備考	授業は遠隔(オンデマンド)で実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-2-DHC-07

科目名	歯科矯正学				単位認定者	穴田　一生		評価の方法	試験（筆記）	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	頭部・顎・顔面部の成長発育とそれに伴って生じる歯列の変化を知り，その発育を阻害する因子を早期に取り除くことが不正咬合の予防につながることを理解する。不正咬合と実際の矯正治療の関連づけができるように基礎的な知識を修得することを目的とするとともに，歯科矯正学の基礎を学び，歯科矯正に関する診療補助の方法を学ぶ。
到達目標	歯科矯正学の基礎を学び、歯科矯正に関する診療補助の能力を修得する。
学修者への期待等	事前に教科書の該当箇所を読んでおき、授業の理解を深めることが望ましい。授業中に生じた疑問点等は質問するなど、学修への積極的な取り組みを期待する。

回	授業計画	準備学修
1	矯正歯科学概論　矯正歯科学とは何か？矯正治療の歴史と必要性について	教科書　Ⅰ編1章矯正歯科治療の概要を各自読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)
2	成長・発育　頭部・顎・顔面および歯・歯列の成長発育について	教科書　Ⅰ編2章成長発育を各自読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)
3	咬合①　正常咬合と不正咬合、不正咬合の種類について	教科書　Ⅰ編3章正常咬合と不正咬合、不正咬合の種類を各自読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)
4	咬合②　不正咬合の原因と予防法について	教科書　Ⅰ編3章不正咬合の原因と予防法を各自読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)
5	矯正歯科診断①　矯正歯科診断に必要な検査	教科書　Ⅰ編4章矯正歯科診断を各自読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)
6	矯正歯科診断②　症例分析-非抜歯治療と抜歯治療	教科書　Ⅰ編4章症例分析-非抜歯治療と抜歯治療を各自読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)
7	矯正歯科治療と“力”-矯正力・顎整形力・保定 矯正力の種類と歯の移動様式について	教科書　Ⅰ編5章矯正歯科治療と“力”-矯正力・顎整形力・保定を各自読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)
8	矯正装置①　矯正装置の種類と用途について（可撤式矯正装置と固定式矯正装置）	教科書　Ⅰ編6章可撤式矯正装置と固定式矯正装置を各自読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)
9	矯正装置②　矯正装置の種類と用途について（機能的矯正装置～保定装置）	教科書　Ⅰ編6章機能的矯正装置～保定装置を各自読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)
10	歯科矯正治療の実際①　上下顎の前後、垂直的不調和と小児～成人の矯正歯科治療	教科書　Ⅱ編上下顎の前後、垂直的不調和と小児～成人の矯正歯科治療を各自読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)
11	歯科矯正治療の実際②　口腔顎顔面の形成異常と歯の埋伏、歯数の異常	教科書　Ⅱ編口腔顎顔面の形成異常と歯の埋伏、歯数の異常を各自読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)
12	歯科矯正臨床における歯科衛生士の役割①　歯科矯正臨床における歯科衛生士の業務	教科書　Ⅲ編1章歯科矯正臨床における歯科衛生士の業務、2章矯正歯科診療時の業務を各自読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)
13	歯科矯正臨床における歯科衛生士の役割②　口腔保健管理と口腔筋機能療法	教科書　Ⅲ編3章口腔保健管理と口腔筋機能療法を各自読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)
14	復習①　衛生士国家試験問題を参考にした授業内容の復習(成長発育、不正咬合の種類、矯正力)	授業後、よく復習してください。
15	復習②　衛生士国家試験問題を参考にした授業内容の復習(矯正装置、器具と材料)	授業後、よく復習してください。

教科書	『最新歯科衛生士教本　咀嚼障害・咬合異常2　歯科矯正』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	
備考	模範解答の配布、正解率の低い問題の説明を配布。授業は遠隔(オンデマンド)で実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-2-DHC-08

科目名	小児歯科学				単位認定者	丸谷 由里子		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			

授業の概要	口腔疾患の発病、進行時期として重要な小児期における歯科衛生士の役割を理解するとともに、臨床の場で対応できるような能力の基礎を総合的に学ぶ。小児の心身の発達に伴う基本的知識や、小児の歯科疾患、予防法、診療補助等についての知識を習得する。
到達目標	口腔疾患の発病、進行時期として重要な小児期における歯科衛生士としての役割を理解する。 小児期の歯科医療について総合的に学ぶ。
学修者への期待等	講義後の該当箇所について、教科書による復習を行うこと。

回	授業計画	準備学修
1	小児歯科概論　小児歯科診療と歯科衛生士の役割について	教科書のⅠ編1章小児歯科学概論、Ⅱ編2章小児歯科における診療体系、Ⅲ編5章歯科診療室と機材の管理を予習（概ね30分程度）
2	心身の発育　発達の概念と分類、発育の評価、生理的年齢、器官の発育、精神的発達	教科書のⅠ編2章心身の発育を予習（概ね30分程度）
3	心身の発育Ⅱ　小児の生理的特徴　顔面頭蓋の発育 顔面頭蓋の発育、顎の発育とその評価	教科書のⅠ編3章小児の生理的特徴、4章顔面頭蓋の発育を予習（概ね30分程度）
4	歯の発育とその異常	教科書のⅠ編5章歯の発育とその異常を予習（概ね30分程度）
5	歯列・咬合の発育と異常	教科書のⅠ編6章歯列・咬合の発育と異常を予習（概ね30分程度）
6	小児の歯科疾患　う蝕	教科書のⅠ編7章小児の歯科疾患1－小児にみられるう蝕を予習（概ね30分程度）
7	小児の歯科疾患　歯周疾患、口腔軟組織の異常	教科書のⅠ編7章小児の歯科疾患2－小児にみられる歯周疾患、3－小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患を予習（概ね30分程度）
8	小児期の特徴と歯科的問題点　小児歯科診療体系	教科書のⅡ編1章小児期の特徴と歯科的問題点、2章小児歯科における診療体系を予習（概ね30分程度）
9	小児歯科診療体系	教科書の2章小児歯科における診療体系、Ⅲ編1章1－診察・検査時の業務、3章－小児歯科診療における診療補助を予習（概ね30分程度）
10	患児の対応法　年齢別の小児の行動とその対応、不協力な小児の対応法	教科書のⅡ編3章小児歯科における患者との対応法を予習（概ね30分程度）
11	患児の対応法（続き）障害児の歯科治療	教科書のⅡ編4章障害児の歯科治療を予習（概ね30分程度）
12	う蝕予防処置について	教科書のⅢ編2章う蝕予防を予習（概ね30分程度）
13	診療補助　歯冠修復	教科書のⅡ編2章6小児の歯冠修復、Ⅲ編3章2－保存修復を予習（概ね30分程度）
14	診療補助　乳歯歯内療法	教科書のⅡ編2章7小児の歯内療法、Ⅲ編3章3－歯内療法を予習（概ね30分程度）
15	診療補助　外傷、抜歯、咬合誘導、リコールについて	教科書のⅡ編2章8小児の外科的処置、9咬合誘導、Ⅲ編3章4外科的処置、5咬合誘導～4章を予習（概ね30分程度）

教科書	『最新歯科衛生士教本　小児歯科』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	
備考	授業は遠隔（オンデマンド）で実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-2-DHC-09

科目名	高齢者口腔保健学				単位認定者	猪狩　洋平		評価の方法	試験（筆記）	80　%
対象学科 必修･選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	20　%
						授業時間数	20　時間			
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	高齢者は，顎口腔機能はもとより身体的機能も低下していることが多く，全身疾患を有し，身体状況に個人差が大きいなどの特徴を有するため，それを踏まえた対応が必要となる。本科目では，高齢者について理解し，高齢者における口腔保健の基礎を学ぶ。
到達目標	高齢者の特性や社会的背景について理解し、高齢者に対して適切な口腔保健指導、歯科診療補助を行う際に必要な知識を修得する。
学修者への期待等	授業計画に相当する教科書の単元を熟読し、授業に挑むこと。 配布資料と教科書の内容をよく理解すること。

回	授業計画	準備学修
1	高齢者をとりまく社会と環境①高齢社会と健康②高齢者にかかわる法制度 高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴	予習として、教科書のⅠ編　高齢者をとりまく社会と環境を読んで授業に臨むこと。（概ね1時間程度）
2	加齢による身体的・精神的変化と疾患①加齢に伴う身体的機能の変化②高齢者の精神・心理的変化　高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患（主たる死因となる疾患）	予習として、教科書のⅡ編　加齢による身体的・精神的変化と疾患を読んで授業に臨むこと。（概ね1時間程度）
3	加齢による身体的・精神的変化と疾患③高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患（高齢者に特有な口腔の疾患）	
4	高齢者の状態の把握①高齢者の生活機能の評価　高齢者歯科と臨床検査②高齢者の栄養状態、高齢者の薬剤服用	予習として、教科書のⅢ編　高齢者の状態の把握を読んで授業に臨むこと。（概ね1時間程度）
5	口腔のケア①高齢者に対する口腔のケア、有病高齢者への口腔のケア	予習として、教科書のⅣ編　口腔のケアを読んで授業に臨むこと。（概ね1時間程度）
6	口腔のケア②要介護高齢者への口腔のケア	
7	摂食・嚥下リハビリテーション①高齢者のリハビリテーションの概要、摂食・嚥下の評価と対応 ②誤嚥性肺炎予防のための訓練	予習として、教科書のⅤ編　嚥下・摂食リハビリテーションを読んで授業に臨むこと。（概ね1時間程度）
8	摂食・嚥下リハビリテーション③在宅訪問歯科診療における摂食・嚥下リハビリテーション、介護施設における摂食・嚥下リハビリテーション	
9	高齢者に関わる医療と介護①在宅訪問診療の概要、歯科衛生士が関わる公的介護保険の概要 ②かかりつけ歯科の役割、訪問看護と歯科の役割	予習として、教科書のⅥ編　高齢者に関わる医療と介護を読んで授業に臨むこと。（概ね1時間程度）
10	高齢者歯科における歯科衛生過程 歯科衛生過程の概要	予習として、教科書のⅦ編　高齢者歯科における歯科衛生過程を読んで授業に臨むこと。（概ね1時間程度）

教科書	『最新歯科衛生士教本　高齢者歯科　第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	
備考	準備学修課題についてはプリントを使用し、授業内で解説する。授業は遠隔（オンデマンド）で実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-2-DHC-10

科目名	障害者口腔保健学				単位認定者	星　久美		評価の方法	試験（筆記）	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
						授業時間数	20　時間			
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	身体的，知的あるいは精神的な障害のある人を対象とした口腔保健管理のあり方を学ぶ。 障害者の歯科治療では治療や指導及び患者管理に特別の配慮を必要とする。その際に必要な身体的，知的及び精神的特徴と特有の口腔機能障害について学ぶ。そして社会の一員である障害者の生活を知り，障害者の歯科医療について総合的に学習する。
到達目標	①障害児・者の身体的、知的および精神的特徴と歯科的特徴を理解し、歯科保健医療の留意点を説明できる。 ②障害児・者の摂食・嚥下障害とリハビリテーションについて説明できる。
学修者への期待等	各専門分野で学んだ知識を展開していく科目であるため、各回の授業内容に関連する既習他科目の学修項目を復習した上で授業を受講することを望む。

回	授業計画	準備学修
1	障害の概念及び地域における障害者歯科	教科書 第1章 障害の概念、第7章 地域における障害者歯科を事前に1時間程度自学自習すること。
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患　Ⅰ 精神発達・心理的発達と行動障害・運動障害（神経・筋系疾患）	教科書 第2章　歯科医療で特別な支援が必要な疾患を事前に1時間程度自学自習すること。
3	歯科医療で特別な支援が必要な疾患　Ⅱ 感覚障害・音声言語障害・精神および行動の障害	
4	歯科医療で特別な支援が必要な疾患　Ⅲ 脳神経障害・口腔内に特徴のある疾患	
5	障害者の歯科医療と行動調整 コミュニケーションの方法及び行動療法(行動変容法)	教科書 第3章　障害者の歯科医療と行動調整を事前に2時間程度自学自習すること。
6	障害者の歯科医療と行動調整 コミュニケーションの方法及び行動療法(行動変容法) 体動のコントロール	教科書 第4章　健康支援と口腔衛生管理を事前に1時間程度自学自習すること。
7	障害者の歯科医療と行動調整 薬物的行動調整 障害者歯科における歯科衛生過程 リスク評価と安全管理	教科書 第5章 リスク評価と安全管理、第8章 障害歯科における歯科衛生過程を事前に1時間程度自学自習すること。
8	健康支援と口腔衛生管理 介助者が行う口腔のケアへの支援、専門的口腔ケア 特別な配慮が必要な患者への口腔衛生管理	健康支援と口腔衛生管理 介助者が行う口腔のケアへの支援、専門的口腔ケア 特別な配慮が必要な患者への口腔衛生管理
9	障害児・者の摂食・嚥下リハビリテーション 摂食・嚥下障害と口腔管理、栄養管理、評価法	教科書 第6章 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割を事前に1時間程度自学自習すること。
10	障害児・者の摂食・嚥下リハビリテーション 摂食機能療法、小児期の摂食・嚥下障害への対処法	教科書 第6章 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割を事前に1時間程度自学自習すること。

教科書	『最新歯科衛生士教本　障害者歯科 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	『スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第2版』日本障害者歯科学会編、医歯薬出版株式会社 『小児の摂食嚥下リハビリテーション 第2版』田角勝・向井美惠編著、医歯薬出版株式会社
備考	授業は遠隔（オンデマンド）で実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-2-DHC-11

科目名	歯科放射線学				単位認定者	飯久保　正弘		評価の方法	試験（筆記）	90　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	10　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	エックス線の性質を理解し、歯科医療における正しいエックス線の利用法と歯科衛生士が果たす役割を認識する。エックス線診断の基本を学び、基本的な病態診断の技術を習得するとともに、放射線の生理学的影響やエックス線の性質、撮影法について、理解を深める。
到達目標	エックス線の性質を理解し、歯科医療における正しいエックス線の利用法と歯科衛生士が果たすべき役割を認識する。エックス線診断の基本を理解し、基本的な病態診断の技術を修得する。
学修者への期待等	欠席せずに意欲を持って臨み、予習・復習をしっかりと行ってほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	エックス線の基礎知識（講義）身近な放射線、放射線の種類、エックス線の発生、エックス線の性質	予習として「放射線」という言葉の意味を調べておく(概ね30分程度)。	飯久保正弘
2	歯科用エックス線の装置と写真（講義）歯科用エックス線装置の基本構造と特殊性、エックス線写真の成立、写真処理		飯久保正弘
3	放射線防護（講義）　放射線被曝、放射線の生体に対する作用、組織の放射線感受性、放射線障害	予習として放射線が人体に与える影響を調べておく（概ね30分程度）。	飯久保正弘
4	歯科用エックス線撮影法(1)（講義）口内撮影法、歯科衛生士の役割		飯久保正弘
5	エックス線写真の読み方（講義）口内法正常像、口内法病態像		飯久保正弘
6	歯科用エックス線撮影法(2)（講義）口外法、パノラマ撮影法、歯科衛生士の役割		飯久保正弘
7	エックス線写真の読み方（講義）パノラマ写真正常像、パノラマ写真病態像		飯久保正弘
8	歯科用X線撮影法（講義・演習）口内法（上顎前歯）	予習としてインスタントフィルムの現像方法を調べておく（概ね30分程度）。	飯久保正弘 長南　真弓 西條　佳奈
9	歯科用X線撮影法（講義・演習）口内法（上顎臼歯）	予習として自動現像機の使用方法を調べておく（概ね30分程度）。	飯久保正弘 長南　真弓 西條　佳奈
10	歯科用X線撮影法（講義・演習）口内法（下顎臼歯）		飯久保正弘 長南　真弓 西條　佳奈
11	歯科用X線撮影法（講義・演習）口翼法パノラマ		飯久保正弘 長南　真弓 西條　佳奈
12	歯科用X線撮影法（講義・演習）咬合法		飯久保正弘 長南　真弓 西條　佳奈
13	歯科用X線撮影法（講義・演習）パノラマ		飯久保正弘 長南　真弓 西條　佳奈
14	写真読影と放射線治療（講義）自分の写真を見てみよう　口腔領域の放射線治療法と放射線治療患者の口腔ケア	予習として自分の写真をよく見ておく（概ね30分程度）。	飯久保正弘
15	最新の画像診断（講義）　CT、MRI、超音波　など		飯久保正弘

教科書	『歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学　第3版』飯久保正弘ほか著、株式会社学建書院
参考文献	
備考	1～7回、14～15回は遠隔（オンデマンド）で授業を実施する。8～13回は2クラスに分かれて実習室で授業を行う。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●			

科目ナンバリング
DH-2-DHP-02

科目名	う蝕予防処置法（臨床基礎）				単位認定者	鷲尾 純平		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	演習	授業回数	10 回			

授業の概要	「歯科予防処置法」で学んだ知識や技術を踏まえ，専門教育分野と関連付けながら，う蝕の原因および食品とう蝕の誘発性を理解し，う蝕の予防法の基礎知識を修得する。また，う蝕予防処置業務における，フッ化物応用法，う蝕活動性試験等の目的を理解し，患者説明ができるようにする。
到達目標	う蝕がどのようにできるのかを理解する。それらの基礎知識を踏まえて、様々なう蝕予防方法について理解し、個々人でできるもの、集団で行うものなど、う蝕予防に関する全体像を、技術とともに習熟する。
学修者への期待等	①演習では身だしなみを整え、意欲的にのぞむこと。 ②提出物は、期日を守って提出すること。

回	授業計画	準備学修	担当
1	【遠隔（オンデマンド）】 う蝕の基礎知識（う蝕はどのようにできるのか？）（合同講義）	テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。	鷲尾 純平
2	【遠隔（オンデマンド）】 う蝕の基礎知識（う蝕を予防するには?）（合同講義）	テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。	鷲尾 純平
3	【遠隔（オンデマンド）】 う蝕活動性試験（各種検査方法/具備すべき要件など）（合同講義）	テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。	鷲尾 純平
4	う蝕活動性試験 演習①（クラス別演習）	前回までの講義をよく復習したうえで、演習に臨むこと。	伊藤 恵美 西條 佳奈
5	う蝕活動性試験 演習②（データの解釈）（クラス別演習）	前回までの講義をよく復習したうえで、演習に臨むこと。	伊藤 恵美 西條 佳奈
6	【遠隔（オンデマンド）】 フッ化物（フッ化物とは？効果や使用方法など）（合同講義）	テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。	鷲尾 純平
7	【遠隔（オンデマンド）】 フッ化物（中毒など・洗口液の調整方法）（合同講義）	テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。	鷲尾 純平
8	【遠隔（オンデマンド）】 代用糖（代用糖とは？）（合同講義）	テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。	鷲尾 純平
9	代用糖の効果（クラス別演習）	前回までの講義をよく復習したうえで、演習に臨むこと。	鷲尾 純平 伊藤 恵美 西條 佳奈
10	【遠隔（オンデマンド）】 地域歯科保健とう蝕予防（合同講義）	テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。	鷲尾 純平

教科書	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生士のための齲蝕予防処置法』中垣晴男ほか著、医歯薬出版株式会社
参考文献	『最新歯科衛生士教本 歯周病学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
備考	1～3回、6～8回、10回は遠隔（オンデマンド）で授業を実施する。4・5回、9回は2クラスに分かれて演習を行う。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●			

科目ナンバリング
DH-2-DHP-03

科目名	歯周病予防法（臨床基礎）				単位認定者	伊藤　恵美		評価の方法	試験（筆記）	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	通年	単位数	2　単位		受講態度	20　%
						授業時間数	60　時間			
				授業形態	演習	授業回数	30　回			

授業の概要	「歯科予防処置法」で修得した知識と技術をもとに，歯周組織の健康像と病的変化を把握し，歯周病予防法の専門的な知識と技術および態度を修得する。その手技として各検査法，予防的歯石除去法，歯面研磨・歯面清掃の技術について，安全で適切な操作技術を模型上および相互実習で修得する。
到達目標	歯周病予防法の基礎知識を理解し、基礎的な技術を修得する。
学修者への期待等	1.身だしなみをきちんと整え、教科書等の忘れ物がないように授業に臨むこと。 2.欠席・欠課をしないよう意欲的に臨んでほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	歯周治療における歯科衛生士の役割 （歯周治療の流れ）【オンデマンド授業】	教本歯周病学　Ⅲ編　「歯周治療と歯科衛生士業務」、「歯周病検査・診断時の補助」について読んでおくこと。（概ね30分程度）	伊藤　恵美
2	キュレット型スケーラーについて クラス別演習　7階演習室	教本歯科予防処置論・歯科保健指導論Ⅲ編3章「キュレット型スケーラー」と歯周病学　Ⅲ編1章「手用スケーラー」を読んでおくこと。（概ね45分程度）	伊藤　恵美 西條　佳奈
3	キュレット型スケーラーの基本操作　マネキン演習（前歯）　クラス別演習　7F演習室	教本歯科予防処置論・歯科保健指導論Ⅲ編3章「操作方法」と歯周病学　Ⅲ編1章「グレーシー型キュレット使用時の基本原則」を読んでおくこと。（概ね45分程度）	伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
4	キュレット型スケーラーの基本操作　マネキン演習（下顎臼歯）　クラス別演習　　7F演習室		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
5	キュレット型スケーラーの基本操作　マネキン演習（上顎臼歯）　クラス別演習　　7F演習室		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
6	実技確認（キュレット型スケーラーの基本操作） 相互実習説明　クラス別演習	シラバス3～5回の実習記録を振り返ること。（概ね45分程度）	伊藤　恵美 西條　佳奈
7	キュレット型スケーラーの基本操作　相互演習（前歯①）上下術者交代　クラス別演習	教本歯周病学　Ⅲ編　「グレーシー型キュレット使用時の基本操作」と教本歯科予防処置論・歯科保健指導論Ⅲ編3章「キュレットスケーラー」について読んでおくこと。（概ね45分程度）	伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
8	キュレット型スケーラーの基本操作　相互演習（前歯②）上下術者交代　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
9	キュレット型スケーラーの基本操作　相互演習（前歯③）上下術者交代　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
10	キュレット型スケーラーの基本操作　相互演習（下顎①）左右術者交代　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
11	キュレット型スケーラーの基本操作　相互演習（下顎②）左右術者交代　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
12	キュレット型スケーラーの基本操作　相互演習（下顎③）左右術者交代　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
13	キュレット型スケーラーの基本操作　相互演習（上顎①）左右術者交代　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
14	キュレット型スケーラーの基本操作　相互演習（上顎②）左右術者交代　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
15	キュレット型スケーラーの基本操作　相互演習（上顎③）左右術者交代　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣

回	授業計画	準備学修	担当
16	キュレットスケーラーの基本操作　振り返り クラス別演習	シラバス3～15回の実習記録で振り返りをしておくこと。(概ね30分程度)	伊藤　恵美 西條　佳奈
17	パワースケーラー(エアスケーラー)、歯面清掃器について　クラス別演習	教本歯科予防処置論・歯科保健指導論Ⅲ編3章「エアスケーラー」、教本歯周病学Ⅲ編1章「音波(エア)エアスケーラー」を読んで、操作方法について復習をしておくこと。(概ね30分程度)	伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
18	パワースケーラー(エアスケーラー)、歯面清掃器の基本操作について　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
19	パワースケーラー(エアスケーラー)、歯面清掃器の基本操作について　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
20	パワースケーラー(エアスケーラー)、歯面清掃器の基本操作について　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
21	歯周組織検査　相互演習(患者①)上下術者交代 クラス別演習	教本　歯周病学　Ⅱ編2章　「歯周ポケット検査」「歯の動揺」を読んで授業に臨むこと。(概ね30分程度)	伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子
22	歯周組織検査　相互演習(患者②)上下術者交代 クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子
23	歯周組織検査　相互演習(患者③)上下術者交代 クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子
24	スケーリング相互演習＜キュレット型スケーラー＞ (患者①)上下術者交代　クラス別演習	2～22回までの実習記録を振り返って授業に臨むこと。(概ね45分程度)	伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
25	スケーリング相互演習＜キュレット型スケーラー＞ (患者②)上下術者交代　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
26	スケーリング相互演習＜キュレット型スケーラー＞ (患者③)上下術者交代　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
27	スケーリング演習＜キュレット型スケーラー＞(振り返り)　クラス別演習	シラバス23～25回の実習記録を振り返って実習に臨むこと。(概ね30分程度)	伊藤　恵美 西條　佳奈
28	スケーリング相互演習＜器具の選択＞(患者①) 上下術者交代　クラス別演習	これまでの実習記録を振り返って授業に臨むこと。(概ね45分程度)	伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
29	スケーリング応用演習＜器具の選択＞(患者②) 上下術者交代　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
30	スケーリング応用演習＜器具の選択＞(患者③) 上下術者交代　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子 北村　麻衣
教科書	『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯周病学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献	『最新歯科衛生士教本　歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1　保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
備考	1回はオンデマンド講義　2～30回はクラス別で授業を行う。 授業の冒頭で目標を示し授業の最後にまとめを行う。実習レポート・課題は提出期限厳守。添削後、返却する。 授業の進捗状況により順番が前後することがある。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
歯科診療所で勤務経験のある教員が、歯周病予防法の専門的知識と技術を指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●		

科目ナンバリング
DH-2-DHP-08

科目名	保健指導演習Ⅱ（臨床応用）				単位認定者	大宮 由布子　花渕 静		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業時間数	60 時間		授業内課題	10 %
						授業回数	30 回			

授業の概要	各ライフステージにおけるプロフェッショナルケアの目標を理解し，臨床例をとおして，対象者の問題解決に向けて対応できる能力を身につける。
到達目標	歯科保健指導において歯科衛生士が使用するさまざまな口腔清掃用具の使用法を学ぶと共に基本的実技に習熟し、臨床の場に十分対応し得る能力を修得する。各ライフステージ別の口腔の問題点、生活背景を理解し、歯科衛生過程における指導計画の考察力を身につける
学修者への期待等	1.欠席・欠課をしないよう意欲を持って授業に臨んで欲しい。 2.身だしなみをきちんと整え、教科書等忘れ物しないようにして欲しい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	**【遠隔(オンデマンド)】** ライフステージにおける歯科衛生介入 ①妊産婦期	Ⅳ編　対象別の歯科衛生介入　1章ライフステージに対応した歯科衛生介入①妊産婦期P304～314を読み授業に臨んでください。(概ね30分)	花渕　静
2	**【遠隔(オンデマンド)】** ライフステージにおける歯科衛生介入 ②新生児期・乳児期	Ⅳ編　対象別の歯科衛生介入　1章ライフステージに対応した歯科衛生介入　②新生児期・乳児期P314～P324を読み授業に臨んでください。(概ね30分)	花渕　静
3	**【遠隔(オンデマンド)】** ライフステージにおける歯科衛生介入 ③幼児期	Ⅳ編　対象別の歯科衛生介入　1章ライフステージに対応した歯科衛生介入③幼児期P324～P332を読み授業に臨んでください。(概ね30分)	花渕　静
4	**【遠隔(オンデマンド)】** ライフステージにおける歯科衛生介入 ④学齢期	Ⅳ編　対象別の歯科衛生介入　1章ライフステージに対応した歯科衛生介入④学齢期P332～P338を読み授業に臨んでください。(概ね30分)	花渕　静
5	**【遠隔(オンデマンド)】** ライフステージにおける歯科衛生介入 ⑤青年期	Ⅳ編　対象別の歯科衛生介入　1章ライフステージに対応した歯科衛生介入⑤青年期P339～P344を読み授業に臨んでください。(概ね30分)	花渕　静
6	**【遠隔(オンデマンド)】** 学校保健(小学校)における歯科小集団保健指導法	Ⅳ編 1章-④学齢期の食生活指導P337を復習しておくこと。Ⅴ編2章学校(小学校)における歯科保健指導についてP401～P406を読み授業に臨んで下さい。	花渕　静
7	小集団歯科保健指導法(発声・話法)検討演習① (プレゼンテーション演習)	シラバス6回目にプリントを配布しますので、発声・話法練習をしてから授業に臨んで下さい。(概ね30分程度)	花渕　静
8	小集団歯科保健指導法(発声・話法)検討演習② (プレゼンテーション演習)	シラバス6回目にプリントを配布しますので、発声・話法練習をしてから授業に臨んで下さい。(概ね30分程度)	花渕　静
9	オーレリーPCR判定相互演習(1)（演習手順説明／術者1人目）	保健指導演習Ⅰで行った同項目の演習記録プリントを読み演習に臨んで下さい。(概ね30分程度)	花渕　静 千葉　藍 宍戸　敦子
10	オーレリーPCR判定相互演習(2)（術者2人目、3人目／演習まとめ）	保健指導演習Ⅰで行った同項目の演習記録プリントを読み演習に臨んで下さい。(概ね30分程度)	花渕　静 千葉　藍 宍戸　敦子
11	歯面研磨・歯面清掃(PTCとPMTC)エバチップ操作相互演習　(1)／(演習手順説明／術者1人目)	「歯科予防処置・歯科保健指導論」第Ⅲ編3章②歯面研磨・歯面清掃(PTC)を読んで授業に臨んでください。(概ね20分程度)	花渕　静 千葉　藍 宍戸　敦子
12	歯面研磨・歯面清掃(PTCとPMTC)エバチップ操作相互演習　(2)／(術者2人目、3人目／演習まとめ)	「歯科予防処置・歯科保健指導論」第Ⅲ編3章②歯面研磨・歯面清掃(PTC)およびシラバス11回目の授業資料を読んで授業に臨んでください。(概ね20分程度)	花渕　静 千葉　藍 宍戸　敦子
13	PMTC相互演習(歯垢染色剤2度染めによるPMTC技術検討演習)①(演習手順説明／術者1人目／手技評価)	保健指導演習ⅠのPMTC基礎演習にて配布されたプリントを読み演習に臨んでください。(概ね30分程度)	花渕　静 千葉　藍 宍戸　敦子
14	PMTC相互演習(歯垢染色剤2度染めによるPMTC技術検討演習)②(術者2人目／手技評価)	保健指導演習ⅠのPMTC基礎演習にて配布されたプリントを読み演習に臨んでください。(概ね30分程度)	花渕　静 千葉　藍 宍戸　敦子
15	PMTC相互演習(歯垢染色剤2度染めによるPMTC技術検討演習)③(術者3人目／手技評価／演習まとめ)	保健指導演習ⅠのPMTC基礎演習にて配布されたプリントを読み演習に臨んでください。(概ね30分程度)	花渕　静 千葉　藍 宍戸　敦子

回	授業計画	準備学修	担当
16	ブラッシング指導モデル演習 （各症例別ブラッシング指導ポイントを知る）	Ⅲ編　4章歯科衛生介入としての歯科保健指導 P268～P280①口腔衛生管理に関わる指導を復習し授業に臨んでください。（概ね20分程度）	大宮由布子
17	ブラッシング指導演習（磨き残し部位に対するブラッシング法　ワンポイント指導）～術者磨き、フロッシング相互演習①～　（演習手順説明／術者1人目／手技評価）	術者の手順、留意事項、患者説明のポイントを理解し演習に臨んでください。（概ね30分程度）	花渕　静 千葉　藍 宍戸　敦子
18	ブラッシング指導演習（磨き残し部位に対するブラッシング法　ワンポイント指導）～術者磨き、フロッシング相互演習②～　（術者2人目／手技評価）	術者の手順、留意事項、患者説明のポイントを理解し演習に臨んでください。（概ね30分程度）	花渕　静 千葉　藍 宍戸　敦子
19	ブラッシング指導演習（磨き残し部位に対するブラッシング法　ワンポイント指導）～術者磨き、フロッシング相互演習③～　（術者3人目／手技評価／演習まとめ）	術者の手順、留意事項、患者説明のポイントを理解し演習に臨んでください。（概ね30分程度）	花渕　静 千葉　藍 宍戸　敦子
20	**【遠隔（オンデマンド）】** ライフステージにおける歯科衛生介入 ⑥成人期	Ⅳ編　対象別の歯科衛生介入　1章ライフステージに対応した歯科衛生介入⑥成人期P350～359を読んで授業に臨んでください。（概ね30分）	大宮由布子
21	**【遠隔（オンデマンド）】** ライフステージにおける歯科衛生介入 ⑦老年期	Ⅳ編　対象別の歯科衛生介入　1章ライフステージに対応した歯科衛生介入⑦老年期P360～371を読んで授業に臨んでください。（概ね30分）	大宮由布子
22	**【遠隔（オンデマンド）】** ライフステージにおける歯科衛生介入 ⑧要介護高齢者	Ⅳ編　対象別の歯科衛生介入　2章配慮を要する者への歯科衛生介入①要介護高齢者P375～P382を読んで授業に臨んでください。（概ね30分）	大宮由布子
23	**【遠隔（オンデマンド）】** ライフステージにおける歯科衛生介入 ⑨障害児者	Ⅳ編　対象別の歯科衛生介入　2章配慮を要する者への歯科衛生介入②障害児者P382～P387を読んで授業に臨んでください。（概ね30分）	大宮由布子
24	口腔健康管理　口腔衛生管理　講義 （口腔衛生評価、口腔衛生に関する指導） 口腔衛生状態の指数（OHI、OHI-S、PHP、PℓI）	Ⅲ編　2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理P156～P160 ⑧分析のためのデータを読み授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮由布子
25	口腔衛生管理　口腔衛生状態の指数 （OHI、OHI-S、PHP、PℓI） 相互演習①	前時の授業内容を確認し、術者手順、留意事項を理解し、演習に臨んでください。	花渕　静 千葉　藍 宍戸　敦子
26	口腔衛生管理　口腔衛生状態の指数 （OHI、OHI-S、PHP、PℓI） 相互演習②		花渕　静 千葉　藍 宍戸　敦子
27	口腔衛生管理　口腔衛生状態の指数 （OHI、OHI-S、PHP、PℓI） 相互演習③		花渕　静 千葉　藍 宍戸　敦子
28	口腔健康管理　相互演習①　業務記録の書き方 （口腔衛生管理　EPP　PMTC　術者1人目）	術者の手順、留意事項を理解し演習に臨んでください。（概ね30分程度）	花渕　静 千葉　藍 宍戸　敦子
29	口腔健康管理　相互演習② （口腔衛生管理　EPP　PMTC　術者2人目）	術者の手順、留意事項を理解し演習に臨んでください。（概ね30分程度）	花渕　静 千葉　藍 宍戸　敦子
30	口腔健康管理　相互演習③ （口腔衛生管理　EPP　PMTC　術者3人目）	術者の手順、留意事項を理解し演習に臨んでください。（概ね30分程度）	花渕　静 千葉　藍 宍戸　敦子
教科書	『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯科機器』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　高齢者歯科』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　障害者歯科』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献	『新歯科衛生士教本　歯科保健指導』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生士のための齲蝕予防処置法』中垣晴男ほか編著、医歯薬出版株式会社		
備考	前期：シラバス1～6、20～23回目は遠隔(オンデマンドによる）講義、7・8回目のみクラス別教室での演習、9～15回目は、クラス別で歯科実習室にて講義・演習を行う。後期：シラバス16～19回目、24回目は合同講義、25～30回目はクラス別で歯科実習室にて講義・演習、20～23回目は遠隔（オンデマンドによる）講義を行う。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
歯科診療所で勤務経験のある教員が、各ライフステージにおけるプロフェッショナルケアの目的と使用器具の基本技術を指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-2-DHP-10

科目名	口腔リハビリテーション論				単位認定者	佐藤　奈央子 江畑　綾		評価の方法	試験（筆記）	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	20　時間			
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	摂食・嚥下のしくみとそれにかかわる障害についての歯科衛生士の役割を理解する。口腔の問題・障害を克服する口腔リハビリテーションについて学ぶ。
到達目標	・摂食・嚥下の正常なしくみと生理について理解し、リハビリテーションにつながる評価について説明できる。 ・摂食・嚥下のトレーニングについて、その意味と適応を知る。
学修者への期待等	ただ単に聴講するだけでなく、取り組むべき課題を自分自身で見つけ、検討するという姿勢で授業に挑むこと。

回	授業計画	準備学修	担当
1	摂食・嚥下リハビリテーション概要	教科書1章　摂食・嚥下のメカニズムを読んでおくこと。（30分程度）	佐藤奈央子
2	摂食・嚥下障害と歯科との関わり1（評価・訓練）	教科書2章　摂食・嚥下障害の観察と評価を読んでおくこと。（30分程度）	佐藤奈央子
3	摂食・嚥下障害と歯科との関わり2（口腔ケア）	教科書5章　口腔ケアを読んでおくこと。（30分程度）	佐藤奈央子
4	摂食・嚥下障害と歯科との関わり3（補綴等）	前回の授業内容を復習しておくこと。（30分程度）	佐藤奈央子
5	摂食・嚥下障害と歯科との関わり4（補綴等）	前回の授業内容を復習しておくこと。（30分程度）	佐藤奈央子
6	摂食嚥下に関わる諸器官の解剖	前回の授業内容を復習しておくこと。（30分程度）	江畑　綾
7	摂食嚥下に関わる神経生理（脳神経を中心に）	前回の授業内容を復習しておくこと。（30分程度）	江畑　綾
8	摂食嚥下のメカニズム（5期モデル）	前回の授業内容を復習しておくこと。（30分程度）	江畑　綾
9	摂食嚥下のメカニズム（プロセスモデル等）	前回の授業内容を復習しておくこと。（30分程度）	江畑　綾
10	摂食嚥下機能とその障害	前回の授業内容を復習しておくこと。（30分程度）	江畑　綾

教科書	『動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション』藤島一郎・柴本勇監修、中山書店
参考文献	『口から食べる嚥下障害Q＆A』藤島一郎著、中央法規出版株式会社
備考	1～5回目は遠隔（オンデマンド）で授業を実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●		

科目ナンバリング
DH-2-DHP-14

科目名	歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）				単位認定者	花渕　静　武山 真奈美 長南　真弓　西條　佳奈		評価の方法	試験（筆記）	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2　単位		受講態度	20　%
						授業時間数	40　時間			
				授業形態	演習	授業回数	20　回			

授業の概要	「歯科診療補助法（基礎知識）」、「歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）」で学んだ基礎知識、基本技術を踏まえ、歯科臨床現場を想定し各々の処置や治療に必要な歯科器材を的確に準備し、それらの取り扱いを安全に行うことができる実践的な臨床技術を修得する。また、診療内容に応じた術前・術中・術後における患者対応について、具体的に実践できる能力を身につける。
到達目標	・臨床の場に対応できる基本技術から応用技術までを修得する。 ・各治療内容における必要器材セッティングの基礎的知識及び技術を学ぶ。
学修者への期待等	欠席せずに意欲を持って臨み、予習・復習をしっかりと行ってほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	歯肉圧排の基礎知識 歯肉圧排法　マネキン演習	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章⑧-歯肉圧排、『歯科材料』Ⅱ編11章②-1.歯肉圧排糸を読み授業に臨むこと。（概ね40分程度）	西條　佳奈 長南　真弓 千葉　藍
2	各種材料練和法演習	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-2.アルジネート印象材による概形印象採得、③-合着・接着の補助を読み授業に臨むこと。（概ね30分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍 北村　麻衣
3	各種練和法によるアルジネート印象材 概形印象採得　相互演習（1） ／（実習手順説明／術者1人目）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-2.アルジネート印象材による概形印象採得を読み授業に臨むこと。また、シラバス第2回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね30分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍 北村　麻衣
4	各種練和法によるアルジネート印象材 概形印象採得　相互演習（2） ／（術者2人目）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-2.アルジネート印象材による概形印象採得を読み授業に臨むこと。また、シラバス第2、3回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね30分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍 北村　麻衣
5	各種練和法によるアルジネート印象材 概形印象採得　相互演習（3） ／（術者3人目／演習まとめ）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-2.アルジネート印象材による概形印象採得を読み授業に臨むこと。また、シラバス第2、3回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね30分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍 北村　麻衣
6	歯内療法治療時の歯科診療補助について 基礎知識／基礎演習	『歯の硬組織・歯髄疾患　保存修復・歯内療法』Ⅲ編歯内療法第3章②-抜髄法、第4章　根管治療、根管充填、Ⅲ編第8章②-歯髄処置時の診療補助業務を読み授業に臨むこと。（概ね60分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍
7	歯内療法治療時の歯科診療補助について 器材の取り扱い演習	『歯の硬組織・歯髄疾患　保存修復・歯内療法』Ⅲ編歯内療法第3章②-抜髄法、第4章　根管治療、根管充填、Ⅲ編第8章②-歯髄処置時の診療補助業務を読み授業に臨むこと。また、シラバス第6回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍
8	口腔外科治療（普通抜歯）時の 歯科診療補助について　基礎知識	『顎・口腔粘膜疾患　口腔外科・歯科麻酔』Ⅰ編第10章⑤-2.抜歯術、Ⅱ編第2章①-局所麻酔法を読み授業に臨むこと。（概ね60分程度）	花渕　静
9	口腔外科治療（難抜歯）時の 歯科診療補助について　基礎知識	『顎・口腔粘膜疾患　口腔外科・歯科麻酔』Ⅰ編第10章⑤-2.抜歯術、Ⅰ編第10章⑦-縫合処置を読み授業に臨むこと。（概ね40分程度）	花渕　静
10	症例別口腔外科器材セッティング演習 浸潤麻酔器材の取り扱い演習 各種表面麻酔用製剤検討演習	『顎・口腔粘膜疾患　口腔外科・歯科麻酔』Ⅰ編第10章⑤-2.抜歯術、Ⅱ編第2章①-局所麻酔法、Ⅱ編第2章-①局所麻酔法を読み授業に臨むこと。また、シラバス第8、9回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	花渕　静 長南　真弓

回	授業計画	準備学修	担当
11	ラバーダム防湿の基礎知識／基礎演習	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章⑦-ラバーダム防湿を読み授業に臨むこと。（概ね60分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍
12	ラバーダム防湿　マネキン演習	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章⑦-ラバーダム防湿を読み授業に臨むこと。また、シラバス第11回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍
13	ラバーダム防湿　相互演習（1） ／（演習手順説明／術者1人目）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章⑦-ラバーダム防湿を読み授業に臨むこと。また、シラバス第11、12回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍
14	ラバーダム防湿　相互演習（2） ／（術者2人目、3人目／演習まとめ）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章⑦-ラバーダム防湿を読み授業に臨むこと。また、シラバス第11～13回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍
15	暫間修復物（直接法）作製演習 ／口腔内写真撮影　相互演習（1）	2グループ交代で実習するため、該当実習前に各自『歯科材料』Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメント、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章⑤-2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』Ⅲ編第2章⑧-2.写真・画像を読み授業に臨むこと。（概ね40分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 西條　佳奈 千葉　藍
16	暫間修復物（直接法）作製演習 ／口腔内写真撮影　相互演習（2）	2グループ交代で実習するため、該当実習前に各自『歯科材料』Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメント、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章⑤-2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』Ⅲ編第2章⑧-2.写真・画像を読み授業に臨むこと。また、シラバス第15回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 西條　佳奈 千葉　藍
17	暫間修復物（直接法）作製実習 ／口腔内写真撮影　相互演習（3）	2グループ交代で実習するため、該当実習前に各自『歯科材料』Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメント、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章⑤-2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』Ⅲ編第2章⑧-2.写真・画像を読み授業に臨むこと。また、シラバス第15回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 西條　佳奈 千葉　藍
18	歯科補綴治療（有床義歯治療）時の歯科診療補助について　基礎知識	『咀嚼障害・咬合異常1　歯科補綴』Ⅱ編第3章有床義歯治療の実際、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第4章-④補綴治療時の診療補助を読み授業に臨むこと。（概ね60分程度）	花渕　静
19	各症例別患者介助および特殊歯科器材の取り扱い演習（1） ／（演習手順説明／術者1人目）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編3章②-2.特別な配慮が必要な患者対応、『歯科機器』第4章⑮-小児歯科用機器、『小児歯科』Ⅱ編3章小児歯科における患者との対応法を読み授業に臨むこと。（概ね40分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍 北村　麻衣 宍戸　敦子
20	各症例別患者介助および特殊歯科器材の取り扱い演習（2） ／（術者2人目、3人目／演習まとめ）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編3章②-2.特別な配慮が必要な患者対応、『歯科機器』第4章⑮-小児歯科用機器、『小児歯科』Ⅱ編3章小児歯科における患者との対応法を読み授業に臨むこと。また、シラバス第19回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍 北村　麻衣 宍戸　敦子
教科書	『最新歯科衛生士教本　歯科診療補助論　第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯科材料』全国歯科衛生士教育協議監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯科機器』全国歯科衛生士教育協議監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論　第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　顎・口腔粘膜疾患　口腔外科・歯科麻酔』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　咀嚼障害・咬合異常1　歯科補綴第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯の硬組織・歯髄疾患　保存修復・歯内療法』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　小児歯科』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献	授業の中で適宜紹介する。		
備考	8、9、18回は合同講義。3～5回、7回、11～17回、19、20回は歯科実習室、1、2、6、10回は新演習室にてクラス別に講義・演習を行う。3、4回、13、14回、15、16回は連続で演習を行う。なお、授業の進捗状況により順番が前後することがある。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
歯科診療所で勤務経験のある教員が、器材の安全な取り扱いと診療に応じた患者対応について指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●			

科目ナンバリング
DH-2-DHP-17

科目名	臨床検査法				単位認定者	花渕　静		評価の方法	試験（筆記）	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題等	10　%
						授業時間数	20　時間		受講態度	10　%
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	歯科衛生士が，医療現場において臨床検査の基本的知識と，病気をもつ患者に対応するうえでの必要な基本的な態度と技能を修得する。また，人の病態を臨床検査というエビデンスをもって知り，歯科衛生士としてその臨床データという根拠をもって歯科衛生診断，治療，メンテナンスに関わることの重要性について講義，演習を通して理解する。
到達目標	臨床検査の基礎知識を学び、各種検査法とその正常値・異常値から患者の身体症状を理解する。
学修者への期待等	授業は意欲的にのぞみ、提出物は期日を守り提出すること。

回	授業計画	準備学修	担当
1	【遠隔（オンデマンド）】 1章　臨床検査とは　臨床検査の概要について 臨床検査の種類、臨床検査と歯科衛生士の役割について	vii「臨床検査」執筆の序、第1章　臨床検査とはを読んで授業に臨んでください。（概ね40分程度）	花渕　静
2	【遠隔（オンデマンド）】 2章　生体検査について 生体検査（生理機能検査）について	第2章生体検査（生理機能検査）を読んで授業に臨んでください。（概ね40分程度）	花渕　静
3	生体検査（各種検査：体温、脈拍、血圧、血中酸素飽和度測定）演習（1） （グループA：体温測定検討演習　グループB：各種血圧測定　グループC：状況別脈拍・血中酸素飽和度測定）	シラバス2回目の授業資料、授業記録を読み授業に臨んで下さい。（概ね30分程度）	花渕　静 千葉　藍
4	生体検査（各種検査：体温、脈拍、血圧、血中酸素飽和度測定）演習（2） ①（グループA：状況別脈拍・血中酸素飽和度測定　グループB：体温測定検討演習　グループC：各種血圧測定） ②（グループA：各種血圧測定　グループB：状況別脈拍・血中酸素飽和度測定　グループC状況別脈拍・血中酸素飽和度測定）	シラバス2回目の授業資料、授業記録を読み授業に臨んで下さい。（概ね30分程度）	花渕　静 千葉　藍
5	【遠隔（オンデマンド）】 3章　検体検査について	第3章検体検査を読んで授業に臨んでください。（概ね40分程度）	花渕　静
6	検体検査（各種検査：ABO式簡易血液検査、尿検査、自己血糖測定演習）（1）	シラバス5回目の授業資料、授業記録を読み授業に臨んで下さい。（概ね30分程度）	花渕　静 千葉　藍
7	【遠隔（オンデマンド）】 4章　口腔領域の臨床検査	第4章口腔領域の臨床検査を読んで授業に臨んでください。（概ね40分程度）	花渕　静
8	唾液検査／味覚検査相互演習（1）（演習概要説明／術者1人目／考察検討）	シラバス7回目の授業資料、授業記録を読み授業に臨んで下さい。（概ね30分程度）	花渕　静 千葉　藍
9	唾液検査／味覚検査相互演習（2）（術者2人目／考察検討）	シラバス7回目の授業資料、授業記録を読み授業に臨んで下さい。（概ね30分程度）	花渕　静 千葉　藍
10	唾液検査／味覚検査相互演習（3）（術者3人目／考察検討） 臨床検査法まとめ	シラバス7回目の授業資料、授業記録を読み授業に臨んで下さい。（概ね30分程度）	花渕　静 千葉　藍

教科書	『最新歯科衛生士教本　臨床検査』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	『最新歯科衛生士教本　顎・口腔粘膜疾患　口腔外科・歯科麻酔』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
備考	授業内課題については添削後返却し、授業内で解説する。シラバス1・2・5・7回目は、遠隔（オンデマンド）による講義／他、3・4・6・8・9・10回目は、クラス別による講義・演習

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
歯科診療所で勤務経験のある教員が、病気をもつ患者に対する態度と技能および臨床検査の基礎知識を指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●			

科目ナンバリング
DH-2-DHP-19

科目名	介護技術の基礎				単位認定者	桑田　恵美子 東海林　美幸		評価の方法	試験（筆記）	70 ％
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題	30 ％
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	介護福祉における基礎知識を理解し、高齢者の口腔機能の保持増進へ向けて、その支援に役立つ考え方を理解する。また、臨床の場において対応できる基礎的介護技術を習得する。介護の基本的な考え方や理念を理解し、介護の対象者の特徴を理解するとともに生活支援の考え方を学ぶ。また、自立支援を基にした支援技術を体験する。
到達目標	1.介護福祉における基礎知識を説明できる 2.介護の対象者の特徴を理解し、生活支援の考え方と関連づけて説明できる 3.自立支援を基にした支援技術（衣服の着脱支援、移動の支援、食事支援）が体験できる
学修者への期待等	・“なぜ”の疑問を持ちながら授業に臨み、介護福祉における基礎知識を理解して、その支援に役立つ考え方を学んでほしい。 ・今後、生活や仕事上で高齢者・障害者と関わる上での基本姿勢を学んでほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	介護の基本となるもの （介護の目的、機能、変遷・介護保険）	【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）	桑田恵美子
2	介護の対象の理解（高齢者、要介護者、障害者）	【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）	桑田恵美子
3	介護の場の理解 （地域包括ケアシステム、施設・在宅）	【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）	桑田恵美子
4	介護に必要な視点	【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）	東海林美幸
5	共に働く人々との連携	【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）	桑田恵美子
6	利用者の状態に応じた介護 （寝たきり）	【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）	桑田恵美子
7	利用者の状態に応じた介護 （認知症）	【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）	桑田恵美子
8	利用者の状態に応じた介護 （視覚・聴覚障害）	【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）	東海林美幸
9	利用者の状態に応じた介護 （看取り）	【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）	桑田恵美子
10	利用者の状態に応じた介護 （緊急時）	【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）	東海林美幸
11	生活支援の介護（動作への援助）	【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）	東海林美幸
12	生活支援の介護（食事介助・衣類の着脱）	【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）	東海林美幸
13	【演習】生活支援の介護④　衣服の着脱支援	【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）	東海林美幸 桑田恵美子
14	【演習】生活支援の介護②　移動の支援（車椅子・歩行介助）	【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）	東海林美幸 桑田恵美子
15	【演習】生活支援の介護③　食事支援	【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）	東海林美幸 桑田恵美子

教科書	『イラストで理解する　初めての介護－心と技術－』川島みどり編、中央法規出版株式会社
参考文献	適宜、参考資料を配布する。
備考	・授業1回～12回は遠隔授業とします。 ・授業内課題とは、授業での学びをまとめLMSに提出することである。 授業内課題は、次回の授業でフィードバックします。 ＊演習時は、実習着・スニーカー(上履き)を準備して下さい。演習はA・Bクラスに分けて実施します。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●			

科目ナンバリング
DH-2-DHP-20

科目名	歯科医療請求事務				単位認定者	三浦　悦子		評価の方法	試験（筆記）	80 ％
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題等	10 ％
						授業時間数	20　時間		受講態度	10 ％
				授業形態	演習	授業回数	10　回			

授業の概要	保険医療制度の基礎知識を理解し、医療行為に対する診療報酬請求事務の基礎を学ぶ。また、治療の流れを十分理解し、診療録に基づいた正しい診療報酬明細書の記載方法・傷病名記載方法等を学ぶ。診療録に基づいた治療費の計算方法等、実務に即した内容等も理解する。
到達目標	レセプトと保険請求の仕組みを理解し、迅速で正確な請求事務能力を修得し、臨床の場に応用できる能力を身につける。
学修者への期待等	歯科保険請求事務は、歯科衛生士業務と関連が深い。授業を理解するためにも欠席することの無いよう意欲的に臨んで欲しい。

回	授業計画	準備学修
1	授業ガイダンス レセプトと保険請求の仕組みについて	テキストP2～P8、1編第1章保険の基礎知識/「レセプトと保険請求の仕組み」について読んでおくこと．（15分程度）
2	基本診療料(初診料と再診料)および医学管理料について	テキストP19～P26、1編2章/医学管理・リハビリテーションについて読んでおくこと．（15分程度）
3	請求明細書の書き方	教科書P9～P18、1編第2章「明細書の書き方」について読んでおくこと.(15分程度)
4	画像診断、検査関連事項について	テキストP44～P50/画像診断について読んでおくこと.(15分程度)
5	初期う蝕の治療①(明細書の記入、治療方法)	テキストP19～P26、1編第2章/「明細書の書き方/基本診療料」およびP248～P260、3編2章/初期う蝕の治療について読んでおくこと.(20分程度)
6	初期う蝕の治療②(充形／修形)	テキストP84～P93、1編第2章/歯冠修復および、欠損補綴(P84～P93)について読んでおくこと．（30分程度）
7	歯髄炎の処置法(抜髄⇒根管治療⇒根管充填)	テキストP57～P65、1編第2章/処置および、3編第3章/痛くなった歯の治療(P267～P275)について読んでおくこと.(30分程度)
8	感染根管の治療法(感染根管処置⇒根管充填	テキストP61～P65、1編第2章/処置および3、編第4章/感染根管治療(P276～P281)について読んでおくこと.(30分程度)
9	歯冠修復と欠損補綴(歯冠形成⇒印象採得⇒咬合採得⇒装着)	テキストP94～1001編第2章/歯冠修復および、3編第9章/歯冠修復と欠損補綴(P311～P318)について読んでおくこと.(30分程度)
10	歯周治療の流れ．歯周治療の進め方	テキストP68～P73/1編第2章/処置および、2編/症例「歯周治療の流れの解説」(P169～P174)について読んでおくこと.(30分程度)

教科書	『歯科保険請求マニュアル 歯の知識と請求の実務』高橋一祐著、医歯薬出版株式会社
参考文献	『最新歯科衛生士教本　歯周病学　第2版』全国歯科衛生士教育協議会編集、医歯薬出版株式会社 『歯科診療報酬点数表』社会保険研究所 『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論　第2版』全国歯科衛生士教育協議会編集、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　高齢者歯科　第2版』全国歯科衛生士教育協議会編集、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　咀嚼障害・咬合異常1歯科補綴　第2版』全国歯科衛生士教育協議会編集、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯科診療補助論　第2版』全国歯科衛生士教育協議会編集、医歯薬出版株式会社
備考	演習課題の添削後返却し、授業内で解説する。授業の進捗状況により順番が前後することがある。2クラスに分かれて授業を実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
歯科診療所で勤務経験のある教員が、保健医療制度の知識と診療報酬請求事務の実務内容を指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	●

科目ナンバリング
DH-2-CLT-02

科目名	臨地実習Ⅱ（臨床応用）				単位認定者	小野寺　健　伊藤恵美 大宮由布子　花渕　静 武山真奈美　長南真弓 西條佳奈		評価の方法	実習状況	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	通年	単位数	8　単位			
						授業時間数	360　時間			
				授業形態	実習	授業回数	集中			

授業の概要	本科目では，1年次で修得した学習内容を応用し，より高度で実践的な知識・技術を学ぶとともに，地域社会での歯科衛生士の有り様を現場で学ぶ。医療機関での臨床実習では，より高度な知識・技術を修得し，自らの歯科保健業務に活かすことについて学ぶ。教育機関，保育機関，福祉施設において，各ライフステージに合わせた歯科保健指導を行うことができる技術を身につける。
学修者への期待等	1）臨床現場における歯科衛生士の業務を実践することで歯科衛生士の役割を理解してください。 2）修得した学修内容を応用し、実践的な知識、技術などを身につけてください。

授業計画

1. 実習期間
 1）歯科医院臨床実習：6月～7月、10～12月
 2）保育園実習、幼稚園実習：8月～9月（3日間）
 3）小学校実習：1日間
 4）社会福祉施設実習：7～2月

2. 実習の目的
 1）歯科医院臨床実習
 (1）歯科診療の流れを理解し、それに必要な診療介助技術を習得する。
 (2）歯科衛生士が行う歯科予防処置、歯科保健指導の具体的な内容を理解し、自らも実践できる。
 (3）1年次、2年次に学内で学んだ知識、技術を臨床現場で実践することにより自己の学習成果を確認する。

 2）保育園実習、幼稚園実習
 (1）幼稚園児、保育園児の保育活動に参加するとともに、園児の発達段階および日常生活行動について理解し、
 口腔の管理を行うために必要な、知識・技能・および態度を身につける。
 (2）定期的な歯科保健指導を行うことにより口腔疾患のない保育環境を援助できる技術を身につける。
 (3）保護者および他職種との連携を図る能力を身につける。

 3）小学校実習
 (1）対象学年に合わせた歯科保健指導計画の立案ができる。
 (2）指導計画に添って教材・教具を活用し指導ができる。
 (3）対象学年の児童に対しわかりやすい言葉、にこやかな表情で話を展開できる。
 (4）歯科保健指導において、動画教材を用いた指導方法を実践できる。

 4）社会福祉施設実習
 (1）障害者および高齢者の口腔機能の向上と、QOLの向上に必要な口腔ケアの技能を習得するために、本人および介助者への
 対応と援助の能力を養う。

授業計画
3. 実習計画 1）歯科医院臨床実習 実習項目） ・診療室内の環境整備 ・患者誘導 ・使用器具・器材・材料の準備・後片付け ・診療介助（バキューム／ライティング／器具・器材の受け渡し） ・各種検査記録（歯式、歯周検査、O’Leary） ・印象採得介助および概形印象採得 ・各種セメントの取り扱い（合着・仮着・仮封） ・各種仮封材の取り扱い ・口腔内写真撮影補助 ・スケーリング（シックルタイプ・超音波スケーラー） ・PMTCおよびPTC ・う蝕予防処置補助（シーラント／フッ化物塗布） ・TBIおよび保健指導 2）保育園・幼稚園実習 実習項目） ・園児及び保護者、保育士とのコミュニケーション ・口腔衛生指導（歯や口腔の役割、うがい指導、ブラッシング指導など） ・年齢に応じたう蝕予防法 ・指導教材の作製および活用 3）小学校実習 実習項目） ・学年に合わせた歯科保健指導案の作成 ・ライフステージに合わせた専門的な口腔保健指導 4）社会福祉施設実習 実習項目） ・利用者及び他職種とのコミュニケーション ・指導教材の作製及び活用 ・利用者に対する保健指導の実践

教科書	1、2年次で、専門展開科目で使用する各教科書
参考文献	特になし
備考	実習終了後に、実習報告会を実施する。この報告会で実習の振り返りを行い、実習評価について総括する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
DH-2-CLT-11

科目名	臨地実習指導（臨床応用）				単位認定者	伊藤 恵美　大宮 由布子 花渕 静　武山 真奈美 長南 真弓　西條 佳奈		評価の方法	レポート	80 ％
対象学科 必修･選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	２年	開講時期	通年	単位数	1　単位		受講態度	20 ％
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	臨地実習Ⅱ（臨床応用）の事前・事後指導を行う。事前指導では臨地実習Ⅰ（臨床基礎）を踏まえ，２年生で必要となる実践力，研究力の育成を目指す。事後指導では実習の反省を踏まえ，自己の課題を見出しながら，必要となる事柄の修得のための学びを深める。
到達目標	臨地実習の目的および各実習施設の特徴や対象者を理解し、それぞれに応じた行動、技術の実践ができる。また、事前課題や実習の反省を踏まえ自己の課題を見出し解決できる能力を身につける。
学修者への期待等	１年次、２年次の学修成果を発揮するためにも、集団指導においては、各実習施設や対象者を理解し、それぞれに合わせた指導内容の計画と実践ができること。臨床においては、様々な患者様への対応とスタッフとの連携がとれるコミュニケーション能力を身につけること。実習メンバーとのコミュニケーションを円滑にし、事前課題および準備や計画を怠らず、真面目に取り組むこと。

回	授業計画	準備学修
1	保育園実習の目的および概要	最新歯科衛生士教本『歯科予防処置論・歯科保健指導論』Ⅳ編１章P265表Ⅳ－1－9、幼児の課題を読んでおくこと。（概ね30分）
2	歯科医院実習の目的および概要①	1年次の歯科医院実習について、再度、自身の振り返りをしてきてください。（概ね30分）
3	歯科医院実習の目的および概要②	各自の実習施設について、診療内容、通勤方法等を調べてきてください。（概ね60分）
4	保育園実習　報告会①	グループ発表の準備をしてきてください。（概ね60分）
5	保育園実習　報告会②	
6	相互台小学校　集団保健指導実習の目的および概要	最新歯科衛生士教本『歯科予防処置論・歯科保健指導論』Ⅳ編１章P265表Ⅳ－1－9、P266表Ⅳ－1－10を読んで授業に臨んでください。（概ね30分）
7	相互台小学校　報告会	グループ発表の準備をしてきてください。（概ね60分）
8	歯科医院実習Ⅰ　報告会①	グループ発表の準備をしてきてください。（概ね60分）
9	歯科医院実習Ⅰ　報告会②	
10	歯科医院実習Ⅱの目的および概要①	事前課題を提出してください。（概ね60分）
11	高齢者・障害者施設実習の目的および概要	最新歯科衛生士教本『高齢者歯科』Ⅰ編3章P24～31、『障害者歯科』7章③保健・医療・福祉のネットワーク　P139～146を復習して授業に臨んでください。（概ね30分）
12	歯科医院実習Ⅱの目的および概要②	事前課題を提出してください。（概ね60分）
13	歯科医院実習Ⅱ　報告会①	グループ発表の準備をしてきてください。（概ね60分）
14	歯科医院実習Ⅱ　報告会②	
15	高齢者・障害者施設実習　報告会	グループ発表の準備をしてきてください。（概ね60分）

教科書	『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯科診療補助論　第２版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　高齢者歯科　第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　障害者歯科（第2版）』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	
備考	授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

歯科衛生学科
３年生

（２０２０年度入学生）

- ■　カリキュラムツリー
- ■　カリキュラムマップ
- ■　年間予定表
- ■　シラバス

2022年度歯科衛生学科3年生　カリキュラムツリー

教養教育分野
専門支持科目
専門展開科目（講義）
専門展開科目（演習）
専門展開科目（関連分野）(講義、演習）
実習

1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期
臨地実習Ⅰ（臨床基礎）		臨地実習Ⅱ（臨床応用）		臨地実習Ⅲ（臨床総合）	
		臨地実習指導（臨床応用）		臨地実習指導（臨床総合）	
歯科予防処置法		歯周病予防法（臨床基礎）		歯周病予防法（臨床応用）	
		う蝕予防処置法（臨床基礎）		う蝕予防処置法（臨床応用）	
保健指導論	保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）	保健指導演習Ⅱ（臨床応用）		保健指導演習Ⅲ（臨床総合）	
歯科診療補助法（基礎知識）	歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）	歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）		歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）	
歯科衛生士概論		介護技術の基礎	歯科医療請求事務	口腔衛生管理	救急法・救急蘇生法
			臨床検査法		審美歯科演習
			口腔リハビリテーション論	口腔リハビリテーション演習	
	歯内療法学	歯科補綴学	歯周療法学	歯科衛生研究法Ⅰ(臨床基礎)	歯科衛生研究法Ⅱ(臨床応用)
	保存修復学	口腔外科学			
		歯科矯正学			
		小児歯科学			
感染予防法		高齢者口腔保健学	障害者口腔保健学		
		歯科放射線学			
解剖学					
口腔解剖学					
生理学	口腔生理学	生化学	衛生行政・社会保障	臨床医学	
組織発生学	歯牙解剖学				
栄養学	病理学	社会福祉論		人間関係論	
	微生物学				
衛生学・公衆衛生学	薬理学	地域福祉保健			
口腔衛生学					
日本語表現法	現代の社会				
英語Ⅰ					
手話		英語Ⅱ	暮らしの中の法律	心理学	
大学生活論					
情報処理	歴史と文化				
化学	コミュニケーション演習				
スポーツレクリエーション					

２０２２年度歯科衛生学科３年　カリキュラムマップ

学修成果（到達目標）

1 【基　礎　力】：基礎的な知識を身につけ歯科衛生活動に活かすことができる。
①全身と口腔の健康を理解し、歯科衛生士として必要な基本的な知識を身につけることができる。
②口腔疾患の原因、病態、予防方法を理解し、歯科衛生士としての専門性を理解し応用できる能力を身につけることができる。
③自らの健康管理ができ、社会人として責任を果たすことができる。

2 【実　践　力】：疾病の予防や健康の維持・増進、また全身的観点から口腔の健康を支援する技術を実践できる。
①疾病予防のために必要な情報を収集し、問題解決のための基本的な施術や適切な口腔衛生指導ができる。
②安全で効果的な歯科医療を提供するため、基本的な技術を身につけ実践できる。
③社会人として、また医療従事者として倫理観をもって行動できる。

3 【人間関係力】：社会人また歯科衛生士として、他職種と連携・協働する能力と患者や地域社会と関われるコミュニケーション能力を身につけることができる。
①社会人としての責任感を自覚し周囲と良好な人間関係を築くことができる。
②保健・医療・福祉チームの中で果たす役割を理解し、他者と連携しながら歯科衛生士の役割・責任を担うことができる。
③他者との関わりの中で、自らの課題を見つける客観性と、改善・解決できる柔軟性を身につけることができる。

4 【生涯学習力】：生涯にわたり、自ら学び、問題や課題を発見し解決する能力を身につけることができる。
①学修内容に興味や関心をもち、主体的、意欲的に取り組むことができる。
②専門職者として歯科医療における問題点をみつけ、自己学修によって解決できる。
③専門職者として常に謙虚で自己の成長に努めることができる。

5 【地域理解力】：地域社会との関わりを理解し、自ら地域との連携や地域貢献できる能力を身につけることができる。
①地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感を持って積極的に行動できる。
②地域の文化、人々の生活に興味、関心をもち、地域住民の視点にたちコミュニケーションをとることができる。

学修成果　：　1 基礎力　2 実践力　3 人間関係力　4 生涯学習力　5 地域理解力

学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。
●は、各授業科目が学修成果の1～5のどれに当てはまるかを表すものです。

科目区分			授業科目の名称	授業回数	履修年次 1年 前	1年 後	学修成果 1	2	3	4	5	2年 前	2年 後	学修成果 1	2	3	4	5	3年 前	3年 後	学修成果 1	2	3	4	5	単位数 必	選
教養教育分野	人間と文化		日本語表現法	15	○		●		●	●																2	
			英語Ⅰ	10	○		●																			1	
			英語Ⅱ	10								○		●												1	
			歴史と文化	10		○	●			●																1	
			手話	10	○		●	●	●																		1
	人間と社会		大学生活論	15		○	●		●	●																1	
			暮らしの中の法律	10									○	●			●									1	
			現代の社会	10		○	●			●	●															1	
			コミュニケーション演習	10		○		●	●	●																1	
			心理学	10															○		●		●	●			1
	人間と科学		情報処理	15	○		●	●		●																1	
			化学	10	○		●																				1
			スポーツレクリエーション	15		○	●	●	●	●	●																1
専門教育分野	専門支持科目	人体の構造と機能	解剖学	15	○		●	●																		2	
			生理学	15	○		●	●																		1	
			組織発生学	10	○		●	●																		1	
		歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学	20		○	●	●																		2	
			口腔生理学	15		○	●	●																		2	
			歯牙解剖学	10		○	●	●																		1	
		疾病の成り立ちと回復	病理学	15		○	●	●																		1	
			微生物学	15		○	●	●																		1	
			薬理学	15		○	●	●																		1	
			栄養学	10	○		●	●																		1	
			生化学	10								○		●	●											1	
			臨床医学	10															○		●	●				1	
		健康と予防に関わる人間の社会の仕組み	衛生学・公衆衛生学	15	○		●	●			●															1	
			口腔衛生学	30		○	●	●			●															2	
			地域福祉保健	20									○	●	●			●								2	
			衛生行政・社会保障	15									○	●	●			●								1	
			社会福祉論	15								○		●	●			●								1	
			人間関係論	10															○		●	●	●	●			1
	専門展開科目	歯科衛生士概論	歯科衛生士概論	15	○		●	●	●	●	●															2	
		臨床歯科医学	歯内療法学	10		○	●	●	●	●	●															1	
			保存修復学	10		○	●	●	●	●	●															1	
			歯周療法学	15									○	●	●	●	●	●								1	
			歯科補綴学	15								○		●	●	●	●	●								1	
			口腔外科学	15								○		●	●	●	●	●								1	
			歯科矯正学	15								○		●	●	●	●	●								1	
			小児歯科学	15								○		●	●	●	●	●								1	
			高齢者口腔保健学	10								○		●	●	●	●	●								1	
			障害者口腔保健学	10									○	●	●	●	●	●								1	
			歯科放射線学	15								○		●	●	●	●	●								1	
			口腔衛生管理	10															○		●	●	●	●	●		1
		歯科予防処置論	歯科予防処置法	30		○	●	●																		2	
			う蝕予防処置法（臨床基礎）	10								○		●	●	●	●									1	
			歯周病予防法（臨床基礎）	30									○	●	●	●	●	●								2	
			う蝕予防処置法（臨床応用）	10															○			●	●	●	●	1	
			歯周病予防法（臨床応用）	20																○		●	●	●	●	2	
		歯科保健指導論	保健指導論	15	○		●	●	●	●	●															1	
			保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）	15		○		●	●	●																1	
			保健指導演習Ⅱ（臨床応用）	30									○		●	●	●	●								2	
			保健指導演習Ⅲ（臨床総合）	30																○		●	●	●	●	2	
			口腔リハビリテーション論	10									○	●	●	●	●	●								1	
			口腔リハビリテーション演習	10															○		●	●	●	●	●		1
		歯科診療補助論	歯科診療補助法（基礎知識）	20	○		●	●																		2	
			歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）	20		○	●	●	●	●																2	
			歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）	20									○	●	●	●	●									2	
			歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）	20																○	●	●	●	●	●	2	
			感染予防法	10	○		●	●	●	●	●															1	
			臨床検査法	10									○	●	●	●	●	●								1	
			救急法・救急蘇生法	15																○	●	●	●	●	●	1	
			介護技術の基礎	15								○		●	●	●	●	●								1	
			歯科医療請求事務	10									○	●	●		●										1
			審美歯科演習	10																○	●	●	●	●	●		1
		実習	臨地実習Ⅰ（臨床基礎）	集中		○	●	●	●	●	●															4	
			臨地実習Ⅱ（臨床応用）	集中									○	●	●	●	●	●								8	
			臨地実習指導（臨床応用）	15									○	●	●	●	●	●								1	
			臨地実習Ⅲ（臨床総合）	集中																○	●	●	●	●	●	8	
			臨地実習指導（臨床総合）	15																○	●	●	●	●	●	1	
		特別科目	歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）	15															○		●	●	●	●	●		1
			歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）	15																○	●	●	●	●	●		1
総計（卒業要件100単位以上）																										93	11

2022年度　歯科衛生学科3年生　年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月											1		2	
	3		4		5	オリエンテーション	6	（入学式）	7		8		9	
	10		11		12		13	健康診断	14		15		16	
	17		18		19		20		21		22		23	
	24		25		26		27		28	合同交流会	29	昭和の日	30	
5月	1		2		3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6		7	
	8		9	臨床実習	10	臨床実習	11	臨床実習	12	臨床実習	13	臨床実習	14	
	15		16	臨床実習	17	臨床実習	18	臨床実習	19	臨床実習	20	臨床実習	21	
	22		23	臨床実習	24	臨床実習	25	臨床実習	26	臨床実習	27	臨床実習	28	
6月	29		30	臨床実習	31	予備日	1	予備日	2		3		4	
	5		6		7		8		9		10		11	
	12		13		14		15		16		17		18	
	19		20		21		22		23		24		25	
	26		27		28		29		30		1		2	
7月	3		4		5		6		7		8		9	
	10		11		12		13		14		15	定期試験	16	
	17		18	海の日	19	定期試験	20	定期試験	21	追試験	22		23	
	24		25	夏休み	26	夏休み	27	夏休み	28	夏休み	29	夏休み	30	
8月	31		1	夏休み	2	夏休み	3	夏休み	4	夏休み	5	不合格発表	6	
	7		8	夏休み	9	夏休み	10	夏休み	11	山の日	12	お盆休み	13	
	14		15	お盆休み	16	お盆休み	17	再試験	18	再試験	19	夏休み	20	
	21		22	夏休み	23	夏休み	24	夏休み	25		26	臨床実習	27	
9月	28		29	臨床実習	30	臨床実習	31	臨床実習	1	臨床実習	2	臨床実習	3	
	4		5	臨床実習	6	臨床実習	7	臨床実習	8	臨床実習	9	臨床実習	10	
	11		12	臨床実習	13	臨床実習	14	臨床実習	15	臨床実習	16	臨床実習	17	
	18		19	敬老の日	20	予備日	21	予備日	22		23	秋分の日	24	
	25		26	臨床実習	21	臨床実習	28	臨床実習	29	臨床実習	30	臨床実習		

※振替授業日、追試験の日程、再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2022年度　歯科衛生学科3年生　年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
10月													1	
	2		3	臨床実習	4	臨床実習	5	臨床実習	6	臨床実習	7	臨床実習	8	
	9		10	スポーツの日	11	臨床実習	12	臨床実習	13	臨床実習	14	臨床実習	15	
	16		17	臨床実習	18	臨床実習	19	予備日	20	予備日	21		22	
	23		24		25		26		27		28		29	せいよう祭
11月	30		31		1		2		3	文化の日	4		5	
	6		7		8		9		10		11		12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21		22	上杉山通小	23	勤労感謝の日	24	上杉山通小	25	合同交流会	26	
12月	27		28		29		30		1		2		3	
	4		5		6		7		8		9		10	
	11		12		13		14		15		16	定期試験	17	
	18		19	定期試験	20	定期試験	21	追試験	22		23		24	
	25		26	冬休み	27	冬休み	28	冬休み	29		30		31	
1月	1		2		3		4	国試対策	5	国試対策	6	国試対策	7	
	8		9	成人の日	10	国試対策	11	国試対策	12	国試対策	13	国試対策	14	
	15		16	国試対策	17	国試対策	18	国試対策	19	再試験	20	再試験	21	
	22		23	国試対策	24	国試対策	25	国試対策	26	国試対策	27	国試対策	28	
2月	29		30	国試対策	31	国試対策	1	国試対策	2	国試対策	3	国試対策	4	
	5		6	国試対策	7	国試対策	8	国試対策	9	国試対策	10	国試対策	11	建国記念日
	12		13	国試対策	14	国試対策	15	国試対策	16	国試対策	17	国試対策	18	
	19		20	国試対策	21	国試対策	22	国試対策	23	天皇誕生日	24	国試対策	25	
3月	26		27	国試対策	28	国試対策	1	国試対策	2	国試対策	3	国家試験前登校	4	
	5	国家試験	6		7		8		9		10		11	
	12		13		14		15		16		17	卒業式前日登校	18	
	19		20	卒業式	21	春分の日	22		23		24		25	
	26		27		28		29		30		31			

※振替授業日、追試験の日程、再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●	●	

科目ナンバリング
DH-0-HSO-02

科目名	心理学				単位認定者	坂井　信之		評価の方法	試験（レポート）	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	１年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題	10　%
	歯科衛生学科	選択	３年			授業時間数	20　時間		受講態度	20　%
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	人間を理解するため，自分をより知るために，心理学という学問を体系的に学ぶ。認知心理学をはじめ，認知発達及び社会発達，パーソナリティー，社会心理学といった主な領域を中心に，心理学全般における理解と基礎的知識の修得を目指す。
到達目標	心理学の基礎的知識を修得し、実際の医療現場や実生活でその知識を役立てることができるようになる。日常的な食行動を心理学の観点から理解できる。食行動に関する知識を身に付けることによって、QOLの向上に対する理解を高める。
学修者への期待等	授業の前後にその日に学修する(した)事項についての予習と復習が必要となります。予習は配布資料を読むこと、復習はその日に修得した知識を友人や家族と話しながら、理解を深めることです。また、毎授業後に小レポートを課しますので、授業中に理解できないところなどあれば積極的に質問してください。

回	授業計画	準備学修
1	授業ガイダンスと心理学への導入	血液型で性格が決まるかどうかについて身の回りの人と話し、自分の考えをまとめておいてください。
2	知覚（五感と「味」）	食べ物を味わいながら、その「味」がどの感覚なのか考えてみてください。
3	感情（おいしさと錯誤帰属）	食べ物を味わいながら、そのおいしさの理由について考えてみてください。
4	記憶（記憶の仕組みと誤った記憶）	自分の一番小さい頃の記憶について思い出し、その記憶がどのくらい正しいかについて養育者の方の記憶と照合してください。
5	欲求・動機・意欲（欲求階層説と心理社会的発達理論）	子どものときに好きだった食べ物、家族が好きな食べ物などをリストアップし、それぞれにどのような違いがあるか考えてみてください。
6	香りの心理学（体臭からアロマセラピーまで）	自分の好きな香りを嗅いでいるときの心と体（心拍、体温、呼吸など）の変化について考えてみてください。
7	対人関係（第一印象とハロー効果）	第一印象を良くするためにどのような工夫が効果的かについて幅広い（年齢や性別など）人の意見を参考にしながら、考えてみてください。
8	恋愛の社会心理学（遺伝子からアイデンティティまで）	恋愛観についていろいろな人と話し合って、恋愛対象の条件、恋愛のメリットなどについて考えてください。
9	心と体の健康（ダイエットと自尊心）	心と体を健康的に美しく維持するためにはどのような食習慣が効果的かについて考え、普段の食習慣との違いについて考えてください。
10	応用心理学とQoLの向上	授業で学んだことを総括し、これからの自分の生き方がどのように変わっていくかについて考えてください。

教科書	『香りや見た目で脳を勘違いさせる　毎日が楽しくなる応用心理学』坂井信之著、株式会社かんき出版
参考文献	『心理学の視点25』東北大学心理学講座編、株式会社国際文献社
備考	授業は遠隔(オンデマンド)で実施する。授業は原則としてパワーポイント(スライド)形式となる。小レポート課題のフィードバックは次回の授業に行います。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●			

科目ナンバリング
DH-1-DHB-12

科目名	臨床医学				単位認定者	小野寺　健		評価の方法	試験（筆記）	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	３年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題等	10　%
						授業時間数	20　時間		受講態度	20　%
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	超高齢社会の現在，歯科を受診する患者の多くが生活習慣病などの何らかの疾患を持っていると考える必要がある。その対応のために，口腔内のみならず，全身管理の視点を持つ必要がある。本科目では歯科衛生士として必要な基本的な臨床医学の知識と主要な疾患の概要を理解する。
到達目標	歯科衛生士として学ぶべき全身疾患の基礎知識を身につける。また、全身疾患がある患者さんに対しての歯科治療を行う際の注意点を学ぶ。
学修者への期待等	多様な価値観と様々なライフステージの対象を理解するため、「人間」「環境」「健康」について知識を身につけ、人々の健康保持・増進に向けて歯科衛生士としての役割を考えてほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	代謝性疾患―先天性代謝異常症、メタボリックシンドローム、糖尿病、脂質異常症、痛風など．内分泌疾患―視床下部・下垂体系、副腎疾患、甲状腺疾患など	教科書の代謝・内分泌疾患 に目を通しておく。（概ね20分）	小野寺　健
2	女性の体の基礎解剖・性ホルモンなどの理解	教科書P140～148産科・婦人科疾患・妊娠の内容について予習しておくこと。（概ね30分）	菊地　明子
3	老化と加齢変化、精神・神経障害、認知症、脳血管障害、パーキンソン病など	教科書の神経疾患、精神疾患 に目を通しておく。（概ね30分）	小野寺　健
4	妊娠・出産・産褥の理解	教科書P140～148産科・婦人科疾患・妊娠の内容について予習しておくこと。（概ね30分）	菊地　明子
5	アレルギー性皮膚疾患	事前に配布される教科書の「皮膚疾患」の項に目を通してきて下さい。	柿沼　誉
6	皮膚感染症、皮膚腫瘍	事前に配布される教科書の「皮膚疾患」の項に目を通してきて下さい。	柿沼　誉
7	子どもの成長発達の理解		武田 美奈子
8	基本的な聴覚系・前庭系の生理解剖を学ぶ	聴覚器の構造を把握しておく。（概ね20分）	渡邊　弘人
9	子どもの食行動の発達の理解、子どもの健康教育・指導に必要な基礎知識		武田 美奈子
10	聴覚系・前庭系の疾患、治療、対応を学ぶ	自分が耳鼻咽喉科疾患になった時の症状を思い出す。	渡邊　弘人

教科書	『歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック』橋本賢二・増本一真編著、医歯薬出版株式会社 他に適宜プリントを配布する。
参考文献	
備考	レポート課題などが出題された場合は回収後、採点し、次回総括する。2、4～7、9回目は遠隔（オンデマンド）授業を行う。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	

科目ナンバリング
DH-1-DHB-18

科目名	人間関係論				単位認定者	尾形　晶子		評価の方法	試験（筆記）	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	３年	開講時期	前期	単位数	1　単位		エクササイズ	15　%
						授業時間数	20　時間		受講態度	15　%
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	良好な人間関係の構築には互いを理解する必要がある。日常生活や臨床の場において経験する人間関係のプロセスやメカニズムについて社会心理学的視点を通して理解を深める。さらに，臨床の場における患者―治療者関係は信頼が基盤となる。治療的関係と個人的関係を明確に区別できることが大切で，そこに生じる医療倫理について学ぶ。
到達目標	人はどんな時にどのような気持ちになるのか、自分だけの枠で考え行動することが、人とのつながりの上ではどのように影響するかを考え、グループで話し合っていろいろな価値観、考え方を認め自分の心も整理する技術を学びます。他人の話をよく聞き相手は自分に何を求め期待しているのかに気づき、自分の考え、思ったことを言葉にして伝えることの大切さを知ります。
学修者への期待等	一人一人違った考え、個性を持つ人間同士が、良好なつながりを持つことが大切だということの復習。相手を理解すると同時に自分にストレスをためない自己表現法。考えるより実際にやってみる方が身につきますので積極的に行動しましょう。

回	授業計画	準備学修
1	オリエンテーション　ーバーバルとノンバーバル (①感じのよい応対とは？、②重要な挨拶、③相槌で相手を認めよう)	本日渡したプリントをもう一度読み返すこと(概ね30分)次回分のプリント「学生と社会人の違いについて」に記入。
2	社会人とは？ 社会人の倫理と医療に携わる者の倫理 (①職場とは？、②チームワーク)	プリント「コミュニケーションに関する設問」に答えてくること。(概ね30分)
3	ソーシャルスキル、PDCAで考える (①自己概念、②成功、失敗には原因がある)	プリントをあらかじめ渡すので読んでくること。 (概ね30分)
4	私って･･･？　私らしさって･･･？ (①自己開示とフィードバック、②ジョハリの窓)	プリント「エゴグラム」に記入すること。 (概ね30分)
5	自分の取り扱い説明書、相手が思うあなたの長所、短所 (①エゴグラム、②人格と性格、③アイデンティティ)	プリント「敬語」の設問問題に答えてくること。 (概ね30分)
6	コミュニケーションって何？、分かち合う、応える、人を許すとは？ (①「たぶん･･こうだろう」、②事実、伝聞、意見を分ける、③考える／訊く、④必要とされる敬語)	プリントをあらかじめ渡すので読んでくること。 (概ね30分)
7	報・連・相 (①危機管理、②社会的スキル尺度)	プリントをあらかじめ渡すので読んでくること。 (概ね30分)
8	人間関係を阻害するもの　ー壁はどうしてできるのか ①伝聞、②思い込み(第一印象)、③経験	プリント「自己概念」について答えてくること。 (概ね30分)
9	メラビアンの法則 (①パラダイム、②認知実験)	プリント「対話の中で人と人がわかり合える」について答えてくること。(概ね30分)
10	「以心伝心」はあるのか、「人が人を理解する」とは？ (①相手の気持ちを推し量る、②自分の言葉で伝える)	

教科書	プリントと参考資料を使って授業を進めます。内容をよく読み意見をまとめておいてください。
参考文献	
備考	対面接遇の練習、レポートの提出、意見交換への積極性などの評価。レポートを詳細に授業の中で総括する。 2クラスに分かれて授業を行う。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
DH-2-DHC-12

科目名	口腔衛生管理				単位認定者	伊藤　恵美		評価の方法	試験（筆記）	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	３年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	20　%
						授業時間数	20　時間			
				授業形態	演習	授業回数	10　回			

授業の概要	う蝕や歯周疾患の口腔疾病の予防だけではなく，周術期や病院の病棟でのオーラルマネージメントおよびチーム医療の一員として他職種との連携に必要な基礎知識を学び，全身疾患を持つ患者に合わせた口腔衛生管理を実践できる能力を養う。今後は病院だけでなく，診療室または在宅での口腔衛生管理の質を高める必要がある。本科目では，術後の肺炎の予防，手術部位の感染予防，口腔疾患の予防，全身麻酔の挿管時における動揺歯や抜歯すべき歯の発見，抗がん剤治療に伴う口腔衛生管理の知識，緩和ケアにおける口腔衛生管理の技術を修得する。
到達目標	①周術期における口腔管理の目的を理解し、チーム医療の意義と歯科の役割を理解する。 ②がん治療患者の口腔の特徴を理解し、対象者に合わせた口腔衛生管理の手技を修得する。
学修者への期待等	欠席せず、予習・復習をして意欲的に臨んで欲しい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	周術期患者の口腔管理について（概要）	教本　これからはじめる周術期口腔機能管理マニュアル第1章を読んでおくこと。（概ね30分程度）	伊藤　恵美
2	周術期における口腔衛生管理（全身麻酔手術患者）、誤嚥性肺炎の周術期予防	教本　これからはじめる周術期口腔機能管理マニュアル第2章1嚥下スクリーニング～3.誤嚥性肺炎の周術期予防について読んでおくこと。（概ね30分程度）	伊藤　恵美
3	周術期における口腔衛生管理（化学治療患者の口腔の特徴と口腔衛生管理）	教本　これからはじめる周術期口腔機能管理マニュアル第2章4.化学療法における口腔機能管理について読んでおくこと。（概ね30分程度）	伊藤　恵美
4	周術期における口腔衛生管理（頭頚部放射線治療患者の口腔の特徴と口腔衛生管理）	教本　これからはじめる周術期口腔機能管理マニュアル第2章5.放射線治療における口腔機能管理について読んでおくこと。（概ね30分程度）	伊藤　恵美
5	周術期における口腔衛生管理（終末期医療における口腔衛生管理）	教本　これからはじめる周術期口腔機能管理マニュアル第2章6.終末期医療における口腔機能管理について読んでおくこと。（概ね30分程度）	伊藤　恵美
6	周術期における口腔衛生管理の実際（使用機材の検討） クラス別演習　7階演習室	1～4回目までの授業内容をまとめておくこと。（概ね45分程度）	伊藤　恵美
7	周術期における口腔衛生管理の実際（体位、患者姿勢） クラス別演習　7階演習室		伊藤　恵美
8	周術期における口腔衛生管理の実際　クラス別演習　演習室	これまでの授業内容をまとめておくこと。（概ね45分程度）	伊藤　恵美
9	周術期患者の口腔管理について（歯科の役割） グループワーク	病院歯科の役割について調べておくこと。（概ね45分程度）	伊藤　恵美 小野　ゆかり
10	周術期における口腔管理の実際　　グループワーク	これまでの授業内容をまとめておくこと。（概ね45分程度）	伊藤　恵美 小野　ゆかり

教科書	『これからはじめる周術期口腔機能管理マニュアル』別所和久監修、株式会社永末書店
参考文献	『周術期口腔機能管理の基本がわかる本　～基礎知識から口腔管理の実際まで～』梅田正博編著、株式会社シエン社
備考	1～5、9・10回は合同授業、6・7回はクラス別7階演習室、8回は実習室で実施する。 授業の冒頭で目標を示し授業の最後にまとめを行う。実習レポート・課題は提出期限厳守。添削後、返却する。 授業の進捗状況により順番が前後することがある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
大学病院で実務経験のある教員が、周術期における患者の口腔衛生管理の基礎知識と実践的な管理法を指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	●

科目ナンバリング
DH-2-DHP-04

科目名	う蝕予防処置法（臨床応用）				単位認定者	鷲尾 純平　眞柳 みゆき		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	３年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	演習	授業回数	10 回			

授業の概要	「歯科予防処置法」「う蝕予防処置法（臨床基礎）」で学んだ，う蝕予防法の基本的知識・技術をもとに,フッ化物の応用法と小窩裂溝処置法の手技を修得する。また，歯と口腔の健康を維持・増進のために継続的なメイテナンスの必要性を理解し，う蝕予防プログラムの実践の手技を修得する。
到達目標	これまで「う蝕予防処理法(臨床基礎）」にて学んだ基本的な知識を踏まえて、様々なう蝕予防方法について演習を通じて、さらに理解を深めるとともに、その手技を身に着ける。また、個々人に合わせたう蝕予防プログラムの立案までのプロセスを理解し、実践する能力を身に着ける。
学修者への期待等	①実習では身だしなみを整え、意欲的にのぞむこと。 ②提出物は、期日を守って提出すること。

回	授業計画	準備学修	担当
1	【遠隔（オンデマンド）】 小窩裂溝塡塞法とは？（合同講義）	テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。	眞柳みゆき
2	小窩裂溝塡塞法　演習　模型演習（クラス別演習）	前回までの講義をよく復習したうえで、演習に臨むこと。	眞柳みゆき 伊藤　恵美 西條　佳奈
3	フッ化物の応用（高濃度フッ化物塗布の方法・効果、フッ化ジアンミン銀塗布法）	教本「科衛生士のための齲蝕予防処置法」第3章、第4章、第5章を読んで授業に臨むこと。（概ね45分程度）	伊藤　恵美 西條　佳奈
4	小窩裂溝塡塞法及びフッ化物歯面塗布法　相互演習①（クラス別演習）	前回までの講義をよく復習したうえで、演習に臨むこと。（概ね30分程度）	伊藤　恵美 西條　佳奈
5	小窩裂溝塡塞法及びフッ化物歯面塗布法　相互演習②（クラス別演習）	前回の演習を振り返ったうえで、演習に臨むこと。（概ね30分程度）	伊藤　恵美 西條　佳奈
6	小窩裂溝塡塞法及びフッ化物歯面塗布法　相互演習③（クラス別演習）	前回の演習を振り返ったうえで、演習に臨むこと。（概ね30分程度）	伊藤　恵美 西條　佳奈
7	小窩裂溝塡塞法及びフッ化物歯面塗布法　相互演習④（クラス別演習）	前回の演習を振り返ったうえで、演習に臨むこと。（概ね30分程度）	伊藤　恵美 西條　佳奈
8	【遠隔（オンデマンド）】 う蝕予防プログラムの立案（基本）（合同講義）	事前の指示に沿って、予習を行ったうえで、講義に臨むことが望ましい。	鷲尾　純平
9	【遠隔（オンデマンド）】 う蝕予防プログラムの立案（アドバンス）（合同講義）	事前の指示に沿って、予習を行ったうえで、講義に臨むことが望ましい。	鷲尾　純平
10	【遠隔（オンデマンド）】 まとめ・総復習	事前の指示に沿って、予習を行ったうえで、講義に臨むことが望ましい。	鷲尾　純平

教科書	『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生士のための齲蝕予防処置法』中垣晴男ほか著、医歯薬出版株式会社
参考文献	『最新歯科衛生士教本　歯周病学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1　保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
備考	1、8～10回は遠隔（オンデマンド）、2～7回は2クラスに分かれて演習を行う。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	●

科目ナンバリング
DH-2-DHP-05

科目名	歯周病予防法（臨床応用）				単位認定者	伊藤　恵美		評価の方法	試験（筆記）	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	３年	開講時期	通年	単位数	2　単位		受講態度	20　%
						授業時間数	40　時間			
				授業形態	演習	授業回数	20　回			

授業の概要	「歯科予防処置法」「歯周病予防法（臨床基礎）」で学んだ，歯周病予防法の知識・技術をもとに，歯科衛生士としての専門知識・技術を修得し，相互実習を通して実践する力と態度を学ぶ。また，歯と口腔の健康を維持・増進のために継続的なメイテナンスの必要性を理解し，歯周管理の実践の手技を修得する。
到達目標	歯周病予防と歯周管理の基礎知識を理解し、症例に合わせた実践の手技を修得する。
学修者への期待等	1.身だしなみをきちんと整え、教科書等の忘れ物がないように授業に臨むこと。 2.欠席・欠課をしないよう意欲的臨んでほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	歯周治療における歯科衛生士の役割 （歯周治療の流れと歯科衛生士業務） 【オンデマンド授業】	教本　歯周病学P47～54、P136～138「歯周治療の進め方」を読んで授業に臨むこと。（概ね45分程度）	伊藤　恵美
2	メインテナンス、SPTの実際（歯周病検査） 【オンデマンド授業】	教本　歯周病学P191～195｛メインテナンス・SPT」を読んで授業に臨むこと。（概ね30分程度）	伊藤　恵美
3	SRP後の評価と処置（触診による根面の探査・根分岐部病変の検査）　クラス別演習　7階演習室	教本　歯周病学P177「触診による根面の探査」、P144「根分岐部病変の検査」、P38～42「インプラント周囲疾患」を読んでおくこと。（概ね30分程度）	伊藤　恵美 西條　佳奈
4	SRP後の評価と処置（イリゲーション）　クラス別演習	教本　歯周病学P177「イリゲーション」を読んでおくこと。（概ね30分程度）	伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子
5	スケーリング・ルートプレーニング・根面のデブライドメントについて　クラス別演習	教本　歯周病学P159～160「スケーリング・ルートプレーニング」、P80「根面のデブライトメント」を読んで授業に臨むこと。（概ね30分程度）	伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子
6	スケーリング・ルートプレーニング・根面のデブライドメント演習（左側1人目・上下術者交代）　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子
7	スケーリング・ルートプレーニング・根面のデブライドメント演習（左側2人目・上下術者交代）　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子
8	スケーリング・ルートプレーニング・根面のデブライドメント演習（左側3人目・上下術者交代）　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子
9	スケーリング・ルートプレーニング・根面のデブライドメント演習（右側1人目・上下術者交代）　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子
10	スケーリング・ルートプレーニング・根面のデブライドメント演習（右側2人目・上下術者交代）　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子
11	スケーリング・ルートプレーニング・根面のデブライドメント演習（右側3人目・上下術者交代）　クラス別演習		伊藤　恵美 西條　佳奈 宍戸　敦子

回	授業計画	準備学修	担当
12	シャープニング（シックルタイプスケーラー、グレーシータイプキュレット） クラス別 7階演習室	教本 歯周病学P197～200「シャープニング」、教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論P202～208「シャープニング」を読んで実習に臨むこと。（概ね45分程度）	伊藤 恵美 西條 佳奈
13	SRP 相互演習 患者1人目 （左右 術者交代）クラス別 クラス別演習	教本 歯周病学とシラバス8，11、12回の実習記録等で復習をして授業に臨むこと。（概ね45分程度）	伊藤 恵美 西條 佳奈 宍戸 敦子 北村 麻衣
14	SRP 相互演習 患者2人目 （左右 術者交代）クラス別演習	教本 歯周病学とシラバス8，11、12、13回の実習記録等で復習をして授業に臨むこと。（概ね45分程度）	伊藤 恵美 西條 佳奈 宍戸 敦子 北村 麻衣
15	SRP 相互演習 患者3人目 （左右 術者交代）クラス別演習	シラバス8，11、12～14回の教本 歯周病学と実習記録等で復習をして授業に臨むこと。（概ね45分程度）	伊藤 恵美 西條 佳奈 宍戸 敦子 北村 麻衣
16	歯面・根面清掃演習/手用スケーラーの固定法（口腔外固定、保持固定）【オンデマンド授業】	教本 歯周病学P166「手用スケーラーの固定法」を読んで授業に臨むこと。（概ね30分程度）	伊藤 恵美
17	歯面・根面清掃演習/手用スケーラーの固定法（口腔外固定、保持固定） 相互演習 患者1人目（上下術者交代）クラス別演習	シラバス16回の復習をして授業に臨むこと。（概ね30分程度）	伊藤 恵美 西條 佳奈 宍戸 敦子
18	歯面・根面清掃演習/手用スケーラーの固定法（口腔外固定、保持固定） 相互演習 患者2人目（上下術者交代）クラス別演習		伊藤 恵美 西條 佳奈 宍戸 敦子
19	歯面・根面清掃演習/手用スケーラーの固定法（口腔外固定、保持固定） 相互演習 患者3人目（上下術者交代）クラス別演習		伊藤 恵美 西條 佳奈 宍戸 敦子
20	まとめ クラス別演習	シラバス1～19回の教科書と実習記録等で復習をして授業に臨むこと。（概ね45分程度）	伊藤 恵美 西條 佳奈
教科書	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本 歯周病学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
備考	1・2・16回は遠隔（オンデマンド）授業、3～15、17～20回はクラス別で演習を行う。 授業の冒頭で目標を示し授業の最後にまとめを行う。演習レポート・課題は提出期限厳守。添削後、返却する。 授業の進捗状況により順番が前後することがある。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
歯科診療所で勤務経験のある教員が、歯周病予防法の専門的知識と技術を指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	●

科目ナンバリング
DH-2-DHP-09

科目名	保健指導演習Ⅲ（臨床総合）				単位認定者	大宮　由布子		評価の方法	試験（筆記）	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	３年	開講時期	通年	単位数	2　単位		受講態度	10　%
				授業形態	演習	授業時間数	60　時間		授業内課題	10　%
						授業回数	30　回			

授業の概要	「保健指導論」,「保健指導演習Ⅰ(臨床基礎)」,「保健指導演習Ⅱ(臨床応用)」を通して学んだ内容について，歯科衛生過程を用いて，実践する能力を身につける。
到達目標	①各症例または事例における問題発見、解決方法を選択できる能力と口腔健康管理方法の知識、技術、態度を修得する。 ②歯科衛生過程に基づいた情報収集、ケア計画立案を行い、対象者に合わせた介入ができる。 ③計画内容および介入について評価・検討ができる。 ④口腔清掃指導の意義を理解し、継続した歯科衛生介入ができる。
学修者への期待等	欠席せずに意欲を持って臨み、予習・復習をしっかり行い受講して欲しい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	歯科衛生過程の進め方	歯科予防処置・歯科保健指導論教科書Ⅲ編1章P98～118を読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)	大宮　由布子
2	歯科衛生過程の展開　目的・実施方法	歯科予防処置・歯科保健指導論教科書Ⅲ編2章P118～125、P131～169を読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)	大宮　由布子 千葉　藍
3	口腔衛生管理　相互演習①（EPP、歯垢染色、TBI、PTC）	Ⅲ編　2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理P156～P160 ⑧分析のためのデータを読み授業に臨んでください。(概ね30分程度)	大宮　由布子 千葉　藍
4	口腔衛生管理　相互演習②（EPP、歯垢染色、TBI、PTC）		大宮　由布子 千葉　藍
5	1・3年生合同演習① 歯科衛生過程演習Ⅰ(口腔内写真撮影、歯周ポケット測定、歯垢染色、TBI、PMTC)※PCR、OHI、OHI-S、PℓI、PHP)	前時授業内容を復習し、授業に臨んでください。 (概ね30分程度)	大宮　由布子 伊藤　恵美 花渕　静 武山　真奈美 長南　真弓 西條　佳奈
6	1・3年生合同演習② 歯科衛生過程演習Ⅰ(口腔内写真撮影、歯周ポケット測定、歯垢染色、TBI、PMTC)※PCR、OHI、OHI-S、PℓI、PHP)		
7	1・3年生合同演習③ 歯科衛生過程演習Ⅰ(口腔内写真撮影、歯周ポケット測定、歯垢染色、TBI、PMTC)※PCR、OHI、OHI-S、PℓI、PHP)		
8	歯科衛生過程演習Ⅰ（実施内容のまとめ）	対象者の口腔清掃に関する問題点と改善点を考察し、その結果を実習記録にまとめてください。 (概ね30分程度)	大宮　由布子
9	口腔衛生管理　歯磨剤の薬効成分　①う蝕予防　　※ライオン	歯科予防処置・歯科保健指導論教科書P264～P269を読んで授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子
10	口腔衛生管理　歯磨剤の薬効成分　②歯周病予防　※ライオン		大宮　由布子
11	口腔衛生管理　口腔清掃補助用具について （粘膜ブラシ、スポンジブラシ、舌ブラシ、義歯用ブラシ、口腔ケア用具）	歯科予防処置・歯科保健指導論教科書P278～P282を読んで授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子 千葉　藍
12	口腔衛生管理　口腔清掃補助用具検討演習 （粘膜ブラシ、スポンジブラシ、舌ブラシ、義歯用ブラシ、口腔ケア用具）		
13	口腔健康管理　口腔機能管理に関わる指導	歯科予防処置・歯科保健指導論教科書P285～P289を読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)	大宮　由布子
14	訪問口腔衛生指導　相互演習① 1人目、２人目（中央本館　介護実習室にて演習）	高齢者教科書Ⅳ編　３章　要介護高齢者への口腔ケアＰ１３８～１５１を復習して授業に臨んで下さい。（概ね30分程度）	大宮　由布子 千葉　藍 宍戸 敦子
15	訪問口腔衛生指導　相互演習② ３人目、４人目（中央本館　介護実習室にて演習）		大宮　由布子 千葉　藍 宍戸 敦子

回	授業計画	準備学修	担当
16	口腔健康管理　生活習慣の指導　①非感染性疾患	歯科予防処置・歯科保健指導論教科書P289～P293を読んで授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子
17	口腔健康管理　生活習慣の指導　②喫煙者に対する指導	歯科予防処置・歯科保健指導論教科書P293～P301を読んで授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子
18	口腔健康管理　　相互実習③（EPP、歯垢染色、TBI、PMTC）	Ⅲ編　2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理P156～P160 ⑧分析のためのデータを読み授業に臨んでください。(概ね30分程度)	大宮　由布子 千葉　藍
19	口腔健康管理　　相互実習④（EPP、歯垢染色、TBI、PMTC）		大宮　由布子 千葉　藍
20	1･3年生合同演習① 歯科衛生過程演習Ⅱ(口腔内写真撮影、歯周ポケット測定、歯垢染色、TBI、PMTC)	シラバス8回目でまとめた内容および検討した実施計画を確認して授業に臨んで下さい。 （概ね40分程度）	大宮　由布子 伊藤　恵美 花渕　静 武山　真奈美 長南　真弓 西條　佳奈
21	1･3年生合同演習② 歯科衛生過程演習Ⅱ(口腔内写真撮影、歯周ポケット測定、歯垢染色、TBI、PMTC)		
22	1･3年生合同演習③ 歯科衛生過程演習Ⅱ(口腔内写真撮影、歯周ポケット測定、歯垢染色、TBI、PMTC)		
23	歯科衛生過程演習Ⅱ （実施内容のまとめ）	対象者の口腔清掃に関する問題点と改善点を考察し、その結果を実習記録等にまとめてください。(概ね30分程度)	大宮　由布子 伊藤　明日香
24	１・３年生合同演習 歯科衛生過程演習　報告①	演習Ⅰ、Ⅱで実施内容をまとめ報告できるように準備をして授業に臨んでください。 （概ね40分程度）	大宮　由布子 伊藤　恵美 花渕　静 武山　真奈美 長南　真弓 西條　佳奈
25	１・３年生合同演習 歯科衛生過程演習　報告②		
26	地域歯科保健活動　事業所、保健所、市町村保健センター	歯科予防処置・歯科保健指導論教科書P406～P412を読んで授業に臨んでください。（概ね30分程度）	大宮　由布子
27	地域歯科保健活動　災害時の歯科保健　大規模災害時の保健医療対策	保健生態学教科書Ｐ２３０～２３１ Ⅲ編１章　４　健康危機管理 Ｐ３１７～３２４　8章　災害時の歯科保健を読んで授業に臨んで下さい。（概ね40分程度）	大宮　由布子 阿部　夕 千葉　藍
28	地域保健活動　災害時の歯科保健　グループワーク		大宮　由布子 阿部　夕 千葉　藍
29	地域保健活動　集団指導　プレゼンテーション①	各自、プレゼンテーション内容について準備をしてきて下さい。(概ね60分程度)	大宮　由布子 千葉　藍
30	地域保健活動　集団指導　プレゼンテーション②		大宮　由布子 千葉　藍
教科書	『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　咀嚼障害・咬合異常２　歯科矯正』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　高齢者歯科』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　障害者歯科』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献	『最新歯科衛生士教本　口腔保健管理』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯周疾患　歯周治療』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『健康寿命の延伸をめざした 口腔機能への気づきと支援 ライフステージごとの機能を守り育てる』(公財)ライオン歯科衛生研究所編、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生ケアプロセス実践ガイド』佐藤陽子・齋藤淳編著、医歯薬出版株式会社 『よくわかる歯科衛生過程』全国歯科衛生士教育協議会ほか編、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生士のための禁煙支援ガイドブック』尾﨑哲則・埴岡隆編著、医歯薬出版株式会社		
備考	シラバス1,2,8～10,13,16,17,23～30は教室にて合同講義および演習。3.4.5～7,11,12,14,15,18～22はクラス別実習室にて演習。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
歯科診療所で勤務実績のある教員が、各症例に対して具体的な口腔衛生管理および口腔機能管理について実践的技術を指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
DH-2-DHP-11

科目名	口腔リハビリテーション演習				単位認定者	江畑　綾		評価の方法	試験（筆記）	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	３年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	20　時間			
				授業形態	演習	授業回数	10　回			

授業の概要	摂食・嚥下のしくみとそれにかかわる障害についての歯科衛生士としての役割を理解する。口腔の問題・障害を克服する口腔リハビリテーションについて障害別に学び、ディスカッションを交えてプログラムを立案する。さらに相互実習を通じて技術の習得に努める。
到達目標	口腔リハビリテーションチームの中での歯科衛生士の役割を理解する。
学修者への期待等	口腔リハビリテーションは、患者様の健康とQOLに密接に関わる領域であり、チームの一員として患者様の食に関わります。真摯な態度で学んでいただくことを希望します。

回	授業計画	準備学修	担当
1	成人期の摂食嚥下障害（脳血管障害）	教科書の1章　摂食・嚥下のメカニズムを読んでおくこと（30分程度）	江畑　綾
2	成人期の摂食嚥下障害（神経・筋疾患、口腔がん関連）	前回の授業を復習しておくこと（30分程度）	江畑　綾
3	老年期の摂食嚥下障害（加齢、認知症）	教科書の2章　スクリーニングテストを読んでおくこと（30分程度）	江畑　綾
4	急性期・回復期の摂食・嚥下リハビリテーション「歯科衛生士の役割」	前回までの授業内容を復習しておくこと。（30分程度）	児玉　俊恵
5	摂食嚥下機能の評価（情報収集、口腔運動感覚機能評価など）	教科書の2章　摂食嚥下障害の観察と評価を読んでおくこと（30分程度）	江畑　綾
6	口腔・嚥下機能の評価：スクリーニング検査（講義・演習）	教科書の2章　摂食嚥下障害の観察と評価を読んでおくこと（30分程度）	江畑　綾
7	特別養護老人ホームにおける口腔リハビリテーション	前回までの授業内容を復習しておくこと。（30分程度）	小川美由紀
8	摂食嚥下障害の検査・診断（嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査）（グループワーク）	教科書の2章　嚥下造影と嚥下内視鏡検査を読んでおくこと（30分程度）	江畑　綾
9	治療的アプローチ：間接的訓練と直接的訓練（講義・演習）	教科書第3章　間接訓練、直接訓練を読んでおくこと（30分程度）	江畑　綾
10	食形態の調整と環境調整：トロミ剤の使用について等（講義・演習・グループワーク）	前回の授業を復習しておくこと（30分程度）	江畑　綾

教科書	『動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション』藤島一郎著、中山書店
参考文献	『口から食べる-嚥下障害Q＆A』藤島一郎著、中央法規出版株式会社
備考	4、7回目は遠隔（オンデマンド）で実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
DH-2-DHP-15

科目名	歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）				単位認定者	花渕　静　武山　真奈美 長南　真弓　西條　佳奈		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	３年	開講時期	通年	単位数	2　単位		受講態度	20 %
						授業時間数	40　時間			
				授業形態	演習	授業回数	20　回			

授業の概要	歯科衛生士が歯科臨床現場で求められる個々の知識や技能を高めるため，小児から高齢者までの各年齢での設定，患者の全身疾患の種類の設定，さらには臨床歯科医学に相当するさまざまな歯科治療の設定をした模擬患者症例に対して，その患者中心とした歯科診療の展開を具体的にマネジメントできる応用力を身につける。
到達目標	・臨床の場に対応できる基本技術から応用技術までを修得する。 ・各治療内容における必要器材セッティングの基礎的知識及び技術を学ぶ。
学修者への期待等	欠席せずに意欲を持って臨み、予習・復習をしっかりと行ってほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	接着性レジンセメントの基礎知識／基礎演習	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編5章③-合着・接着の補助、『歯科材料』Ⅱ編第4章③-接着性レジンセメントの種類と用途を読み授業に臨むこと。（概ね40分程度）	武山　真奈美 長南　真弓
2	MMA系レジンセメントによる暫間固定マネキン演習／各種歯周パック材料の取り扱い演習	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編5章-③合着・接着の補助、『歯科材料』Ⅱ編第4章③-接着性レジンセメントの種類と用途、『歯周病学第2版』Ⅲ編1章⑤-3.歯周パックの取扱いを読み授業に臨むこと。また、シラバス第1回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	武山　真奈美 長南　真弓
3	歯科矯正治療時の診療補助について 基礎知識（使用器材の名称と用途）	『歯科矯正』Ⅰ編6章矯正装置の内容を読み授業に臨むこと。（概ね60分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍
4	歯科矯正治療時の診療補助について 器材の取り扱い演習（ブラケット装着方法）	『歯科矯正』Ⅲ編2章矯正歯科診療時の業務の内容を読み授業に臨むこと。また、シラバス第3回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍
5	歯科矯正治療時の診療補助について 器材の取り扱い演習（ブラケット撤去方法）	『歯科矯正』Ⅰ編6章矯正装置、Ⅲ編2章矯正歯科診療時の業務の内容を読み授業に臨むこと。また、シラバス第3、4回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍
6	暫間被覆物（印象法）作製演習 ／口腔内写真撮影　相互演習（1）	2グループ交代で実習するため、該当実習前に各自『歯科材料』Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメント、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章⑤-2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』Ⅲ編第2章⑧-2.写真・画像を読み授業に臨むこと。（概ね30分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍 北村　麻衣
7	暫間被覆物（印象法）作製演習 ／口腔内写真撮影　相互演習（2）	2グループ交代で実習するため、該当実習前に各自『歯科材料』Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメント、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第3章⑤-2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』Ⅲ編第2章⑧-2.写真・画像を読み授業に臨むこと。（概ね30分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍 北村　麻衣
8	口腔外科・小手術における器材の取り扱い ／無菌操作・滅菌ガウンの着脱演習（1）	『顎・口腔粘膜疾患　口腔外科・歯科麻酔』Ⅲ編第2章⑬-縫合処置時の業務を読み授業に臨むこと。（概ね30分程度）	花渕　静 長南　真弓
9	口腔外科・小手術における器材の取り扱い ／無菌操作・滅菌ガウンの着脱演習（2）	『顎・口腔粘膜疾患　口腔外科・歯科麻酔』Ⅲ編第2章⑬-縫合処置時の業務を読み授業に臨むこと。また、シラバス第8回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね30分程度）	花渕　静 長南　真弓
10	訪問歯科診療時の診療補助について　基礎知識	『歯科診療補助論第2版』Ⅱ編3章歯科訪問診療における対応を読み授業に臨むこと。（概ね60分程度）	長南　真弓 武山　真奈美

回	授業計画	準備学修	担当
11	訪問歯科診療時の診療補助について　症例検討	『歯科診療補助論第2版』Ⅱ編3章歯科訪問診療における対応を読み授業に臨むこと。また、シラバス第10回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね40分程度）	長南　真弓 武山　真奈美
12	アルジネート印象材による概形印象採得 ／個人トレー作製のための予備模型作製演習（1） （演習手順説明／術者1人目）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編5章-②模型の作製、『歯科材料』第3章模型用材料、『咀嚼障害・咬合異常1　歯科補綴』第6章-補綴歯科治療における歯科技工を読み授業に臨むこと。（概ね30分程度）	花渕　静 長南　真弓 千葉　藍
13	アルジネート印象材による概形印象採得 ／個人トレー作製のための予備模型作製演習（2） （術者2人目、術者3人目）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編5章-②模型の作製、『歯科材料』第3章模型用材料、『咀嚼障害・咬合異常1　歯科補綴』第6章-補綴歯科治療における歯科技工を読み授業に臨むこと。シラバス第12回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね30分程度）	花渕　静 長南　真弓 千葉　藍
14	個人トレー作製演習	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編5章-②模型の作製、『歯科材料』第3章模型用材料、『咀嚼障害・咬合異常1　歯科補綴』第6章-補綴歯科治療における歯科技工を読み授業に臨むこと。シラバス第12回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね30分程度）	花渕　静 長南　真弓 千葉　藍
15	シリコーンゴム印象材による各種精密印象採得 相互演習（1）／（演習手順説明／術者1人目）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編5章①-4.合成ゴム質印象の補助を読み授業に臨むこと。（概ね30分程度）	花渕　静 長南　真弓 千葉　藍
16	シリコーンゴム印象材による各種精密印象採得 相互演習（2）／（術者2人目、術者3人目／演習まとめ）	『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編5章①-4.合成ゴム質印象の補助を読み授業に臨むこと。シラバス第15回の実習記録を確認しておくこと。（概ね30分程度）	花渕　静 長南　真弓 千葉　藍
17	歯間分離法および成形歯冠修復材　マネキン演習	『歯の硬組織・歯髄疾患　保存修復・歯内療法』Ⅱ編4章②-3.保存修復時の補助手技、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編4章①-2.保存修復時の例と診療補助の流れ読み授業に臨むこと。（概ね40分程度）	花渕　静 長南　真弓
18	寒天・アルジネート連合印象採得（ブリッジ印象） ／口腔内写真撮影（12枚法）相互演習（1） ／（演習手順説明／術者1人目）	3グループ交代で実習するため、該当実習前に各自『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-3.寒天印象採得の補助、Ⅰ編第3章⑤-2.口腔内写真撮影を読み授業に臨むこと。（概ね30分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍 北村　麻衣
19	寒天・アルジネート連合印象採得（ブリッジ印象） ／口腔内写真撮影（12枚法）相互演習（2） ／（術者2人目）	3グループ交代で実習するため、該当実習前に各自『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-3.寒天印象採得の補助、Ⅰ編第3章⑤-2.口腔内写真撮影を読み授業に臨むこと。また、シラバス第18回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね30分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍 北村　麻衣
20	寒天・アルジネート連合印象採得（ブリッジ印象） ／口腔内写真撮影（12枚法）相互演習（3） ／（術者3人目／演習まとめ）	3グループ交代で実習するため、該当実習前に各自『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第5章①-3.寒天印象採得の補助、Ⅰ編第3章⑤-2.口腔内写真撮影を読み授業に臨むこと。また、シラバス第18回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（概ね30分程度）	武山　真奈美 長南　真弓 千葉　藍 北村　麻衣
教科書	『最新歯科衛生士教本　歯科診療補助論第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯科材料』全国歯科衛生士教育協議監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯科機器』全国歯科衛生士教育協議監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論　第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　顎・口腔粘膜疾患　口腔外科・歯科麻酔』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　咀嚼障害・咬合異常1　歯科補綴第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯の硬組織・歯髄疾患　保存修復・歯内療法』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯周病学第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　小児歯科』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献	授業の中で適宜紹介する。		
備考	10、11回は合同講義、6～9、12～20回は歯科実習室、1～5回は新演習室にてクラス別に講義・演習を行う。 6、7回、12、13回、15、16回、18、19回は連続で演習を行う。 なお、授業の進捗状況により順番が前後することがある。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
歯科診療所で勤務経験のある教員が、器材の安全な取り扱いと診療に応じた患者対応について指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
DH-2-DHP-18

科目名	救急法・救急蘇生法				単位認定者	下田　元 菅原　一昭		評価の方法	試験（筆記）	90　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	10　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	救急処置と蘇生法の基礎を学び、歯科医療スタッフの一員として現場で応用できるようになることを目的とする。
到達目標	歯科の臨床現場で、緊急時、正しい救急処置と心肺蘇生法を行うことができるようにする。
学修者への期待等	教科書などで関連内容を熟読し復習してください。歯科口腔外科臨床で患者さんの安心、安全な全身管理を行うための重要な科目　です。身近な人が突然倒れたときに、救急救命の知識があれば命を救うことができます。無知であれば、救急車が到着するまでなすすべがなく救うことができません。後で後悔しない為にも、救急救命法を学んで頂きたい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	バイタルサインの評価、心肺蘇生法(BLS)の知識・手技の修得	教科書、講義資料などで関連内容を予習し授業に臨んでください。(概ね1時間程度)	下田　元
2	ガイダンス(評価方法、受講するにあたっての心構え)応急手当の重要性。(目的・必要性・救命処置・心肺蘇生)	授業終了後、プリント回収。(チェックのため)	菅原一昭
3	応急手当の重要性、救命の処置(心肺蘇生・AEDについて)	授業終了後、プリント回収。(チェックのため)	菅原一昭
4	歯科口腔外科診療時の局所的・全身的偶発症、その症状、重症度評価、救急初期対処法、全身管理の修得	教科書、講義資料などで関連内容を予習、復習し授業に臨んでください。(概ね1時間程度)	下田　元
5	特殊な傷病とその応急手当(歯の損傷・溺水・熱中症・感電　アキレス腱断裂・RICE処置)	授業終了後、プリント回収。(チェックのため)	菅原一昭
6	全身的基礎疾患を有する歯科口腔外科患者の病態評価、全身管理、、発症時の緊急処置、救急対処法の修得	教科書、講義資料などで関連内容を予習、復習し授業に臨んでください。(概ね1時間程度)	下田　元
7	局所麻酔法、全身麻酔法、精神鎮静法、および、周術期患者管理、周術期合併症と緊急処置、救急対処法の修得	教科書、講義資料などで関連内容を予習、復習し授業に臨んでください。(概ね1時間程度)	下田　元
8	特殊な傷病とその応急手当(毒ヘビ・毒物・凍傷・意識障害　頭痛)	授業終了後、プリント回収。(チェックのため)	菅原一昭
9	特殊な傷病とその応急手当(やけど・オスグット病・テニス肘　ジャンパーズニー・頸椎損傷、気道異物除去	【事後】本時内容の復習(概ね1時間程度)をし、次回に備える。	菅原一昭
10	インシデント・アクシデント報告、医療事故と法的責任、患者の全身管理で歯科衛生士に期待される役割についての理解	教科書、講義資料などで関連内容を予習、復習し授業に臨んでください。(概ね1時間程度)	下田　元
11	止血法、体位管理、救急医療	【事後】本時内容の復習(概ね1時間程度)をし、次回に備える。	菅原一昭
12	心肺蘇生法(成人)実技	【事後】本時内容の復習(概ね1時間程度)をし、次回に備える。	菅原一昭
13	心肺蘇生法の実技(成人・小児)実技	【事後】本時内容の復習(概ね1時間程度)をし、次回に備える。	菅原一昭
14	心肺蘇生法の実技(成人)実技、AED、止血法	【事前】実技効果確認に備えて、理解してくる(概ね1時間程度)。	菅原一昭
15	実技効果確認、総括	【事前】実技効果確認に備えて、理解してくる(概ね1時間程度)。	菅原一昭

教科書	『最新歯科衛生士教本　顎・口腔粘膜疾患　口腔外科・歯科麻酔』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 菅原担当分はテキストは特に指定せず、随時プリントをこちらで準備する。
参考文献	特に指定しない
備考	下田：講義は全て遠隔(オンデマンド)で実施する。講義ごとにその講義内容に関する資料を配布します。知識の整理、復習、応用に繋げる習慣を身に付けてください。 菅原：◎実技時、服装は白衣。ナースシューズ。髪は後ろで結ぶ。必要に応じ授業内容に関連する資料を配布します。(菅原担当分はクラス別で授業を実施する)◎授業で理解できなかったこと等の質問に関しては本館2階職員室(菅原)で対応する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
DH-2-DHP-21

科目名	審美歯科演習					単位認定者	花渕　静		評価の方法	試験（筆記）	90　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位			受講態度	10　%
						授業時間数	20　時間				
				授業形態	演習	授業回数	10　回				

授業の概要	顎口腔系における形態美，色彩美，機能美の調和など審美歯科学の概要を学び，審美歯科治療における歯科衛生士の関わり方を理解する。また，現在多くの歯科医院で行われているホワイトニングについての基本的な知識を学び，各メーカー別のホワイトニング材の効果や安全性について実習を通して理解する。
到達目標	歯科診療補助におちて歯科衛生士が行うホワイトニングの知識およびそれらに使用する歯科材料の理解と共に、操作技術を修得する。
学修者への期待等	1. 欠席・欠課をしないよう意欲を持って授業に臨んで欲しい 2. 身だしなみをきちんと行い、忘れものをないようにしてほしい。

回	授業計画	準備学修
1	**遠隔【オンデマンド】** 審美歯科学総論	
2	**遠隔【オンデマンド】** 審美歯科治療における歯科衛生士の役割	シラバス1回目の授業配布資料を読み授業に臨むこと。（概ね20分程度）
3	ホームホワイトニングカスタムトレー作製実習（1）（実習手順説明／術者1人目）	シラバス2回目で配信した事前準備を閲覧してから授業に臨むこと。（概ね20分程度）
4	ホームホワイトニングカスタムトレー作製実習（2）（術者2人目／3人目／実習まとめ）	シラバス2回目で配信した事前準備を閲覧してから授業に臨むこと。（概ね20分程度）
5	オフィスホワイトニング（松風ハイライト）マネキン実習	
6	オフィスホワイトニング（ティオンオフィス）相互実習（1）（実習手順説明／術者1人目）	
7	オフィスホワイトニング（ティオンオフィス）相互実習（2）（術者2人目／3人目／実習まとめ）	シラバス6回目の授業配布資料を読み授業に臨むこと。（概ね20分程度）
8	オフィスホワイトニング（オパールエッセンスBOOST）相互実習（1）（実習手順説明／術者1人目）	
9	オフィスホワイトニング（オパールエッセンスBOOST）相互実習（2）（術者2人目／3人目／実習まとめ）	シラバス8回目の授業配布資料を読み授業に臨むこと。（概ね20分程度）
10	**遠隔【オンデマンド】** 審美歯科治療における症例別検討および審美歯科の考え方について	

教科書	プリント配布
参考文献	『新版　歯科衛生士のためのホワイトニング』近藤隆一編著、加藤久子著：医歯薬出版株式会社 『歯科衛生士　ベーシックスタンダード　審美歯科』 末瀬一彦、土屋和子、南　昌宏、宮崎　真至　編著：医歯薬出版株式会社
備考	シラバス1・2・10回目は遠隔【オンデマンド】による講義、その他のシラバス回は、歯科実習室にてクラス別、講義・演習。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
歯科診療所で勤務経験のある教員が、審美歯科の概要と歯科衛生士が行うホワイトニングの知識、使用する歯科材料および操作技術を指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
DH-2-CLT-03

科目名	臨地実習Ⅲ（臨床総合）				単位認定者	小野寺　健　伊藤恵美 大宮由布子　花渕　静 武山真奈美　長南真弓 西條　佳奈		評価の方法	実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	３年	開講時期	通年	単位数	8　単位			
						授業時間数	360　時間			
				授業形態	実習	授業回数	集中			

授業の概要	本科目では，各医療機関での臨床実習，及び，教育機関，福祉施設での臨地実習を行う。1年次及び2年次で修得した学習内容をもとに，医療機関，教育機関，福祉施設での実習において自己を客観的に評価し，自らを向上させることのできる能力を身につける。さらに，福祉施設実習では，公衆衛生活動における福祉施設の役割を理解するとともに，利用者の口腔ケアの重要性を理解し，援助できる技術を修得する。これらを通して口腔衛生の専門職として，歯科衛生士に求められる責任感，誠実性，積極性，協調性，判断力を培い，実践能力を養う。
学修者への期待等	1）各施設における歯科衛生士の業務を実践することで歯科衛生士の役割を理解してください。 2）修得した学修内容を応用し、実践的な知識、技術などを身につけてください。 3）自己を客観的に評価し、自らを向上させることのできる能力を身につけてください。

授業計画

1. 実習期間:

1）歯科診療所・病院・矯正歯科医院臨床実習:5～10月

2）障害者歯科・訪問歯科診療所:5～10月

3）介護老人保健施設・特別養護老人ホーム:5～10月

4）小学校実習（3年生・1年生の合同実習）:1日間

2. 実習の目的

1）歯科医院・病院・矯正歯科医院

（1）歯科医院

・歯科医院における歯科衛生士の役割について理解する。

・歯科診療において各症例別の診療の流れを把握し、歯科診療補助の実践力を身につける。

・歯科衛生士が行うメインテナンス管理について、臨床現場においてさらに理解を深め、自らも実践できる。

・3年間学んだ知識および技術を臨床現場で確認し、自己の客観的評価と自らを向上させることのできる能力を身につける。

（2）病院

・病院歯科における歯科衛生士の役割と業務について理解する。

・全身疾患をもつ患者様に対しての健康状態の把握や基礎疾患の理解とともに歯科診療補助の実践力を身につける。

・口腔外科手術の術前・術中・術後の患者管理および各症例の診療補助の手技を習得する。

・臨床現場において自己の知識や技術を客観的に評価し、自らを向上させることができる。

（3）矯正歯科医院

・各症例において矯正歯科治療の目的および治療の流れについて知る。

・矯正歯科治療時に使用される矯正歯科器材の名称、用途について知る。

・矯正歯科患者への具体的な口腔保健管理の方法について知る。

・矯正治療中の患者に対しての具体的なアプローチ方法について知る。

授業計画
2)障害者歯科・訪問歯科診療所 (1)障害者・在宅患者の口腔機能の向上と、QOLの向上に必要な口腔ケアの技能を習得するために、本人および介助者への対応と援助の能力を養う。 3)介護老人保健施設・特別養護老人ホーム (1)要介護高齢者の精神的・身体的特徴および、口腔機能・口腔内の特徴を理解したうえでの歯科衛生士の取り組み方と具体的な口腔機能評価、手技、対応を学ぶ。 4)小学校実習 (1)児童への口腔衛生活動を円滑に展開するために、心身の発達や学習段階、日常生活行動などを理解し、その対応法を学ぶ。 (2)児童と円滑なコミュニケーションを取る能力を養う。 3. 実習計画 1)歯科医院・病院臨床実習 実習項目) ・臨地実習Ⅰ、Ⅱで学んだ内容をもとに実践的な知識・技術の修得 2)障害者歯科・訪問歯科診療所 実習項目) ・障害者・在宅患者の要介護度と全身状態の理解 ・障害者・在宅患者の口腔内と口腔ケア内容の理解 ・専門的口腔ケアの見学及び介助 3)介護老人保健施設・特別養護老人ホーム 実習項目) ・施設利用者の要介護度と全身状態の理解 ・施設利用者の口腔内と口腔ケア内容の理解 ・専門的口腔ケアの見学及び介助 4)小学校実習 実習項目) ・学年に合わせた歯科保健指導案の作製 ・児童に対する口腔衛生集団指導の実施 ・3年生による下級生へのアクティブラーニングの実施

教科書	1～3年次で、専門展開科目で使用する各教科書
参考文献	特になし
備考	実習終了後に、実習報告会を実施する。この報告会で実習の振り返りを行い、実習評価について総括する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
DH-2-CLT-12

科目名	臨地実習指導（臨床総合）				単位認定者	伊藤 恵美　大宮 由布子 花渕 静　武山 真奈美 長南 真弓　西條 佳奈		評価の方法	レポート	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1　単位		受講態度	20　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	臨地実習Ⅲ（臨床総合）の事前・事後指導を行う。事前指導では臨地実習Ⅱ（臨床応用）を踏まえ，社会人となる上で必要となる実践力，研究力の育成を目指す。事後指導では実習の反省を踏まえ，自己の課題を見出しながら，必要となる事柄の修得のための学びを深める。
到達目標	臨地実習の目的および各実習施設の特徴や対象者を理解し、それぞれに応じた行動、技術の実践ができる。また、事前課題や実習の反省を踏まえ自己の課題を見出し解決できる能力を身につける。
学修者への期待等	集団指導においては、各実習施設や対象者を理解し、それぞれに合わせた指導内容の計画と実践ができること。臨床においては、様々な患者様への対応とスタッフとの連携がとれるコミュニケーション能力を身につけること。実習メンバーとのコミュニケーションを円滑にし、事前課題および準備や計画を怠らず、真面目に取り組むこと。

回	授業計画	準備学修
1	3年生臨地実習Ⅰの目的および概要② （歯科医院、病院、高齢者施設、障害者施設矯正歯科）グループワーク	各自の実習施設について、施設の特色を調べてきてください。（概ね60分）
2	3年生臨地実習Ⅰの目的および概要③ （歯科医院、病院、高齢者施設、障害者施設矯正歯科）グループワーク	
3	3年生臨地実習Ⅰ報告会①	グループ発表の準備をしてきてください。 （概ね60分）
4	3年生臨地実習Ⅰ報告会②	
5	3年生臨地実習Ⅱの目的および概要① （歯科医院、病院、高齢者施設、障害者施設矯正歯科）グループワーク	各自の実習施設について、施設の特色を調べてきてください。（概ね60分）
6	3年生臨地実習Ⅱの目的および概要② （歯科医院、病院、高齢者施設、障害者施設矯正歯科）グループワーク	
7	3年生臨地実習Ⅱ報告会①	グループ発表の準備をしてきてください。 （概ね60分）
8	3年生臨地実習Ⅱ報告会②	
9	3年生臨地実習Ⅱの目的および概要 （歯科医院、病院、高齢者施設、障害者施設矯正歯科）グループワーク	各自の実習施設について、施設の特色を調べてきてください。（概ね60分）
10	3年生臨地実習Ⅱ報告会①	グループ発表の準備をしてきてください。 （概ね60分）
11	3年生臨地実習Ⅱ報告会②	
12	上杉山通小学校　集団保健指導実習の目的および概要	『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論』Ⅳ編１章P265表Ⅳ－1－9、P266表Ⅳ－1－10を読んで授業に臨んでください。（概ね30分）
13	上杉山通小学校　集団保健指導演習（グループワーク）	『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論』Ⅳ編１章P265表Ⅳ－1－9、P266表Ⅳ－1－10を読んで授業に臨んでください。（概ね30分）
14	上杉山通小学校　集団保健指導演習（グループワーク）	『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論』Ⅳ編１章P265表Ⅳ－1－9、P266表Ⅳ－1－10を読んで授業に臨んでください。（概ね30分）
15	上杉山通小学校　集団保健指導実習報告会	グループ発表の準備をしてください。 （概ね60分）

教科書	『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯科診療補助論　第２版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　高齢者歯科　第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　障害者歯科（第2版）』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	
備考	授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
DH-2-RDH-01

科目名	歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）			単位認定者	小野寺 健		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間		
				授業形態	講義	授業回数	15 回		

授業の概要	歯科衛生の実践場面で遭遇する問題を自ら解決していくため，3年間で学んだ知識と技術を整理する。歯科衛生士として必要な総合的能力を修得することを目的とする。また，本教科では，臨床歯科につながる基礎的な知識と技術の整理も行う。
到達目標	3年間で学んだ知識の総まとめを行う。
学修者への期待等	教科書などによる予習・復習を行い、授業内容を十分に理解することを望む。

回	授業計画	準備学修	担当
1	地域福祉保健（地域保健）1（総論のまとめ）	質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。（概ね1時間程度の事前学修）	石河 理紗
2	地域福祉保健（地域保健）2（各論のまとめ）		石河 理紗
3	歯科放射線学1（総論のまとめ）	質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。（概ね1時間程度の事前学修）	飯久保正弘
4	歯科放射線学2（各論のまとめ）		飯久保正弘
5	栄養学1（総論のまとめ）	質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。（概ね1時間程度の事前学修）	岩間 正典
6	病理学（まとめ）	質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。（概ね1時間程度の事前学修）	小野寺 健
7	う蝕予防法1（総論のまとめ）	質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。（概ね1時間程度の事前学修）	鷲尾 純平
8	栄養学2（各論のまとめ）		岩間 正典
9	薬理学1（総論のまとめ）	質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。（概ね1時間程度の事前学修）	北村 麻衣
10	う蝕予防法2（各論のまとめ）		鷲尾 純平
11	薬理学2（各論のまとめ）		北村 麻衣
12	社会福祉論1（総論のまとめ）	質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。（概ね1時間程度の事前学修）	野口 美雪
13	口腔リハビリテーション1（総論のまとめ）	質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。（概ね1時間程度の事前学修）	江畑 綾
14	社会福祉論2（各論のまとめ）		野口 美雪
15	口腔リハビリテーション2（各論のまとめ）		江畑 綾

教科書	『ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策① 第5版 人体の構造と機能／歯・口腔の構造と機能／疾病の成り立ち及び回復過程の促進』歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策② 第5版 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み』歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策③ 第5版 歯科衛生士概論／臨床歯科医学1（臨床歯科総論／歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療／歯の欠損と治療）』歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策④ 第5版 臨床歯科医学2（顎・口腔領域の疾患と治療／不正咬合と治療／小児・高齢者・障害児者の理解と歯科治療）』歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策⑤ 第5版 歯科予防処置論／歯科保健指導論／歯科診療補助論』歯科衛生士国家試験対策検討会 編
参考文献	適宜プリントを配布する。
備考	1～5、7～12、14回目は遠隔（オンデマンド）で授業を実施する、授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
DH-2-RDH-02

科目名	歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）				単位認定者	小野寺　健		評価の方法	試験（筆記）	70 ％
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	30 ％
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	歯科衛生の実践場面で遭遇する問題を自ら解決していくため，3年間で学んだ知識と技術を整理する。「歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）」で整理した，臨床歯科にかかわる基礎的な知識と技術を踏まえて，最新の臨床情報についても学習し，口腔衛生の専門職として活躍できる準備を整える。
到達目標	3年間で学んだ知識と技術の総まとめを行い、歯科衛生士として必要な総合的能力を修得する。
学修者への期待等	教科書などによる予習・復習を行い、授業内容を十分に理解することを望む。

回	授業計画	準備学修	担当
1	高齢者口腔保健学1（総論のまとめ）	質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。（概ね1時間程度の事前学修）	猪狩　洋平
2	高齢者口腔保健学2（各論のまとめ）		猪狩　洋平
3	保存歯科学1（総論のまとめ）	質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。（概ね1時間程度の事前学修）	八幡　祥生
4	保存歯科学2（各論のまとめ）		八幡　祥生
5	発達歯科学1（総論のまとめ）	質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。（概ね1時間程度の事前学修）	丸谷由里子
6	発達歯科学2（各論のまとめ）		丸谷由里子
7	病理学（まとめ）	質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。（概ね1時間程度の事前学修）	小野寺　健
8	歯内療法学1（総論のまとめ）	質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。（概ね1時間程度の事前学修）	根本　英二
9	歯内療法学2（各論のまとめ）		根本　英二
10	歯科補綴学1（総論のまとめ）	質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。（概ね1時間程度の事前学修）	依田 信裕
11	歯科補綴学2（各論のまとめ）		依田 信裕
12	歯科矯正学1（総論のまとめ）	質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。（概ね1時間程度の事前学修）	穴田　一生
13	歯科矯正学2（各論のまとめ）		穴田　一生
14	歯周療法学1（総論のまとめ）	質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。（概ね1時間程度の事前学修）	根本　英二
15	歯周療法学2（各論のまとめ）		根本　英二

教科書	『ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策① 第5版 人体の構造と機能／歯・口腔の構造と機能／疾病の成り立ち及び回復過程の促進』歯科衛生士国家試験対策検討会　編 『ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策② 第5版 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み』歯科衛生士国家試験対策検討会　編 『ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策③ 第5版 歯科衛生士概論／臨床歯科医学1（臨床歯科総論／歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療／歯の欠損と治療）』歯科衛生士国家試験対策検討会　編 『ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策④ 第5版 臨床歯科医学2（顎・口腔領域の疾患と治療／不正咬合と治療／小児・高齢者・障害児者の理解と歯科治療）』歯科衛生士国家試験対策検討会　編 『ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策⑤ 第5版 歯科予防処置論／歯科保健指導論／歯科診療補助論』歯科衛生士国家試験対策検討会　編
参考文献	適宜プリントを配布する。
備考	1～6、8～15回目は遠隔（オンデマンド）で授業を実施する、授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

歯科衛生学科

- ナンバリング
- 学科教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価
- 実務経験を有する教員の科目一覧

1. ナンバリングの見方

【例】DH-1-○○○-01

DH	-	1	-	○○○	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

① 学科（専攻）識別番号

半角アルファベット（大文字）2 桁

全学共通教養教育科目：CO

歯科衛生学科：DH

② 科目レベル

教養科目：0（全学共通教養科目も学科独自教養科目も同じ）

専門支持科目：1

専門展開科目：2

（学科によって専門科目の区分が若干異なるので、基礎的科目分類から順に 1 から番号を振る）

③ 科目分類

半角アルファベット（大文字）3 桁

教養科目分野　人間と文化	HCU	Human & culture
教養科目分野　人間と社会	HSO	Human & society
教養科目分野　人間と科学	HSC	Human & science
歯科衛生基礎	DHB	Dental Hygiene Basic
歯科衛生臨床	DHC	Dental Hygiene Clinical
歯科衛生演習	DHP	Dental Hygiene Practice
臨床実習	CLT	Clinical Training
歯科衛生研究法	RDH	Research on Dental Hygiene

④ 連続番号

半角数字 2 桁　全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語	CO-0-HCU-02
暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
法律入門	CO-0-HSO-04
情報処理	CO-0-HSC-01

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	CO-0-HCU-01
		英語Ⅰ	CO-0-HCU-02
		英語Ⅱ	DH-0-HCU-01
		医療手話	DH-0-HCU-02
	人間と社会	暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02
		現代の社会	CO-0-HSO-03
		法律入門	CO-0-HSO-04
		コミュニケーション演習	DH-0-HSO-01
		心理学	DH-0-HSO-02
	人間と化学	情報処理	CO-0-HSC-01
		化学	CO-0-HSC-02
		スポーツレクリエーション	DH-0-HSC-01
専門教育分野	専門支持科目	解剖学	DH-1-DHB-01
		生理学	DH-1-DHB-02
		組織発生学	DH-1-DHB-03
		口腔解剖学	DH-1-DHB-04
		口腔生理学	DH-1-DHB-05
		歯牙解剖学	DH-1-DHB-06
		病理学	DH-1-DHB-07
		微生物学	DH-1-DHB-08
		薬理学	DH-1-DHB-09
		栄養学	DH-1-DHB-10
		生化学	DH-1-DHB-11
		臨床医学	DH-1-DHB-12
		衛生学・公衆衛生学	DH-1-DHB-13
		口腔衛生学	DH-1-DHB-14
		地域福祉保健	DH-1-DHB-15
		衛生行政・社会保障	DH-1-DHB-16
		社会福祉論	DH-1-DHB-17
		人間関係論	DH-1-DHB-18
	専門展開科目	歯科衛生士概論	DH-2-DHC-01
		歯内療法学	DH-2-DHC-02
		保存修復学	DH-2-DHC-03
		歯周療法学	DH-2-DHC-04
		歯科補綴学	DH-2-DHC-05

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
専門教育分野	専門展開科目	口腔外科学	DH-2-DHC-06
		歯科矯正学	DH-2-DHC-07
		小児歯科学	DH-2-DHC-08
		高齢者口腔保健学	DH-2-DHC-09
		障害者口腔保健学	DH-2-DHC-10
		歯科放射線学	DH-2-DHC-11
		口腔衛生管理	DH-2-DHC-12
		歯科予防処置法	DH-2-DHP-01
		う蝕予防処置法（臨床基礎）	DH-2-DHP-02
		歯周病予防法（臨床基礎）	DH-2-DHP-03
		う蝕予防処置法（臨床応用）	DH-2-DHP-04
		歯周病予防法（臨床応用）	DH-2-DHP-05
		保健指導論	DH-2-DHP-06
		保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）	DH-2-DHP-07
		保健指導演習Ⅱ（臨床応用）	DH-2-DHP-08
		保健指導演習Ⅲ（臨床総合）	DH-2-DHP-09
		口腔リハビリテーション論	DH-2-DHP-10
		口腔リハビリテーション演習	DH-2-DHP-11
		歯科診療補助法（基礎知識）	DH-2-DHP-12
		歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）	DH-2-DHP-13
		歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）	DH-2-DHP-14
		歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）	DH-2-DHP-15
		感染予防法	DH-2-DHP-16
		臨床検査法	DH-2-DHP-17
		救急法・救急蘇生法	DH-2-DHP-18
		介護技術の基礎	DH-2-DHP-19
		歯科医療請求事務	DH-2-DHP-20
		審美歯科演習	DH-2-DHP-21
		臨地実習Ⅰ（臨床基礎）	DH-2-CLT-01
		臨地実習Ⅱ（臨床応用）	DH-2-CLT-02
		臨地実習指導（臨床応用）	DH-2-CLT-11
		臨地実習Ⅲ（臨床総合）	DH-2-CLT-03
		臨地実習指導（臨床総合）	DH-2-CLT-12
		歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）	DH-2-RDH-01
		歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）	DH-2-RDH-02

歯科衛生学科　教員一覧

	職位	氏名	研究室	電話番号	E-mail
1	教授 (学科長)	小野寺（おのでら）　健（けん）	共同 研究室	022-217-0277	k_onodera@seiyogakuin.ac.jp
2	教授	伊藤（いとう）　恵美（えみ）			e_itou@seiyogakuin.ac.jp
3	講師	大宮（おおみや）　由布子（ゆうこ）			y_oomiya@seiyogakuin.ac.jp
4	講師	花渕（はなぶち）　静（しずか）			s_hanabuchi@seiyogakuin.ac.jp
5	助教	武山（たけやま）　真奈美（まなみ）			m_takeyama@seiyogakuin.ac.jp
6	助教	長南（ちょうなん）　真弓（まゆみ）			m_chounan@seiyogakuin.ac.jp
7	助教	西條（さいじょう）　佳奈（かな）			k_saijou@seiyogakuin.ac.jp
8	助手	伊藤（いとう）　明日香（あすか）			a_itou@seiyogakuin.ac.jp
9	助手	小野寺（おのでら）　晴香（はるか）			hk_onodera@seiyogakuin.ac.jp

歯科衛生学科　オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（１階事務室内にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格（単位認定）	秀（AA）	90点以上	4
	優（A）	80点以上90点未満	3
	良（B）	70点以上80点未満	2
	可（C）	60点以上70点未満	1
不合格（単位認定不可）	不可（D）	60点未満（※）	0
	評価不能（E）	（1）履修規程第６条第５項により、受験資格を有しない者 （2）資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

（※）再試験で合格の場合の成績評価は可（C）、GP は１ポイントとなります。

歯科衛生学科　実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
歯科衛生士概論	2	大宮　由布子　花渕　静	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
口腔衛生管理	1	伊藤　恵美	歯科衛生士として、大学病院での実務経験あり。
歯科予防処置法	2	大宮　由布子	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
歯周病予防法(臨床基礎)	2	伊藤　恵美	歯科衛生士として、大学病院での実務経験あり。
歯周病予防法(臨床応用)	2	伊藤　恵美	歯科衛生士として、大学病院での実務経験あり。
保健指導論	1	大宮　由布子	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
保健指導演習Ⅰ(臨床基礎)	1	花渕　静　武山真奈美	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
保健指導演習Ⅱ(臨床応用)	2	大宮　由布子　花渕　静	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
保健指導演習Ⅲ(臨床総合)	2	大宮　由布子	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
歯科診療補助法(基礎知識)	2	花渕　静　武山　真奈美 長南　真弓　西條　佳奈	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
歯科診療補助演習Ⅰ(基本技術)	2	武山　真奈美　長南　真弓 西條　佳奈	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
歯科診療補助演習Ⅱ(臨床技術)	2	花渕　静　武山　真奈美 長南　真弓　西條　佳奈	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
歯科診療補助演習Ⅲ(臨床総合)	2	花渕　静　武山　真奈美 長南　真弓　西條　佳奈	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
臨床検査法	1	花渕　静	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
歯科医療請求事務	1	三浦　悦子	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
審美歯科演習	1	花渕　静	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
	26	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	93	設置基準上の標準単位数	